

HP ProLiant Support Pack ユーザ ガイド



製品番号 376482-198
2009年3月（第8版）

© Copyright 2000, 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、WindowsおよびWindows Serverは、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。Intelおよびインテルはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

対象読者

このガイドは、Microsoft® Windows®, Windows Server® 2003、Windows Server® 2008、Linux、Smartコンポーネントの設定および操作、ならびにシステムおよびオプションへのファームウェアとソフトウェアのインストールについての知識や経験がある担当者を対象にしています。データ消失の危険があるため、このガイドで説明する手順を実際に行う際は、必ず、ファームウェアおよびソフトウェアの使用経験がある担当者が行うようにしてください。

目次

はじめに.....	6
PSPの概要.....	6
PSPのインストールのシナリオ.....	6
PSPの利点.....	7
PSP展開ユーティリティの入手.....	8
HPのWebサイト.....	8
HP SmartStart CD.....	8
PSPの更新.....	8
Subscriber's Choice.....	8
バージョン管理ツール.....	9
一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリの作成.....	9
Microsoft WindowsへのPSPのインストール.....	11
Microsoft Windows用PSPの概要.....	11
Microsoft Windows PSPバージョン7.90以降の最小要件.....	11
HP Smart Update Managerを備えたPSP.....	12
キーボードのサポート.....	12
Trusted Platform Module.....	13
初回実行.....	14
GUIを使用したローカル ホストへのインストール.....	17
GUIを使用した複数ホストへのインストール.....	29
Novell NetWareへのPSPのインストール.....	43
Novell NetWare用PSPの概要.....	43
NetWareサーバの最小要件.....	43
Novell NetWare用ProLiant Deployment Utility.....	44
NetWareサーバでのDeployment Utilityの使用シナリオ.....	45
Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのコマンド ライン パラメータ.....	46
Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのリターン コード.....	49
シナリオ1: CPQDPLOY.NLMによるコマンド ライン インストール.....	49
シナリオ2: CPQDPLOY.NLMによるグラフィカル インストール.....	49
シナリオ3: 各コンポーネントのコマンド ライン インストール.....	50
シナリオ4: 各コンポーネントのグラフィカル インストール.....	50
LinuxへのPSPのインストール.....	51
Linux用PSPの概要.....	51
Linuxサーバの最小要件.....	51
ProLiant用LDU.....	53
Linuxサーバへの展開ユーティリティの使用シナリオ.....	55
Linux用PSPのコマンド ライン構文.....	55
LDUのリターン コード.....	57
シナリオ1: ターミナル ウィンドウによるコマンド ライン インストール.....	58
シナリオ2: gtkベースのGUIによるグラフィカル インストール.....	61
高度な方法について.....	67
WindowsへのPSPの高度なインストール方法.....	67
コンポーネントの設定.....	67

コマンド ライン インストール	68
LinuxへのPSPの高度なインストール方法	75
コンポーネントの設定	75
スクリプト化されたインストール	78
ファームウェアとソフトウェアの同時インストール	83
サーバ仮想化検出およびサポート	84
HP Smart Update Managerを使用したIPv6ネットワークの設定	84
Windows Server 2003用のIPv6の設定	84
Windows Server 2008用のIPv6の設定	87
Linux用のIPv6の設定	89
トラブルシューティング	92
Microsoft Windows用PSPのインストールに関するトラブルシューティング	92
NetWare用PSPのインストールに関するトラブルシューティング	95
Linux用PSPのインストールに関するトラブルシューティング	96
IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング	98
IPv6 Windows Server 2003環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング	98
IPv6 Windows Server 2008環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング	99
IPv6 Red HatおよびNovell SUSEベースのLinux環境でのHP Smart Update Managerの トラブルシューティング	99
テクニカル サポート	101
参照資料	101
オペレーティング システム情報	101
付録—Microsoft Windows 7.80以前へのPSPのインストール	102
Microsoft Windows 7.80以前用PSPの概要	102
Microsoft Windowsバージョン7.80以前の最小要件	103
Microsoft Windows用RDU	103
メイン ウィンドウ	104
メニュー バー	105
[レポジトリ]ツールバー	105
[ターゲット マシン]ツールバー	105
[インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバー	106
レポジトリ ビュー ツリー	106
ターゲット コンピュータ リスト	106
リビジョン履歴とプロパティ	107
コンポーネントの事前設定	108
Windowsベース システムでのコンポーネントまたはPSPのインストール	110
Windowsベース システムでのインストールの結果	112
Microsoft Windows用リモート展開コンソール ユーティリティ	114
リモート展開コンソール ユーティリティのコマンド ライン構文	114
リモート展開コンソール ユーティリティのコマンド ライン引数	114
リモート展開コンソール ユーティリティのコマンド ラインの例	115
単一コンポーネントのインストール	116
単一コンポーネントのコマンド ライン構文	117
単一コンポーネントのコマンド ライン引数	117
単一コンポーネントのコマンド ラインの例	118
単一コンポーネントのリターン コード	118
Windowsベース システムでの展開ユーティリティの使用シナリオ	119
シナリオ1：RDUによる1台のターゲット システムへのグラフィカル インストール	120
シナリオ2：リモート展開コンソール ユーティリティによる1台のターゲット システムへの コマンド ライン インストール	124

シナリオ3：リモート展開コンソール ユーティリティによる複数のターゲット システムへの コマンド ライン インストール	125
シナリオ4：HP Systems Insight Managerによって管理されている複数のターゲット システムへの コマンド ライン インストール	127
頭字語と略語	129
索引	132

はじめに

PSPの概要

HP ProLiant Support Pack (PSP) は、ProLiantシステム用に最適化されたドライバ、ユーティリティ、およびマネジメント エージェントを、各オペレーティング システム用にバンドルしたものです。各PSPIは、定義およびテスト済みのバンドルであり、システム ソフトウェアの効率的なインストール、アップグレード、および管理に役立つセットアップおよびメンテナンス ツールが含まれています。これらのPSPIには、集中ソフトウェア レポジトリのソフトウェア アップデートをローカルまたはリモート サーバ システムにインストールできる、Microsoft® Windows®、Novell NetWare、およびLinuxサーバ環境用のツールが含まれています。

注： このガイドでは、Microsoft® Windows® 2003バージョン7.90以降へのPSPのインストールについて説明しています。Microsoft® Windows® 2003バージョン7.80以前へのPSPのインストールについては、「付録—Microsoft Windows 7.80以前へのPSPのインストール」（102ページ）を参照してください。

PSPIについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）を参照してください。このWebサイトからは、最新バージョンのPSPをダウンロードすることもできます。

PSPのインストールのシナリオ

PSPIは、各オペレーティング システム固有のグラフィカル ユーティリティまたはコマンド ライン ユーティリティを使用してインストールできます。

オペレーティング システム環境	シナリオ
Microsoft® Windows®	<ul style="list-style-type: none">• HPSUM.EXEによる1台のホスト システムへのグラフィカル インストール• HP Smart Update Manager GUIによる複数のホスト システムへのリモート グラフィカル インストール• HP Smart Update Managerコマンド ライン インタフェースによる1台のホスト システムへのコマンド ライン インストール• HP Smart Update Managerコマンド ライン インタフェースによる複数のホスト システムへのコマンド ライン インストール• HP Systems Insight Managerによって管理されている複数のホスト システムへのコマンド ライン インストール

オペレーティング システム環境	シナリオ
Novell NetWare	<ul style="list-style-type: none"> • CPQDPLOY.NLMによるコマンド ライン インストール • CPQDPLOY.NLMによるグラフィカル インストール • 各パッケージのコマンド ライン インストール • 各パッケージのグラフィカル インストール
Linux	<ul style="list-style-type: none"> • ターミナル ウィンドウによるコマンド ライン インストール • gtkベースのGUIによるグラフィカル インストール

注：現在サポートされているオペレーティング システムのリストについては、HPのPSPのWebサイト <http://www.hp.com/servers/psp>（英語）を参照してください。

このガイドでは、PSPおよび各サポート ソフトウェア コンポーネントの追加機能についても説明します。特定の Microsoft® Windows Server™ 2003、Microsoft® Windows Server™ 2003 x64、Microsoft® Windows Server™ 2008、Microsoft® Windows Server™ 2008 x64、Novell NetWare、およびLinuxサーバ環境に合わせて変更できるインストールの例についても説明します。

注：PSPをインストールした後、オペレーティング システムのサービス パック、サポート パック、またはその他のオペレーティング システムのアップデートをインストールする場合、PSPを再インストールすることをおすすめします。

PSPの利点

以下のようなPSPの特長によって、ソフトウェア メンテナンスがより簡単になります。

- サーバの管理性の向上
- 管理者がリモートでシステムを更新可能

注：リモート機能は、Windows®用PSP展開ユーティリティでのみ提供されています。

- サーバ メンテナンス費用の低減
- 作業時間の短縮

PSPIは、Windows®、NetWare、およびLinuxオペレーティング システム プラットフォームを使用するシステム管理者に、ソフトウェア メンテナンスに関する以下のような利点を提供します。

- 自動インストール コンポーネントと、ソフトウェア アップデートに関する分かりやすい説明を提供
- 個別に、またはSupport Packの一部としてコンポーネントのインストールが可能
- インストール方法およびバージョンの制御機能により、ハードウェア、ソフトウェア、およびオペレーティング システムの依存関係を自動的に調べて、適切なソフトウェア アップデートと最新バージョンのドライバのみをインストールし、最適化されたシステム構成を実現
- サイレント コマンドライン オプションおよびリターン コードにより、スクリプト作成や、PSPとHP Systems Insight Manager（Windows®およびLinuxのみ）およびHP SmartStart Scripting Toolkitとの拡張統合が可能

- Rapid Deployment Packの一部として、設定済みのサーバスクリプト ファイルとの統合が可能
- 共通ログ ファイルにより、ホスト サーバへのソフトウェア インストール履歴を単一表示で容易に確認可能
- すぐに使用できるネイティブ オペレーティング システム ファイル フォーマットの内容で、CDまたは共有ネットワーク ドライブからの直接インストールにより作業時間が短縮

このガイドで説明される手順に従うことにより、PSPのスケラビリティが拡張され、大規模メンテナンスとWindows®、NetWare、およびLinuxプラットフォームへのソフトウェア アップグレードのインストールがサポートされます。



注意： PSPおよび各コンポーネントは、これらのソフトウェア コンポーネントの使用に関する十分な経験と知識を持っている方だけが使用するようにしてください。PSPユーティリティおよびコンポーネントを使用してサーバのインストールやソフトウェア コンポーネントのメンテナンスを行う前に、障害が発生してもミッション クリティカルなシステムが影響を受けないように、ホスト サーバのデータのバックアップをとり、他の必要な予防措置をすべて実行してください。

PSP展開ユーティリティの入手

PSP展開ユーティリティは、HPのWebサイトまたはHP CDメディアから入手できます。

HPのWebサイト

サポートされているMicrosoft® Windows®, Novell NetWare、およびLinuxの各オペレーティング システム用の最新バージョンのPSPおよび各コンポーネントは、HPのPSPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）から入手できます。

HP SmartStart CD

Webアクセスを利用できない場合やダウンロード速度が遅すぎる場合は、PSP展開ユーティリティ、PSP、および個別のコンポーネントをWindows®およびLinux用の該当するHP SmartStart CDから入手することもできます。

注： SmartStart 8.0以降では、Novell NetWare用のPSPおよび個別コンポーネントはPSPのダウンロードページ（<http://www.hp.com/servers/psp>）以外からは入手できません。

HP SmartStart CDや無償でダウンロードできるその他のCDについて詳しくは、HPのWebサイトのSmartStartダウンロード ページ<http://www.hp.com/jp/servers/smartstart>を参照してください。

PSPの更新

HP Subscriber's ChoiceやHP製のバージョン管理ツールは、PSPおよび個別のコンポーネントを最新バージョンに維持するために役立ちます。

Subscriber's Choice

Subscriber's Choiceを利用すると、SmartStartや他のFoundation Packソフトウェアの最新リリースに関する情報を、電子メール通知によってアクティブに入手することができます。Subscriber's Choiceでは、安全なWebサイトを使用して、ユーザ入力プロファイルに基づき、登録ユーザに製品変更やカスタマ アドバイザリを電子メールで事前に通知します。この無償サービスは、HPのSubscriber's ChoiceのWebサイト<http://www.hp.com/go/subscriberschoice>（英語）で登録できます。

バージョン管理ツール

VCRMとVCAは、Web対応のInsightマネジメントエージェントです。HP Systems Insight Managerは、これらのInsightマネジメントエージェントを使用して、ソフトウェアの更新作業を簡素化します。

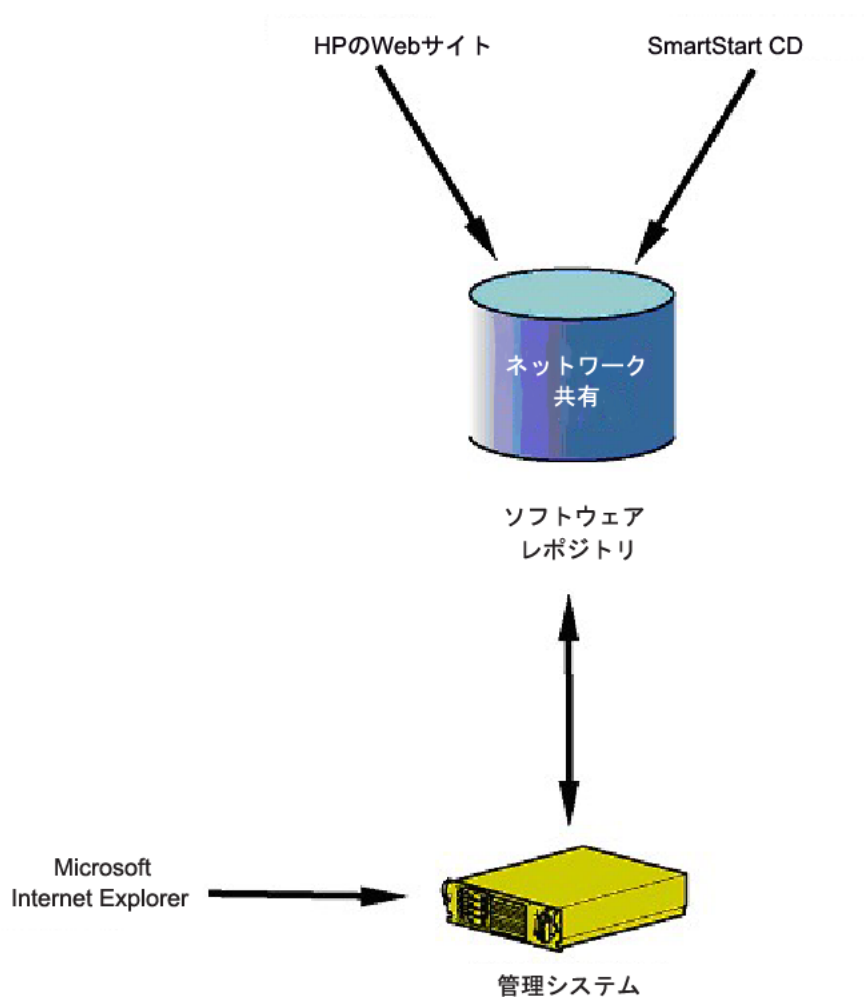
- **VCRM**は、レポジトリに格納されているWindows®用およびLinux用PSPのグラフィカルな表示を提供します。VCRMは、HPが提供する最新バージョンのソフトウェアでレポジトリを自動的に更新するように設定できます。
- **VCA**は、VCRMによって管理されるレポジトリを監視するように設定できます。これにより、バージョンの比較やソフトウェアの更新が容易になります。

バージョン管理ツールについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim>から入手できるHP Systems Insight Managerのヘルプガイド、およびHPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/manual>から入手できる『バージョンコントロール ユーザ ガイド』を参照してください。

一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリの作成

一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリからPSPおよび各コンポーネントをインストールすることにより、作業時間が短縮され、ソフトウェア メンテナンスとWindows®、NetWare、およびLinuxベースの各システムへのインストール手順が標準化されます。

オペレーティング システム プラットフォーム間での最大限の柔軟性を得るには、ソフトウェア レポジトリを Windows®共有ネットワーク ドライブに配置する必要があります。レポジトリは、次の図に示されている各リソースから更新できます。



Microsoft WindowsへのPSPのインストール

Microsoft Windows用PSPの概要

この章では、Microsoft® Windows® 2003（バージョン7.90以降）とMicrosoft® Windows® 2003 x64 Edition（バージョン7.90以降）、およびMicrosoft® Windows® 2008（バージョン8.00以降）とMicrosoft® Windows Server™ 2008 x64 Edition（バージョン8.00以降）でのPSPのインストール方法について説明します。Microsoft® Windows® 2000（バージョン7.60以前）、Microsoft® Windows® 2003（バージョン7.80以前）、およびMicrosoft® Windows® 2003 x64 Edition（バージョン7.80以前）へのPSPのインストールについて詳しくは、「付録—Microsoft Windows 7.80以前へのPSPのインストール」（102ページ）を参照してください。

HPでは、コンポーネントの設定とMicrosoft® Windows®へのPSPのインストールのためにHP Smart Update Managerを提供しています。これらのPSPは、HPのPSPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）またはSmartStart CD 7.90以降から入手できます。

注： Smartコンポーネントは、個別にインストールすることもできます。詳しくは、「単一コンポーネントのインストール」（116ページ）を参照してください。

注： PSPには、多数のファイルが含まれています。PSPを正常にインストールするには、すべてのファイルがHPSUM.EXEプログラムと同じディレクトリに存在する必要があります。

Microsoft® Windows®バージョン7.90以降用のProLiant Support Packから、ファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントを同時にインストールできるようになりました。この新機能について詳しくは、「ファームウェアとソフトウェアの同時インストール」（83ページ）を参照してください。

Microsoft Windows PSPバージョン7.90以降の最小要件



重要： ソフトウェア アップデートをホスト サーバにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にホスト サーバの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

Microsoft® Windows®ホストに正常にコンポーネントをインストールするには、以下の最小要件が満たされていなければなりません。

- サポートされているWindows®オペレーティング システムが動作し、512MBのメモリを搭載するローカル管理システムを使用する必要があります。
- サポートされているWindows®オペレーティング システムを実行し、ソフトウェアのアップグレードを必要とする1台または複数のリモート ホスト サーバが稼動している必要があります。アップグレードを必要とするサーバがローカル管理システム（ローカル ホスト）だけの場合は、リモート ホスト サーバは必要ありません。

- ハードディスク ドライブに十分な空き容量（一般に、インストールするコンポーネントのファイル サイズの2倍以上の容量）がある必要があります。
- WMIが有効になっている必要があります。

注：Windows Server® 2008の任意のエディションで、HP Smart Update Managerのリモート インストール機能を使用してみる場合、ファイル/プリント サービス機能が有効になっていることとWindows® ファイアウォールでファイル/プリント サービスが例外に設定されていることを確認してください。このような設定になっていない場合、HP Smart Update ManagerはリモートのWindows®ターゲット サーバをデプロイメントできません。

- 管理システムからシステムにアクセスできるように、すべてのリモート ホスト サーバが、同じネットワークに接続され、TCP/IPを使用している必要があります。
- 各ホスト サーバに管理者権限を持つアカウントが必要です。各ホスト サーバの管理者アカウントのユーザ名とパスワードは、ローカル管理システムと同じにしておくことをおすすめします。管理者権限のアカウントがこのように設定されていない場合は、各リモート サーバのユーザ名とパスワードを利用できるようにしておいてください。あるいは、ホスト サーバの管理者権限を持つローカル管理システムのドメイン アカウントを使用することもできます。
- ホストの範囲のための開始IPアドレスと終了IPアドレスは、どちらも同じサブネットに含まれている必要があります。



注意：Microsoft®社では、Windows Server™ 2003からWindows Server™ 2008にアップグレードする前にシステムからすべてのソフトウェアを削除することを推奨しています。アップグレード段階でソフトウェア アプリケーションがシステムに残っている場合、Microsoft®社は、アップグレード完了後のオペレーティング システムやソフトウェアの安定性を保証しません。

HP Smart Update Managerを備えたPSP

Microsoft® Windows®バージョン7.90以降用のProLiant Support Packから、HP Smart Update Managerにより、Windows®環境でサポートされる単一の使いやすいインタフェースでPSPソフトウェアおよびファームウェア コンポーネントをインストールできるようになりました。このユーティリティは、既存のソフトウェアおよびファームウェア コンポーネントを従来どおりサポートしながら、インストール プロセス全体を簡素化します。SETUP実行可能ファイル（SETUPC.EXE、SETUPEX.EXE、およびSETUP.EXE）の実行は不要になります。HP Smart Update Managerユーティリティが、この機能を提供します。また、このユーティリティは、依存関係を自動的に調べて、適切なアップデートをインストールし、最適化されたシステム構成を実現する、インストール機能およびバージョンの制御機能を備えています。

HP Smart Update Managerバージョン3.2.0以降では、永続データ（ホストおよびグループ）の保存位置が変更されています。前のバージョンのHP Smart Update Managerで入力した永続データは、HP Smart Update Managerバージョン3.2.0以降を初めて実行したときに自動的に新しい位置に移動されます。前のバージョンのHP Smart Update Managerでは、このデータを使用できなくなります。このプロセスは、1回だけ実行されます。永続データの移動後に前のバージョンのHP Smart Update Managerを実行し、新しい永続データを入力する場合、HP Smart Update Managerバージョン3.2.0以降を実行したとき、新しい永続データは新しい保存位置に移動されません。

キーボードのサポート

HP Smart Update Managerグラフィカル ユーザインタフェースには、一般的なタスクを素早く管理および制御できるアクセラレータ キーがあります。正しい操作を行うために、次の点に注意してください。

- オペレーティング システムによっては、下線付きの文字に対応するタスクを表示させるために**ALTキー**を押す必要があります。
- アクセラレータ キーは**ALTキー**と**下線付きの文字**のキーを押すことで動作します。

- ホストやグループなどの項目を選択するには、**スペース キー**を押します。
- リストから選択するには**Tab**キーを押し、次に**矢印**キーを押してラジオ ボタンを切り替えます。

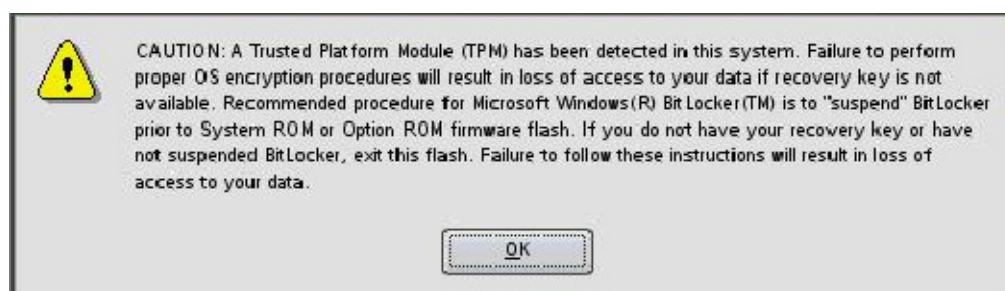
Trusted Platform Module

TPMは、BitLockerと組み合わせて使用するモジュールで、システムの状態を評価し、ROMイメージの変更を検出すると、ユーザがリカバリ キーを提供できない場合はWindows®ファイル システムへのアクセスを制限します。HP Smart Update Managerは、システムでTPMが有効になっているかどうかを検出します。ProLiantのいくつかの新しいモデルでは、システムまたはターゲットとして選択されたリモート サーバでTPMが検出されると、フラッシュの前にiLO、Smartアレイ、およびBIOS用のHP Smart Update Managerユーティリティがユーザに警告を行います。ユーザが一時的なBitLockerの無効化もフラッシュのキャンセルも行わない場合、再起動後、ユーザ データにアクセスするにはBitLockerのリカバリ キーが必要になります。

リカバリ イベントは、次の場合に発生します。

- Microsoft BitLockerのドライブ暗号化を使用する際、システムBIOSのフラッシュの前に、ユーザがBitLockerを一時的に無効にしなかった場合
- ユーザがiLO、Smartアレイ、およびNICファームウェアの評価を選択した場合

HP Smart Update ManagerがTPMを検出すると、警告メッセージがポップアップ表示されます。



TPMシナリオ

TPMが検出された場合、次の表に示すような状況が発生する可能性があります。

シナリオ	結果
TPMが検出され有効。インストールがサイレント インストールではなく、システムROMのアップデートが必要な場合	警告メッセージがポップアップ表示されます。 [OK] を選択すると、作業を続行できます。インストールは取り消されません。
TPMが検出され有効。インストールはサイレント インストール。/tpmbypassスイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバに適用する必要がある場合	警告は表示されません。新しいログ ファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。サイレント インストールが行われているので、インストールは終了し続行できません。
TPMが検出され、オプションROMの評価に使用できる。インストールはサイレント インストールではなく、システムROMの更新が必要な場合	警告メッセージがポップアップ表示されます。 [OK] を選択すると、作業を続行できます。インストールは取り消されません。
TPMが検出され、オプションROMの評価に使用できる。インストールはサイレント インストールで、/tpmbypassスイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバに適用する必要がある場合	警告は表示されません。新しいログ ファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。サイレント インストールが行われているので、インストールは終了し続行できません。

TPMが検出され有効。インストールはサイレントインストールで、/tpmbypassスイッチが指定されている場合	インストールは行われます。
---	---------------

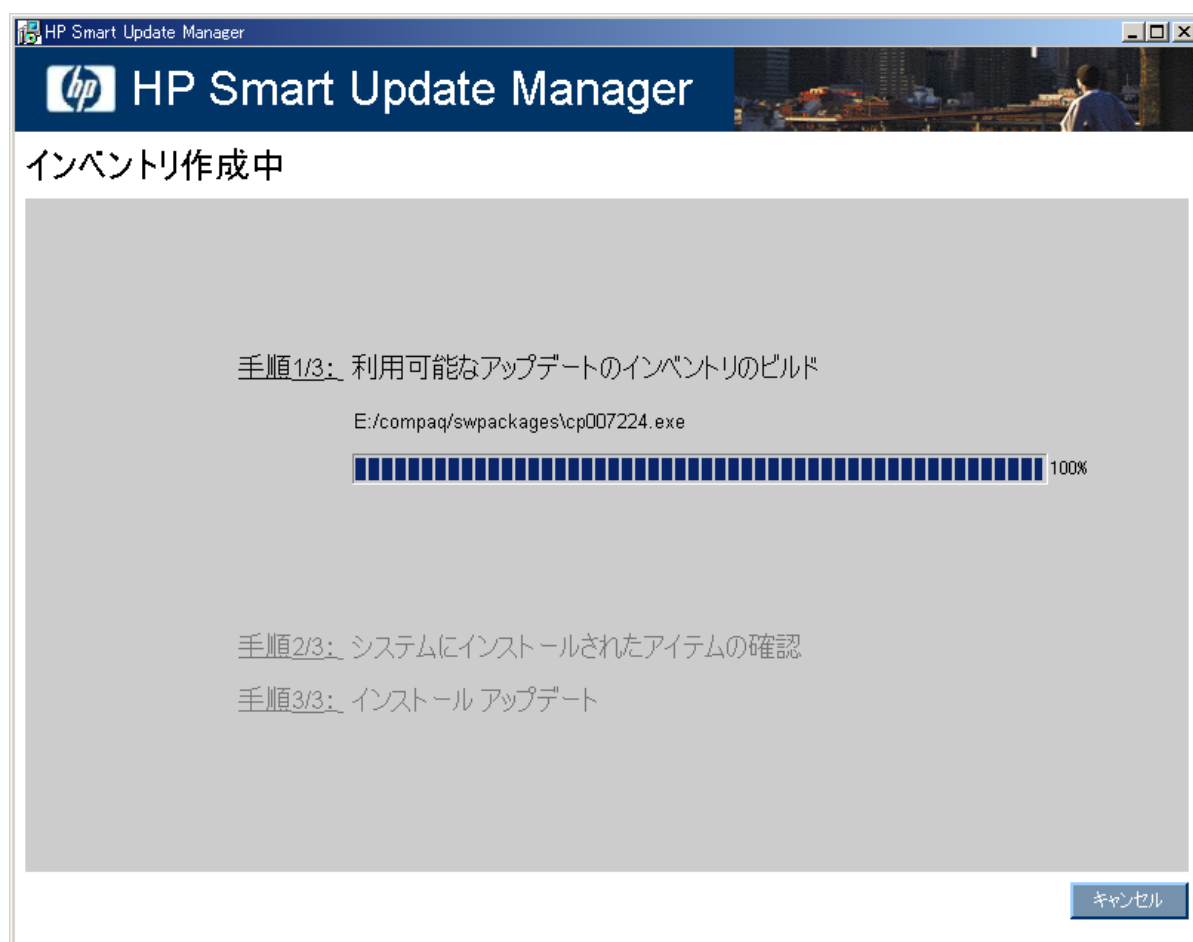
この他の状況は、通常のインストール手順には影響しません。

初回実行

HP Smart Update Managerの使いやすいグラフィカル インタフェースから、ソフトウェアおよびファームウェア コンポーネントをインストールし、管理することができます。HP Smart Update ManagerはPSPに付属しています。インストールを開始するには、**HPSUM.EXE**を実行します。

注： PSPには、多数のファイルが含まれています。PSPを正常にインストールするには、すべてのファイルがHPSUM.EXEプログラムと同じディレクトリに存在する必要があります。

HP Smart Update Managerが使用可能なアップデートのインベントリを作成している間、[インベントリ作成中]画面が表示されます。HP Smart Update Managerは、システムをチェックしてインストール済みのアイテムを確認してから、更新をインストールします。



インストール ショー ホストの初回選択

インベントリ プロセスが完了すると、[インストール ショー ホストの選択]画面が表示されます。

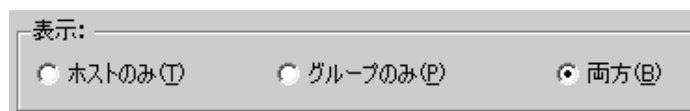


[インストール ショー ホストの選択]画面で、コンポーネントをインストールするホストを選択できます。システムでHP Smart Update Managerを初めて実行する際、デフォルトでは、ローカル ホスト以外は選択できません。ただし、GUIを使用して、リモートホストをターゲットとして選択することができます。複数のリモートインストールについて詳しくは、「GUIを使用した複数ホストへのインストール」(29ページ)を参照してください。

[インストール ショー ホストの選択]画面には、以下の情報が表示されます。

- [ホスト名] - ホストのIPアドレスまたはDNS名が表示されます。
- [種類] - システムをホストとグループに分類します。
- [最終使用日] - 最近使用されたホスト順にリストをソートすることができます。
- [説明] - ホストについてユーザが定義した説明が表示されます。

[インストール ショー ホストの選択]画面で、[リモート ホストまたはグループ]オプションを選択する場合、[ホストのみ]、[グループのみ]、または[両方]を選択して、ホストのリストを整理することができます。



[インストール ショー ホストの選択]画面では、以下のボタンも表示されます。

- [ホストの管理] - ホストを追加、編集、および削除できます。
- [グループの管理] - グループを追加、編集、および削除できます。

- [編集] - 選択したホストを編集できます。
- [次へ] - インストール プロセスの次の手順に進みます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

インストール プロセスを進めるには、**[次へ]**をクリックしてください。システムの検出で1つまたは複数の定義済みバンドルが検出されると、[バンドル フィルタの選択]画面が表示されます。

フィルタリングするバンドルの初回選択

[バンドル フィルタの選択]画面には、システムで利用できる定義済みバンドルに関する情報が表示され、インストールするバンドルを選択できます。また、この画面では、非バンドル製品バージョンのオプションを設定できます。



[バンドル フィルタの選択]画面について詳しくは、「フィルタリングするバンドルの選択」（19ページ）を参照してください。次に進んでシステムの検出を行うには、**[OK]**をクリックします。複数のリモート システムにインストールする場合は、ホストの認証情報を入力します。[インストールするアイテムを選択してください]画面が表示されます。

インストールするコンポーネントの初回選択

[インストールするアイテムを選択してください]画面では、システムにインストールできるコンポーネントが表示され、インストールするコンポーネントを選択したり、削除したりできます。



[インストールするアイテムを選択してください]画面について詳しくは、「インストールするコンポーネントの選択」(20ページ)を参照してください。

GUIを使用したローカル ホストへのインストール

HP Smart Update Managerは、Smart コンポーネントをローカル ホストあるいは単一または複数のリモート ホストにインストールできます。Smart Update ManagerのGUIを使用すると、ローカル ホストにコンポーネントを簡単にインストールできます。

インストレーション ホストの選択

ローカルホストでインストールプロセスを続行するには、[インストレーションホストの選択]画面でホストを選択して[次へ]をクリックします。

HP Smart Update Manager

インストレーションホストの選択

☒ ローカルホスト(DL385G5XL) ☐ リモートホストまたはグループ(一覧から選択)

ホストの管理(U) グループの管理(G)

ホスト名	種類	最終使用日	説明
192.168.10.126	ホスト		DL385G2
DL320S	ホスト		Windows Server
Group1	グループ		SQL Server

表示: ☒ ホストのみ ☐ グループのみ ☐ 両方

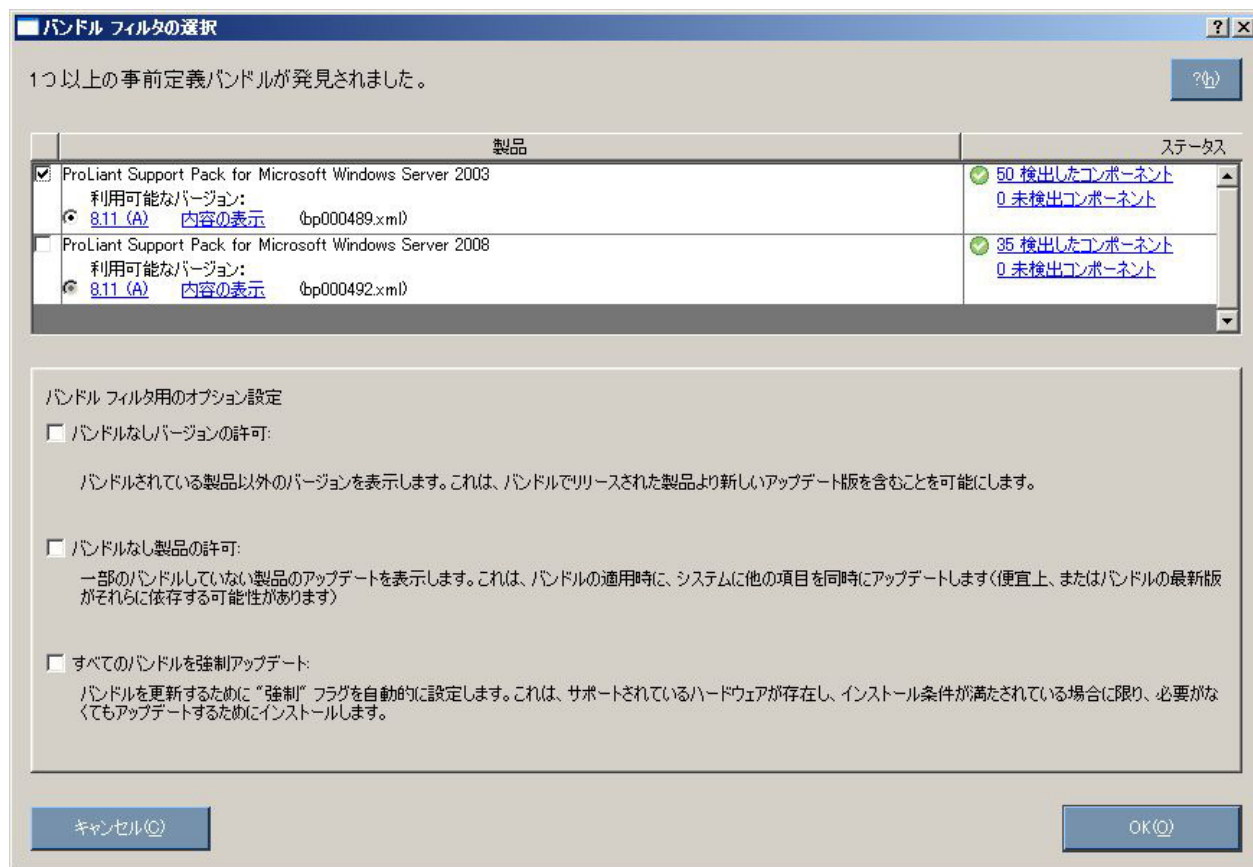
編集(E)

終了(X) 次へ(N) >

HP Smart Update Managerがローカルシステムにすでにインストールされているアイテムについて確認する間、[検出プロセス]画面が表示されます。

フィルタリングするバンドルの選択

検出プロセスが完了すると、[バンドル フィルタの選択]画面が表示されます。



[バンドル フィルタの選択]画面は、2つのセクションに分かれています。

画面の上部には、製品およびステータス情報が表示されます。

- [製品] - システムで検出された定義済みバンドルの製品名が表示されます。利用可能なバージョンに関する情報も表示されます。
- [ステータス] - インストールの準備ができているかどうかが表示されます。特定されたバンドルのコンテンツに関する追加情報も表示されます。

画面の下部には、インストールのオプションが表示されます。[Installation Options]セクションでは、非バンドル製品バージョンのオプションを設定できます。

- バンドルに含まれる製品のすべてのバージョンを表示するには、[バンドルなしバージョンの許可]を選択します。このオプションにより、バンドルでリリースされているものよりも新しい可能性のあるアップデートを含めることができます。
- バンドルに含まれていない製品のアップデートを表示するには、[バンドルなし製品の許可]を選択します。このオプションにより、バンドルを適用するときに、システムの他のコンポーネントを更新できます。
- バンドル製品のインストールプロセスを強制的に実行するには、[すべてのバンドルを強制アップデート]を選択します。このオプションにより、インストールされているバージョンがバンドルに含まれるコンポーネントと同じかそれより新しい場合でもバンドル製品をインストールできます。これにより、インストールされているソフトウェアをダウングレードできます。

PSPバージョン履歴を表示するには、[製品]フィールドのバージョン番号をクリックします。

バンドルコンテンツのリストを表示するには、[内容の表示]をクリックします。このリストは、[ステータス]フィールドのコンポーネントの番号をクリックしても表示されます。

検出されないコンポーネントのリストを表示するには、[未検出コンポーネント]リンクをクリックします。検出されないコンポーネントは、ソース メディアまたはHPのWebサイト<http://www.hp.com>（英語）から入手できます。

インストール プロセスを進めるには、[OK]をクリックしてください。

インストールするコンポーネントの選択

フィルタリングするバンドルを選択すると、[インストールするアイテムを選択してください]画面が表示されます。



[インストールするアイテムを選択してください]画面には、以下のセクションが表示されます。

- [製品] - 選択したアイテムがインストールされるシステムが表示されます。
- [ステータス] - インストールの準備ができているかどうかが表示されます。
- 再起動のセクション - 再起動について設定し、どの時点で再起動するかを指定します。
- コンポーネント選択ウィンドウ - インストールするコンポーネントを指定します。

インストールされているNICコンポーネントの一部だけを更新する場合は、表示されるウィンドウで更新するデバイスを選択してください。デバイス用に表示されているNICファームウェアにバージョンがない場合、そのファームウェアをHP Smart Update Managerを使用してデバイスに追加することはできません。

[インストールするアイテムを選択してください]画面では、以下のボタンも表示されます。


- [すべての選択] - 適用可能なすべてのコンポーネントを、インストール対象として選択します。
- [すべての選択解除] - インストール対象として選択されているすべてのコンポーネントの選択を解除します。
- [デフォルト] - 製品インストールウィンドウの選択項目をデフォルトビューに戻します。デフォルトはローカル システムの既存の設定に基づいています。

- [インストール] - 選択されたすべてのコンポーネントをインストールします。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

注： HP Smart Update Managerは、自己検出コンポーネントのサブリメンタル アップデートはサポートしません。自己検出されたコンポーネントは、HP Smart Update Managerをオンラインで実行する場合にのみ使用することができます。

[インストールするアイテムを選択してください]画面のコンポーネント選択ウィンドウは、システムによって異なるいくつかのセクションに分かれています。このセクションには、以下の見出しが含まれます。

- [ユーザにより未選択] - このセクションのコンポーネントはユーザが選択を解除しており、インストールされません。

ユーザにより未選択			
<input type="checkbox"/>	HP ProLiantインテグレートド マネジメント ログ ビューア インストールされたバージョン: 5.13.0.0 利用可能なバージョン: 5.20.0.0	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	
<input type="checkbox"/>	System Management Homepage インストールされたバージョン: 2.1.10.186 利用可能なバージョン: 2.1.11.197	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	 設定可能 今すぐ設定
<input type="checkbox"/>	HP ProLiant内蔵Lights-Outマネジメントインタフェース ドライバ インストールされたバージョン: 1.12.0.0 利用可能なバージョン: 1.13.0.0 (B)	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	

- [インストール不必要] - このセクションのコンポーネントを更新する必要はありません。ただし、更新することはできます。コンポーネントを更新するには、コンポーネントを選択して[インストール オプション]をクリックします。

インストール不必要			
<input type="checkbox"/>	ATI ES1000ビデオコントローラ ドライバ インストールされたバージョン: 6.14.10.6606 利用可能なバージョン: 6.14.10.6606 (B)	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新	インストール オプション
<input type="checkbox"/>	HP ProLiant DL380 G5(P56)サーバ インストールされたバージョン: 2007.10.04 利用可能なバージョン: 2007.10.04	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新	インストール オプション
<input type="checkbox"/>	HP NULL IPMI Controller Driver for Windows 2000/Windows Server 2003 インストールされたバージョン: 1.0.0.0 利用可能なバージョン: 1.0.0.0 (E)	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新	インストール オプション

- [フィルタリングにより除外] - このセクションのコンポーネントは、フィルタリング オプションにより除外されました。[バンドル フィルタの選択]のオプションを使用すると、1つのターゲットで除外するコンポーネントを変更することができます。ターゲットが複数ある場合は、各ターゲットで作業を繰り返す必要があります。

フィルタリングにより除外			
<input type="checkbox"/>	HP NCシリーズBroadcomオンライン ファームウェア アップグレード ユーティリティ for インストールしたバージョン: 詳しくはデバイスを参照してください 利用可能なバージョン: 2.1.0.8 デバイスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	
<input type="checkbox"/>	HP ProLiant DL380 G5(P56)サーバ インストールされたバージョン: 2007.10.04 利用可能なバージョン: 2007.10.04	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	
<input type="checkbox"/>	SmartアレイP400およびP400i インストールされたバージョン: 4.06 利用可能なバージョン: 4.12	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	

- [インストールされる最新版]- 指定したシステムで、このセクションのコンポーネントをインストールできます。

インストールされる最新版

<input checked="" type="checkbox"/>	HP ProLiantインテグレートド マネジメント ログ ビューア インストールされたバージョン: 5.13.0.0 利用可能なバージョン: 5.20.0.0	インストール準備完了		
<input checked="" type="checkbox"/>	System Management Homepage インストールされたバージョン: 2.1.10.186 利用可能なバージョン: 2.1.11.197	インストール準備完了	設定可能 今すぐ設定	
<input checked="" type="checkbox"/>	HP ProLiant内蔵Lights-Outマネジメント インタフェース ドライバ インストールされたバージョン: 1.12.0.0 利用可能なバージョン: 1.13.0.0 (B)	インストール準備完了		

- [オプション アップデート]- このセクションのコンポーネントは、製品がまだインストールされていない場合やインストールされているが最新のものではない場合でも、デフォルトではインストール対象として選択されません。この項のコンポーネントをインストール セットに含める場合は、そのコンポーネントを選択する必要があります。

オプション アップデート

<input type="checkbox"/>	HP InsightマネジメントWBEM Provider インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 2.1.0.0		設定可能 今すぐ設定	
--------------------------	--	--	-------------------------------	--

- [デバイス ドライバがインストールされていません]- システムでこの項のコンポーネントがサポートしているデバイスが検出されていますが、デバイス ドライバがインストールされていません。この項のコンポーネントをインストール対象にするには事前にHP Smart Update Managerの要求に応じてデバイス ドライバをインストールする必要があります。デバイス ドライバをインストールしてください。

デバイスドライバがインストールされていません

<input type="checkbox"/>	Online ROM Flash Component for Windows - HP Integrated Lights-Out 2 インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 1.43	<input checked="" type="checkbox"/> サポートされないデバイス		
--------------------------	---	--	--	--

[ステータス]フィールド

ステータス: ☒ 選択されていません

[インストールするアイテムを選択してください]画面の[ステータス]フィールドには、インストールの準備ができているかどうかが表示されます。

アイコン	テキスト	説明
	レディ	選択されたすべてのコンポーネントをインストールする準備ができました。
	すでに最新	コンポーネントのインストールは不要です。
	選択されていません	インストール対象として選択されているコンポーネントはありません。
	xクリティカル アクション	コンポーネントxは依存関係に問題があるため、インストールする準備ができません。ここで、xはコンポーネントの番号です。依存関係が適切なものになるかコンポーネントのインストール対象としての選択が解除されるまで、インストール プロセスを進めることができません。

再起動セクション

[インストールするアイテムを選択してください]の再起動セクションでは、希望する再起動の動作について設定できます。

☐ インストール後、システムを再起動(E)

☒ 必要な場合(N) ☐ 毎回(A)

アップデートがインストールされた後にシステムが再起動するように設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[インストール後、システムを再起動]**をクリックします。
2. **[毎回]**または**[必要な場合]**をクリックします。

[毎回]を選択すると、コンポーネントのインストールが失敗した場合を除いて、システムは必ず再起動します。**[必要な場合]**を選択すると、コンポーネントのインストールが失敗した場合を除いて、少なくとも1つのコンポーネントで必要な場合は再起動が行われます。

再起動までの時間を変更したり、再起動のメッセージを変更したりする場合は、**[再起動オプション]**をクリックします。**[再起動オプションの設定]**画面が表示されます。

変更を加えて、**[OK]**をクリックします。





コンポーネント選択ウィンドウ

[インストールするアイテムを選択してください]画面のコンポーネント選択ウィンドウでは、サーバとハードウェアオプションに基づいて、すべての使用可能なコンポーネントが（種類別に）表示されます。コンポーネントがシステムにインストールされている場合やインストール後再起動が必要な場合、HP Smart Update Managerは各コンポーネントを調べ、依存関係を確認します。インストール可能な項目はデフォルトで選択されます。インストールを希望しないコンポーネントは選択を解除できます。

コンポーネント選択ウィンドウには、以下の情報が表示されます。

- **[製品]** - コンポーネントの名前、バージョン番号、コンポーネントの新しいバージョン番号を示します。コンポーネントのバージョンの履歴を確認するには、新しいバージョン番号をクリックしてください。
- **[ステータス]** - コンポーネントのステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	インストール準備完了	コンポーネントをインストールする準備ができました。
	選択されていません	コンポーネントはインストール対象として選択されていません。

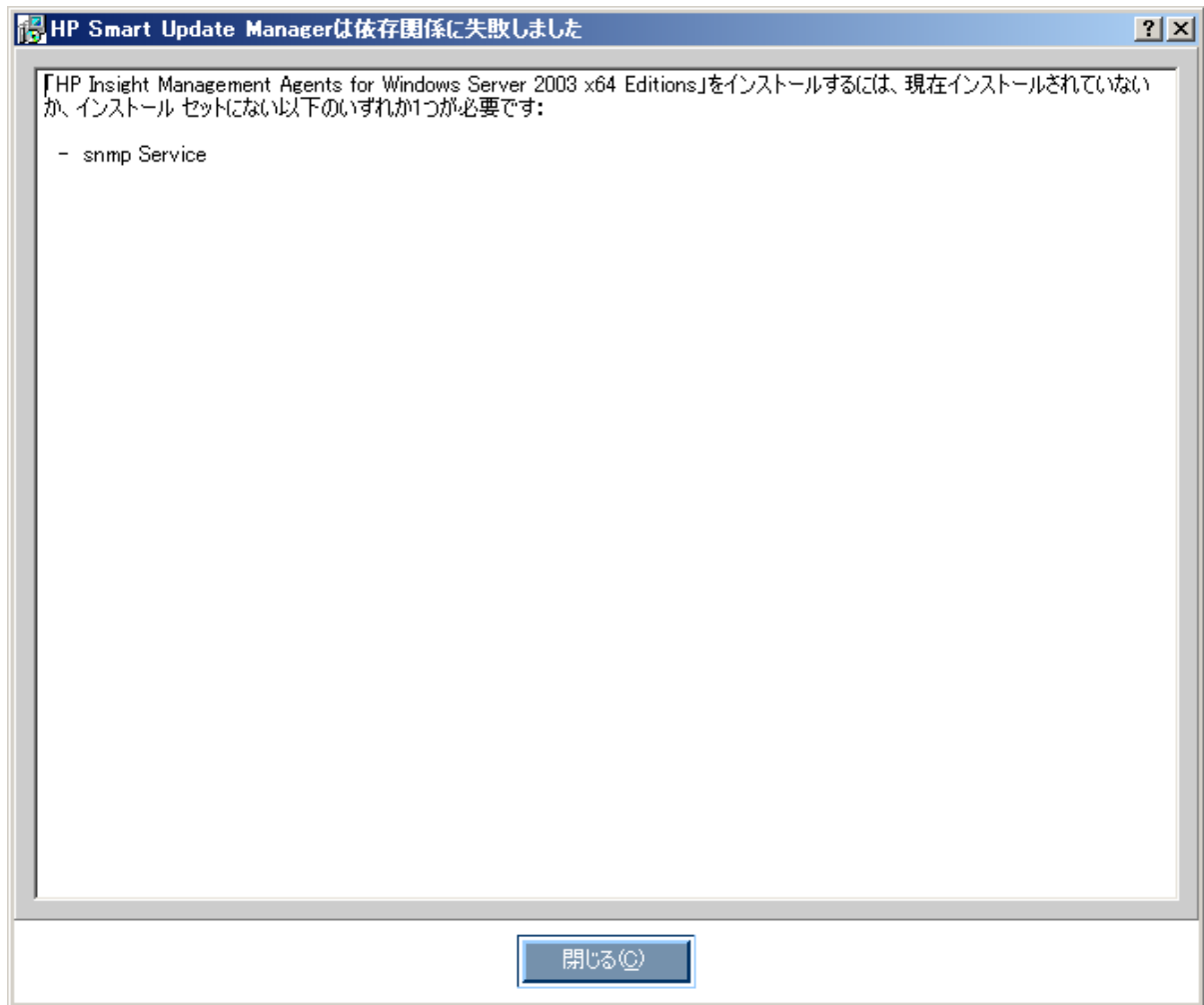
アイコン	テキスト	説明
	すでに最新	最新のコンポーネントがすでにインストールされています。コンポーネントのダウングレードまたは再書き込みを実行する場合は、 [インストール オプション] をクリックしてください。
	デバイス ドライバがインストールされていません	システムで、このセクションのコンポーネントがサポートしているデバイスが検出されていますが、このデバイスにはデバイス ドライバが必要です。デバイス ドライバをインストールしてください。
	ユーザにより未選択	コンポーネントはインストール対象として選択されていません。
	失敗した依存状態	コンポーネントには適合していない依存関係が存在します。問題のある依存関係の状態を確認するには、 [失敗した依存状態を表示] をクリックしてください。

- [任意の動作] - **[バンドル フィルタの選択]**をクリックすることによってフィルタリングするバンドルを選択できます。または**[今すぐ設定]**をクリックすることによってコンポーネントを設定できます。バンドルを選択できなかった場合、使用しているバンドルを変更したりバンドル オプションを変更したりするには、**[バンドル フィルタの選択]**をクリックしてください。コンポーネントが設定可能な場合は、そのことが[任意の動作]欄に示され、**[今すぐ設定]**をクリックして、選択したコンポーネントを設定することができます。

Server Coreオプションを使用してインストールしたMicrosoft® Windows Server™ 2008の場合、一部のエディションでは、[今すぐ設定]リンクが表示されません。このオペレーティング システム構成にインストールするコンポーネントを設定するには、サポートされているWindows®オペレーティング システムを搭載するシステム上で実行されているHP Smart Update Managerを使用して、リモート ホストとしてシステムにアクセスしコンポーネントを設定する必要があります。インストールは設定完了後に行います。

- [追加] - コンポーネント インストール オプションが含まれます。

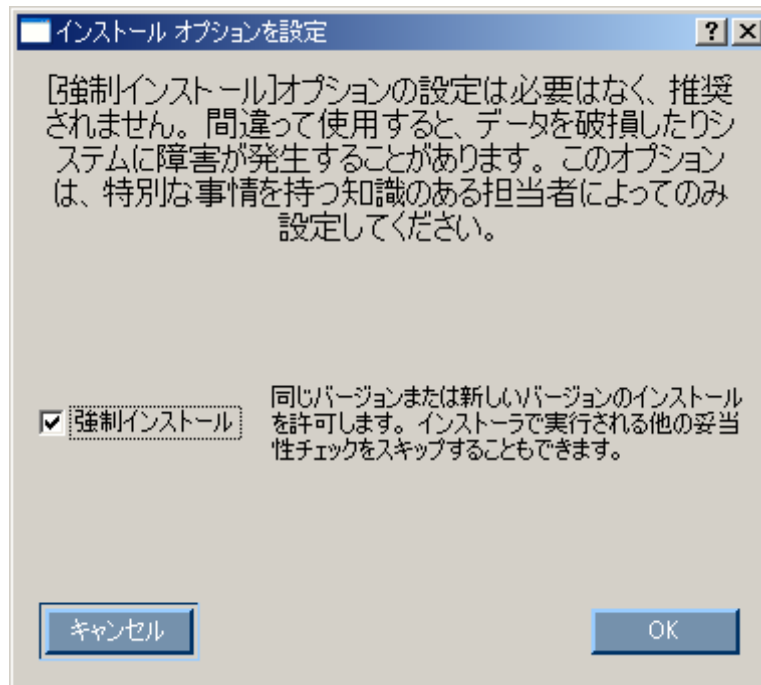
失敗した依存状態が発生した場合、[失敗した依存関係]画面が表示されます。



インストールの次の手順に進む前に依存関係を解決する必要があります。問題の内容によっては、Firmware Maintenance CDまたはHPのWebサイト<http://www.hp.com/jp>でソフトウェアまたはファームウェア コンポーネントを見つける必要があります。

インストール オプション

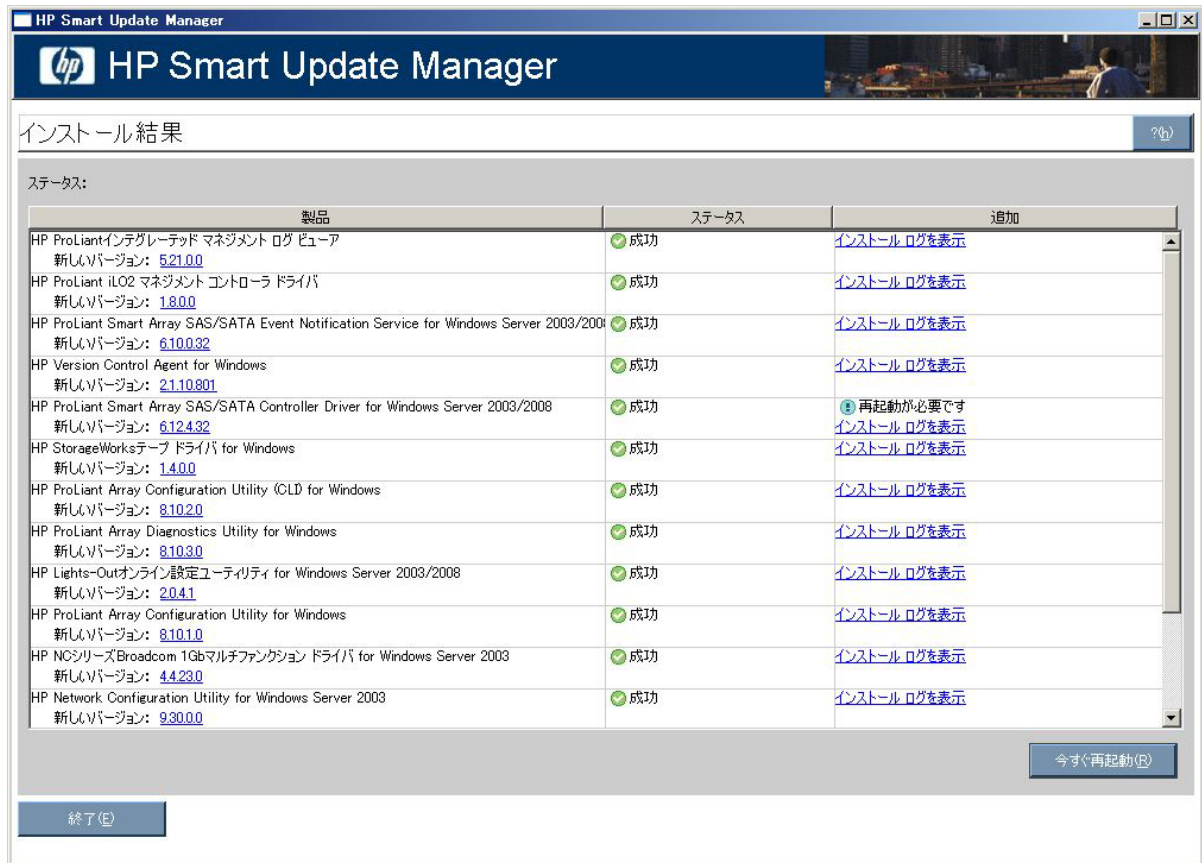
[追加]欄の[インストール オプション]をクリックすると、次の画面が表示されます。**[強制インストール]**を選択すると、インストールする必要のないコンポーネントを選択できます。



インストールするコンポーネントをすべて選択したら、**[インストール]**をクリックしてインストールを実行します。個々のコンポーネントについて詳しくは、「コンポーネントの設定」(67 ページ)を参照してください。[インストール中]画面が表示されます。

インストール結果の表示

インストールが完了すると、[インストール結果]画面が表示されます。




[インストール結果]画面には、以下の情報が表示されます。

- [製品] - インストールされたコンポーネント名を表示します。コンポーネントのバージョンの履歴を確認するには、バージョン番号をクリックします。
- [ステータス] - コンポーネントのインストール ステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
✓	成功	コンポーネントは正常にインストールされています。
✓	アップデートなし - すでに最新	インストールされているバージョンがすでに最新であるため、コンポーネントは更新されません。
✓	同じ/古いバージョンのインストールに成功しました	既存のコンポーネントは、同じバージョンまたは古いバージョンに正常にダウングレードまたは再インストールされています。
✗	アップデートでエラーとなりました	更新エラーが発生しました。追加詳細情報を表示するには、[インストール ログを表示]をクリックします。ログ ファイルで制限された情報しか表示されない場合は、HP Smart Update Manager ログ ファイルを参照してください。
✗	インストール失敗	コンポーネントはインストールされていません。追加詳細情報を表示するには、[インストール ログを表示]をクリックします。

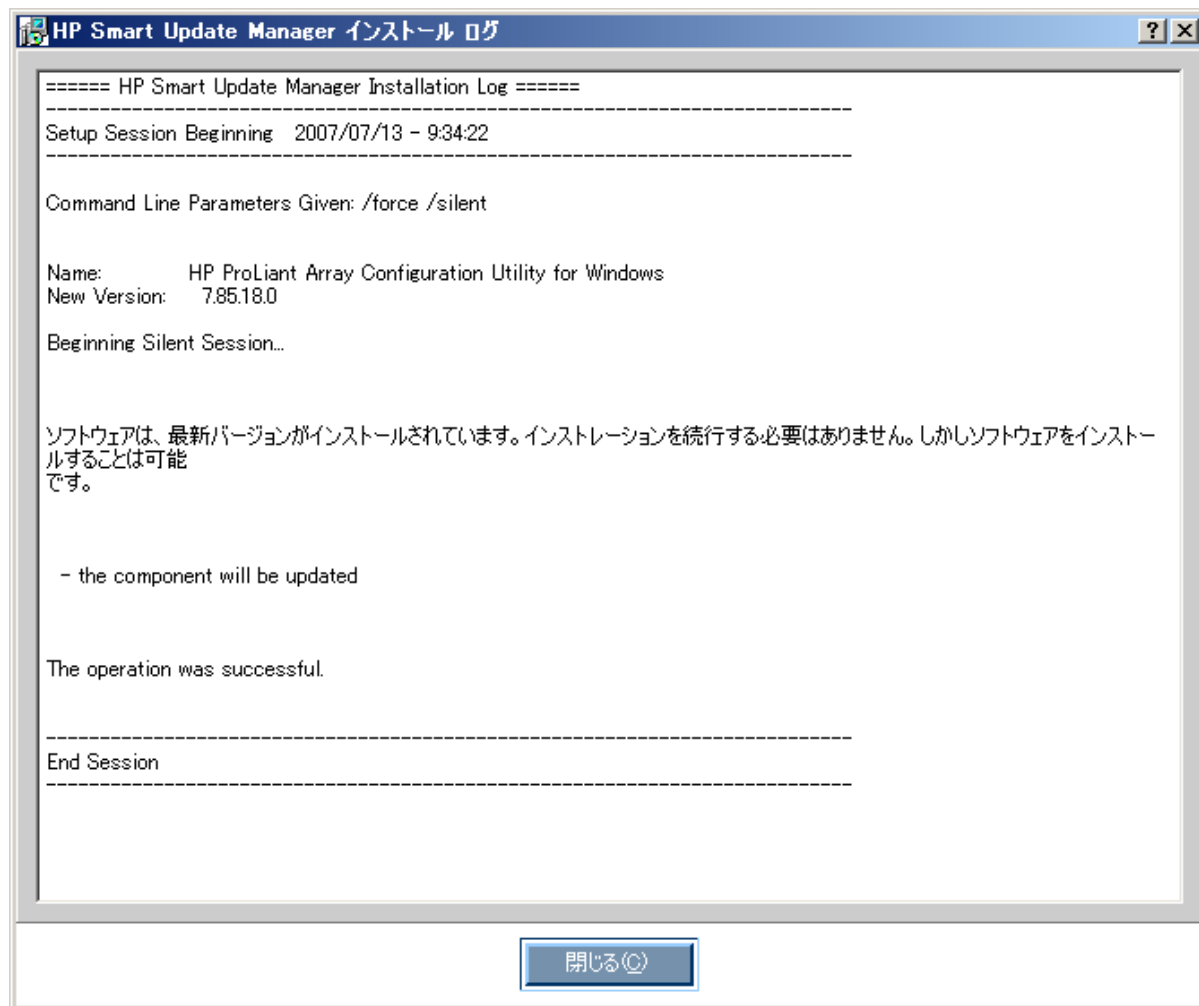
- [追加] - 各コンポーネントのインストール ログを確認できるようにします。また、再起動が必要かどうかを示します。

アイコン	テキスト	説明
	再起動が必要です	インストールを完了するには、サーバを再起動する必要があります。

[インストール結果]画面には、次のボタンがあります。

- [今すぐ再起動] - サーバを再起動します（このボタンは、ローカル インストールでのみ使用できます）。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

追加詳細情報を表示するには、**[インストール ログを表示]**をクリックします。



注: MSA20などの外付けエンクロージャのハードディスク ドライブを更新したら、そのエンクロージャの電源を切って再度投入してください。HP Smart Update Managerの[今すぐ再起動]ボタンはサーバの再起動のみを行い、外部エンクロージャの電源の入れ直しは行いません。

インストール ログ (hpsum_log.txtおよびhpsum_detail_log.txt) には、更新される各ホストのインストール動作に関する情報が含まれています。hpsum_log.txtログには、インストール動作の短い要約が含まれています。hpsum_detail_log.txtログには、インストールされた各コンポーネントのインストールの詳細（エラーを含む）がすべて含まれています。ローカル ホストのブート パーティションのhplogサブディレクトリ内に各ホストのIPアドレスに基づく名前のサブディレクトリが作られ、そのサブディレクトリにインストール ログ ファイルが格納されます。ローカル ホストの情報を含むディレクトリは、IPアドレスに基づくディレクトリではなく、hplog\localhostに格納されます。

GUIを使用した複数ホストへのインストール

HP Smart Update Managerの使いやすいグラフィカル ユーザ インタフェースから、ファームウェアおよびソフトウェア コンポーネントをインストールし、管理することができます。HP Smart Update Managerへのアクセスについては、「PSPの入手」(8ページの「PSP展開ユーティリティの入手」を参照)を参照してください。

HP Smart Update Managerが使用可能な更新のインベントリを作成している間、[インベントリ作成中]画面が表示されます。インベントリ プロセスが完了すると、[インストール ホストの選択]画面が表示されます。

リモート ホストまたはグループの選択

[インストール ホストの選択]画面で、コンポーネントをインストールする複数のホストおよびグループを選択できます。ホストには、サーバ、Onboard Administrator、iLO、iLO 2などがあります。

注：ローカル ホストをリモート ホストを含むリストに含めることやグループに含めることはできません。iLOまたはiLO2をホストとして選択する場合、更新できるのはiLOのファームウェアだけです。同じ物理サーバ上の他のすべてのファームウェアおよびソフトウェア コンポーネントを更新する場合は、サーバ ホストも選択する必要があります。iLOのファームウェアは、iLOを選択するかまたはサーバ ホストを選択すれば更新できます。



ホストの追加については、「ホストの管理」(30ページ)を参照してください。グループの追加については、「グループの管理」(33ページ)を参照してください。

インストール プロセスを進めるには、以下の手順に従ってください。

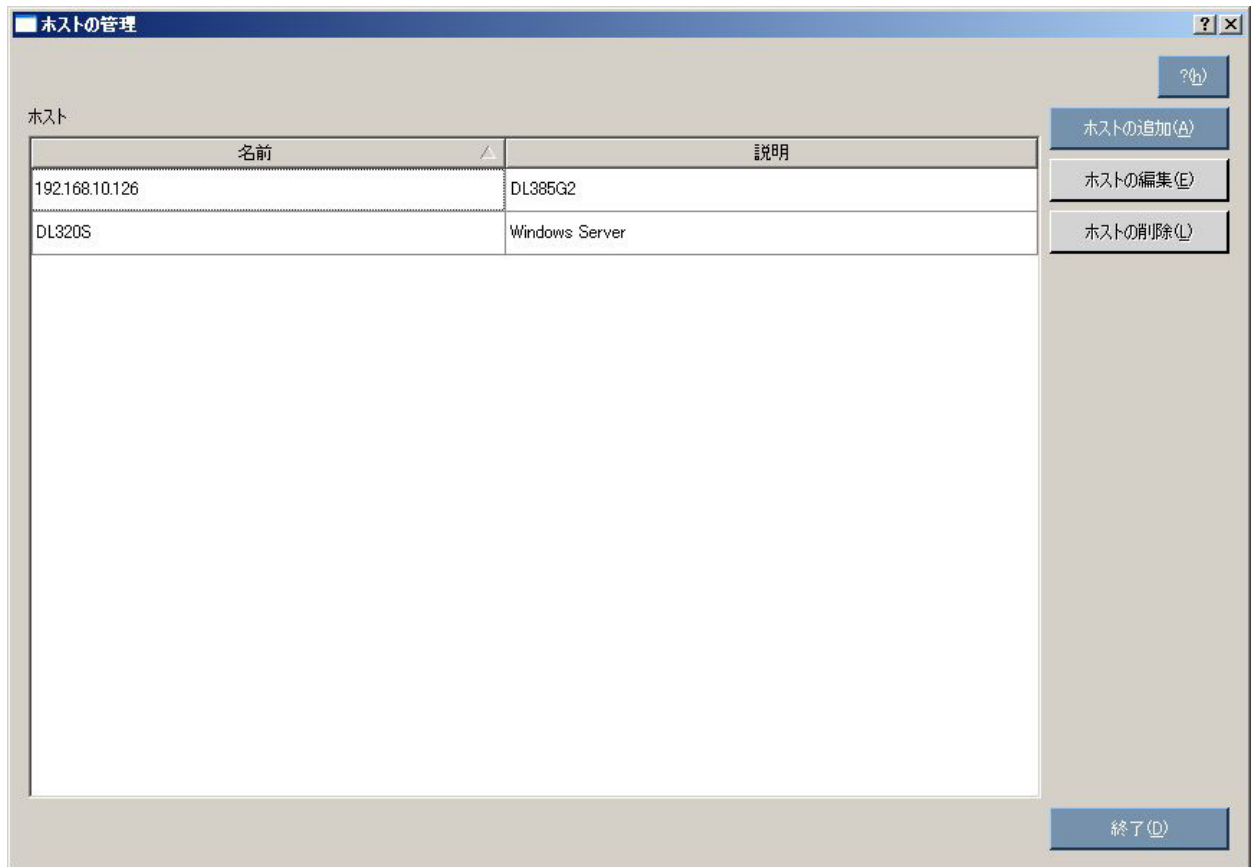
1. 1つまたは複数のホストまたはグループを選択します。
2. 続行するには、[次へ]をクリックします。
3. ホストの認証情報を入力します(36ページの「ホストの認証情報の入力」を参照)。

4. **[OK]**をクリックして、「複数のホストにインストールするコンポーネントの選択」（39ページ）に示されている手順に進みます。
5. インストールが完了すると、[インストール結果]画面（41ページの「[複数ホストのインストール結果の表示](#)」を参照）に複数のホストの結果が表示されます。

ホストの管理

ホストを追加、編集、または削除するには、**[ホストの管理]**ボタンをクリックします。[ホストの管理]画面が表示されます。ホストには、サーバ、Onboard Administrator、iLO、iLO 2などがあります。

注：ローカルホストをリモートホストを含むリストに含めることやグループに含めることはできません。iLOまたはiLO2をホストとして選択する場合、更新できるのはiLOのファームウェアだけです。他のすべてのファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントの更新には、サーバホストを選択する必要があります。iLOのファームウェアは、iLOを選択するかまたはサーバホストを選択すれば更新できます。



ホストを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. **【ホストの追加】**をクリックします。**【新しいホスト】**ダイアログ ボックスが表示されます。

新しいホスト

? X

?h

☐ DNS名でホストを追加

ホストDNS名:

☐ IPを指定してホスト1台を追加

ホストIP:

☒ IP範囲を指定してホストを追加

開始IP:

終了IP:

IPフォーマット

☐ IPv4

☒ IPv6

説明:

キャンセル(C)

OK(O)

2. 次の中から、ホストを追加する方法を選択します。
 - 追加するホストのDNS名を入力します。
 - 追加するホストのIPアドレスを入力します。
 - 追加するホストのIPアドレス範囲を入力します。範囲の開始IPアドレスと終了IPアドレスが同じサブネットに属していなければなりません。IPv6形式を使用する場合、終了IPアドレスの最後のフィールドは32ターゲットに限定されます。

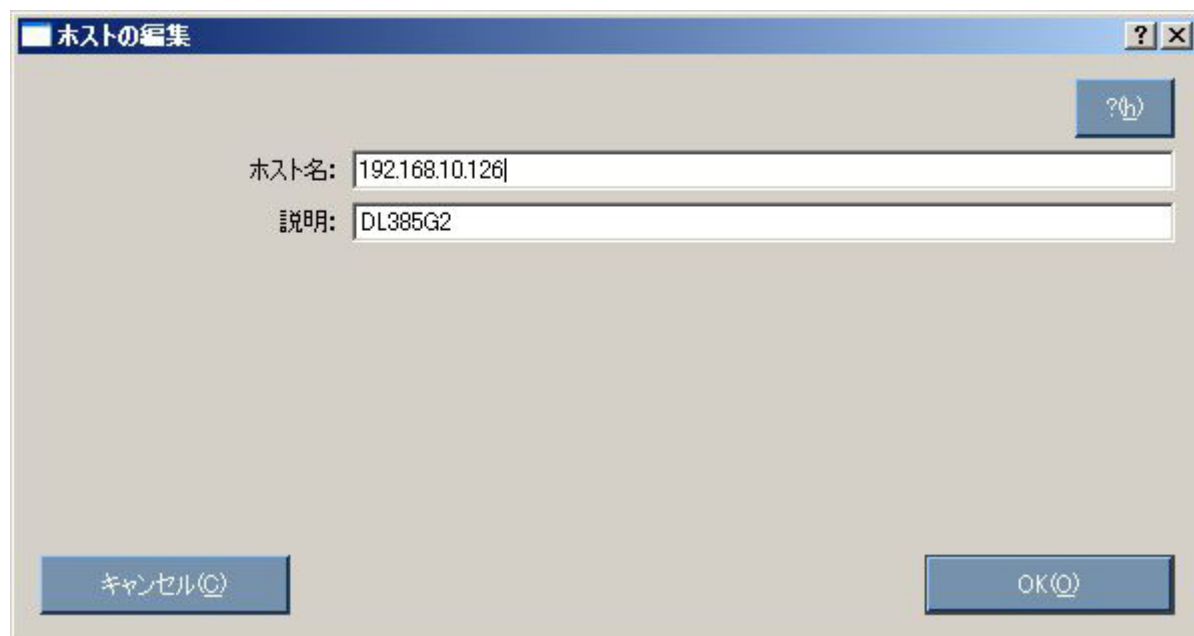
注： いずれかのIPアドレス オプションを使用してホストを追加する場合、IPアドレスの形式としてIPv4またはIPv6を選択できます。現在のインターネット プロトコルはIPv4形式であるため、この形式がデフォルト オプションになります。IPv6形式は、次世代のインターネット プロトコルです。

3. 追加するホストについてユーザが定義する説明（オプション）を入力します。
4. **【OK】**をクリックします。

新しいホストが、**【インストレーション ホストの選択】**画面のリストに追加されます。

既存のホストを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. **[ホストの管理]**画面で**[ホストの編集]**ボタンをクリックします。**[ホストの編集]**ダイアログ ボックスが表示されます。



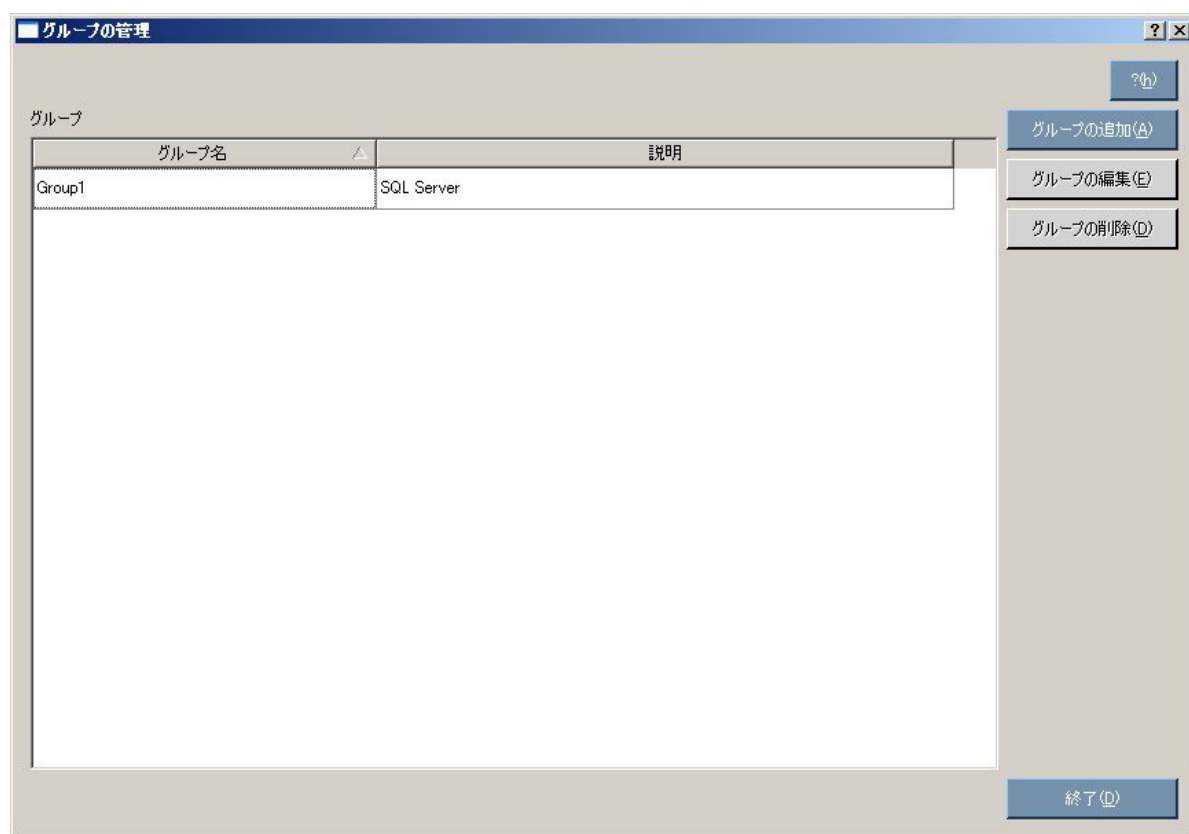
2. [ホスト名]および[説明]を編集します。
3. **[OK]**をクリックします。

ホストを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. **[ホストの管理]**画面で**[ホストの削除]**ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されたら、**[はい]**をクリックします。

グループの管理

グループを追加、編集、または削除するには、**[グループの管理]**ボタンをクリックします。[グループの管理]画面が表示されます。



グループを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. **[グループの追加]**をクリックします。**[グループの編集]**ダイアログ ボックスが表示されます。

グループ名: Group1

説明: SQL Server

利用可能なホスト

ホスト	説明
DL320S	Windows Server

グループ内のホスト

ホスト	説明
192.168.10.126	DL385G2

入力(E) >>

<< 削除(R)

新しいホスト(N)

キャンセル(Q)

OK(O)

2. グループの名前を入力します。
3. 追加するグループについてユーザが定義する説明（オプション）を入力します。
4. [利用可能なホスト]ウィンドウから、グループに追加するホストを選択します。**[新しいホスト]**ボタンをクリックして、この画面から新しいホストを追加できます。ホストの追加について詳しくは、「ホストの管理」（30 ページ）を参照してください。
5. **[入力]**ボタンをクリックして、選択したホストを新しいグループに移動します。
6. **[OK]**をクリックします。

新しいグループが、[インストール ホストの選択]画面のリストに追加されます。

既存のグループを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [グループの管理]画面で、グループを選択して、[グループの編集]ボタンをクリックします。[グループの編集]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 必要に応じてグループ名を編集します。
3. 必要に応じて、ホストについてユーザが定義する説明（オプション）を編集します。
4. 必要に応じて、[入力]および[削除]ボタンをクリックして、ホストを追加または削除します。
5. [OK]をクリックします。

グループを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [グループの管理]画面でグループを選択して、[グループの削除]ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されたら、[はい]をクリックします。

ホストの認証情報の入力

単一のリモート ホストを選択すると、[ホストに証明情報の入力]画面が表示されます。ホストに対する認証情報としてユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

ホストの証明情報の入力: 192.168.10.126

ホスト: 192.168.10.126

☒ ユーザ名およびパスワードの入力 (E)

ユーザ名: administrator

パスワード: ●●●●●●

☐ 現在の証明情報の使用 (ホストと既存の信頼関係が必要) (S)

リモート ホスト上でアクティブ アップデート プロセスが検出された場合、HPSUMは:

☒ ホストをスキップ

☐ アップデートを再開

キャンセル (C)

OK (O)

ホストの認証情報を入力するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- **[ユーザ名およびパスワードの入力]**を選択して、ユーザ名とパスワードを入力します。
- **[現在の証明情報の使用]**を選択して、現在ログインしているユーザの認証情報を使用します。

リモート ホスト上でアクティブなアップデート プロセスが検出される場合、**[ホストのスキップ]**または**[アップデートの再開]**を選択できます。ホストのスキップを選択すると、以降のアップデート プロセスでホストが無視されます。また、アップデートの再開を選択すると既存または進行中のインストールが終了します。

続行するには、**[OK]**をクリックします。

グループまたは複数のホストを選択すると、[グループの認証情報の入力]画面が表示されます。

グループの認証情報の入力

ホストは残りの認証情報を要求しています: 2

名前	ステータス	説明
192.168.10.126	認証情報が必要	DL385G2
DL320S	認証情報が必要	Windows Server

完了したホスト

名前	ステータス	説明
----	-------	----

入力(E) >>

<< 削除(R)

すべて選択(S)

キャンセル(Q)

すべて選択(A)

次へ(N)

画面では、まだ認証情報が必要な残りのホストと、認証情報の入力が完了しているホストが別々に表示されます。各ウィンドウは、次の欄に分かれています。

- [名前] - ホストの名前が表示されます。
- [ステータス] - ホストの認証情報のステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	入力済み	ホストの認証情報が入力されています。
	認証情報の必要	ホストの認証情報が入力されていません。
	認証情報の失敗	ホストについて入力された情報で認証に失敗しました。
	ホストにアクセスできません	入力した認証情報でホストにアクセスできないか、ホストがネットワーク内で検出されません。
	HPSUMセッションが存在しているためホストをスキップしました	既存のHP Smart Update Managerセッションのためにホストがスキップされました。適切なCLIスイッチが使用されているかまたは[ホストの証明情報の入力]画面で[アップデートを再開]が選択されていれば、スキップしたホストにアクセスできます。

- [説明] - ホストについてユーザが定義した説明が表示されます。

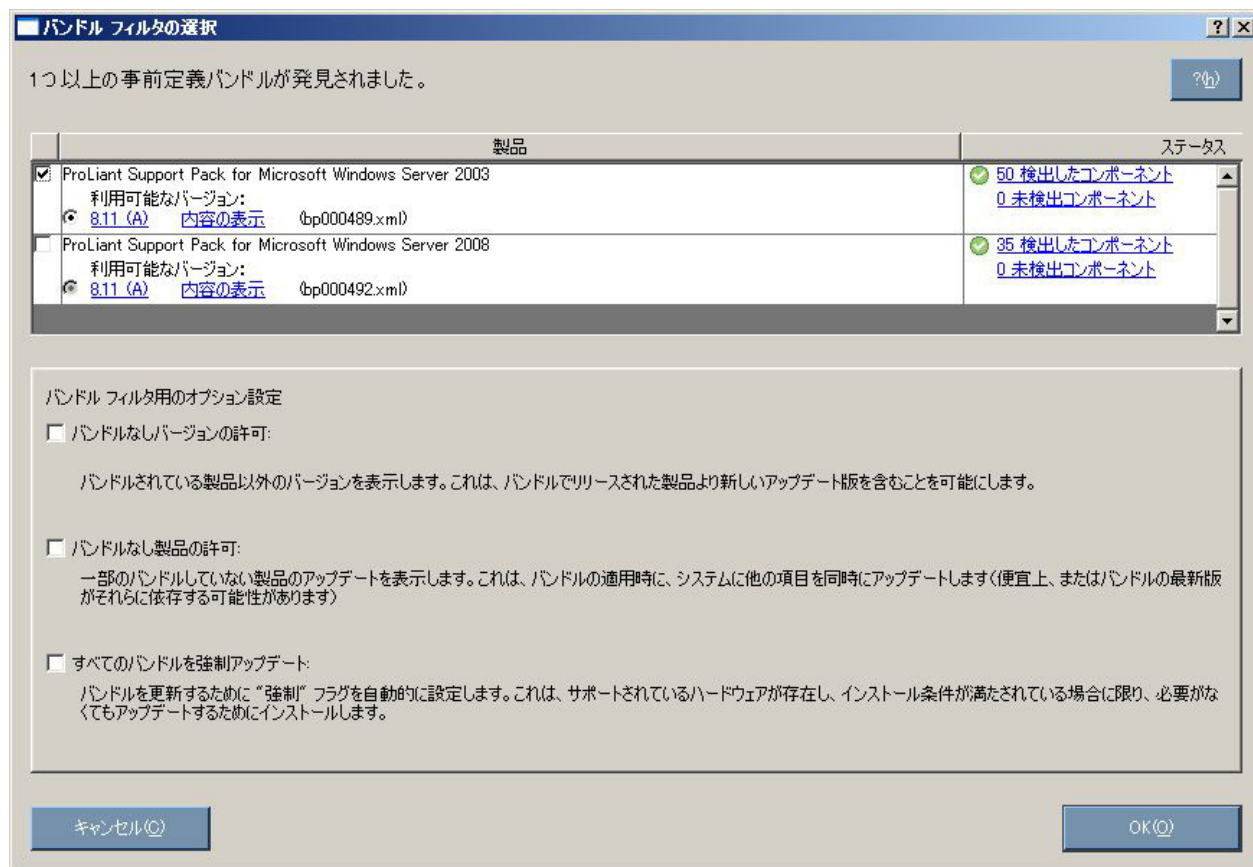
ホストの認証情報を入力するには、以下の手順に従ってください。

1. 左ウィンドウで、[ホストは残りの認証情報を要求しています]リストからホストを選択します。すべての認証情報が同じ場合、[すべて選択]をクリックしてリストのすべてのホストを選択してください。
2. 必要な認証情報を入力し、[入力]ボタンをクリックして、選択したホストを[完了したホスト]ウィンドウに移動します。
3. 続行するには、[次へ]をクリックします。

注：TPMが検出され有効になっている場合、[検出プロセス]画面の後で、HP Smart Update Managerの警告メッセージがポップアップ表示されます。このメッセージを読み、次に進む方法を決定する必要があります。詳しくは、「Trusted Platform Module」（13ページ）を参照してください。

複数ホストでのフィルタリングするバンドルの選択

システムの検出で1つまたは複数の定義済みバンドルが検出されると、[バンドル フィルタの選択]画面が表示されます。

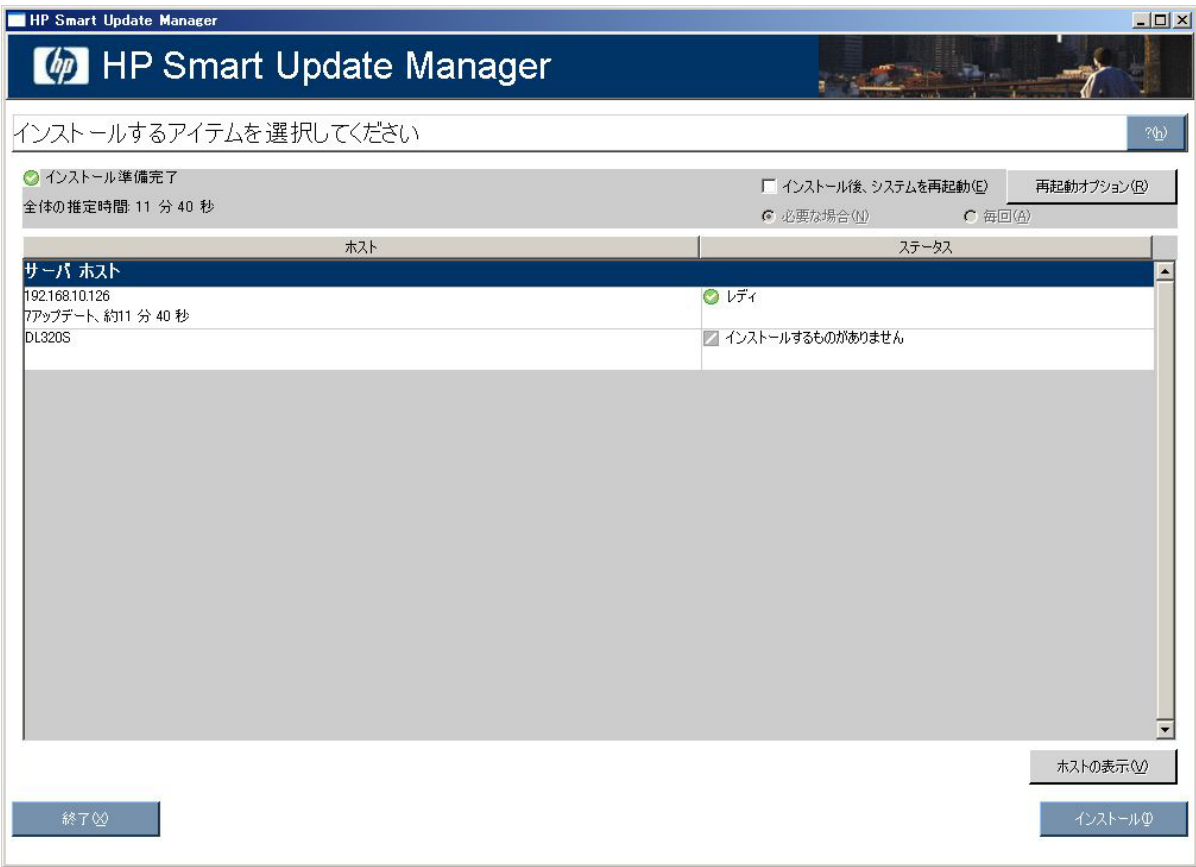


この画面について詳しくは、「フィルタリングするバンドルの選択」（19ページ）を参照してください。インストール プロセスを進めるには、**[OK]**をクリックしてください。

注：バンドル フィルタはソフトウェア コンポーネントにのみ適用されます。バンドルのフィルタリングはファームウェア コンポーネントには影響しません。

複数のホストにインストールするコンポーネントの選択

[インストールするアイテムを選択してください]画面には、サーバ ホストとそのステータス情報が表示されます。



[インストールするアイテムを選択してください]画面には、以下のボタンがあります。

- [ホストの表示] - ホストを選択した後に、選択したホストの追加情報を表示できます。
- [インストール] - すべてのコンポーネントを選択されたすべてのリモート ホストにインストールします。失敗した依存状態が発生している場合、インストール ボタンはグレー表示されます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

[インストールするアイテムを選択してください]画面の[サーバ ホスト]ウィンドウには、インストール対象として選択できるサーバ ホストの概要情報が表示され、個々のホストの詳細を表示させることができます。

[サーバ ホスト]ウィンドウは、次の欄に分かれています。

- [ホスト] - システムの名前、使用可能な更新の数、および予想されるインストール時間を表示します。
- [ステータス] - ホストのステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
✓	レディ	ホストのインストール準備ができました。
☐	インストールするものはありません	ホストは、すでに最新の状態です。
☐	HPSUMセッションが存在しているためホストをスキップしました	既存のHP Smart Update Managerセッションのためにホストがスキップされました。

アイコン	テキスト	説明
!	対応が必要です	ホストのインストール準備ができていません。追加情報を参照するには、[ホストの表示]をクリックしてください。
✖	検出失敗	ホストのインストール準備ができていません。インストールされているハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアの検出が失敗しました。

注： [ステータス]欄に、更新版がインストールされた後の再起動についてのデフォルト動作が表示されることもあります。

選択した単一ホストをより詳しく表示するには、[インストールするアイテムを選択してください]画面で[ホストの表示]をクリックします。単一ホストの選択画面が表示されます。

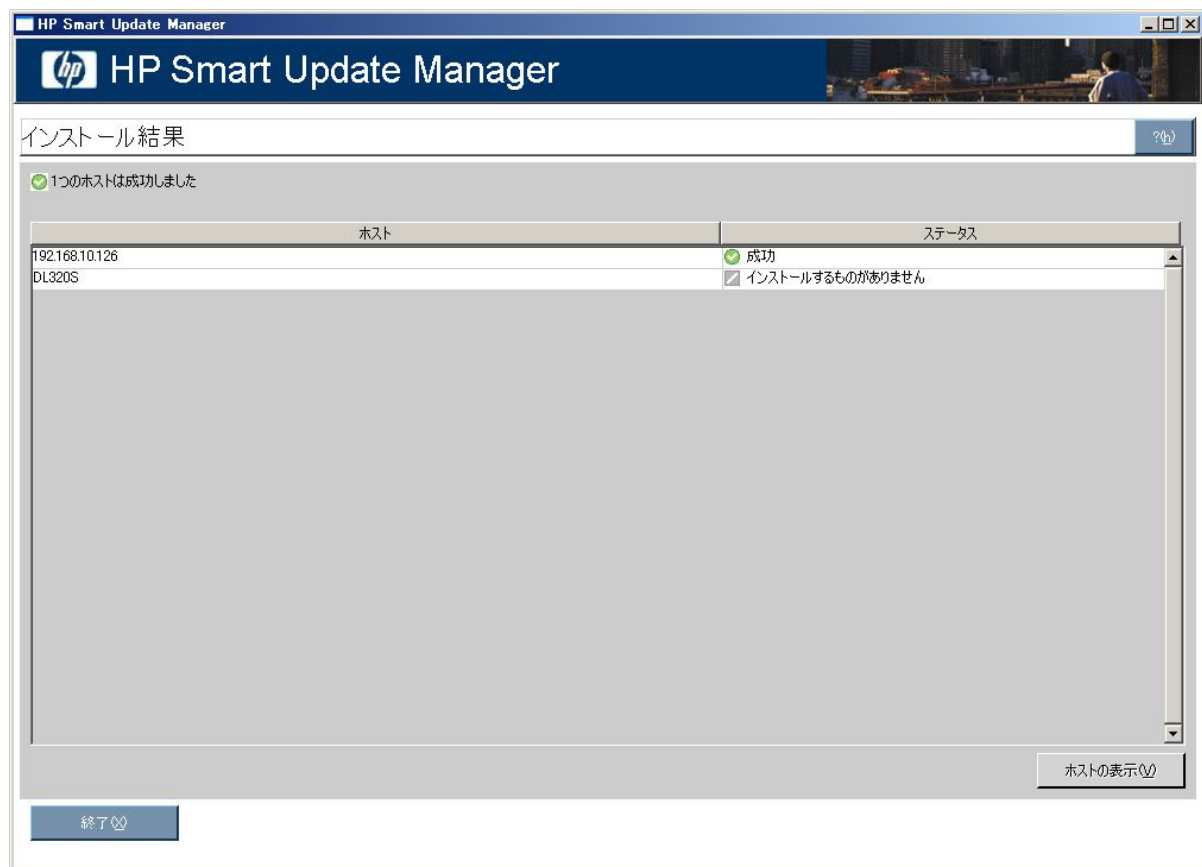


選択した単一ホストを設定するには、「インストールするコンポーネントの選択」（20ページ）に示されている手順に進みます。

更新対象のすべてのホストについて単一ホストの設定を行ったあと、インストール手順に移るには、[インストールするアイテムを選択してください]画面で[インストール]をクリックします。

複数ホストのインストール結果の表示

インストールが完了すると、[インストール結果]画面が表示されます。



[インストール結果]画面は、次の欄に分かれています。

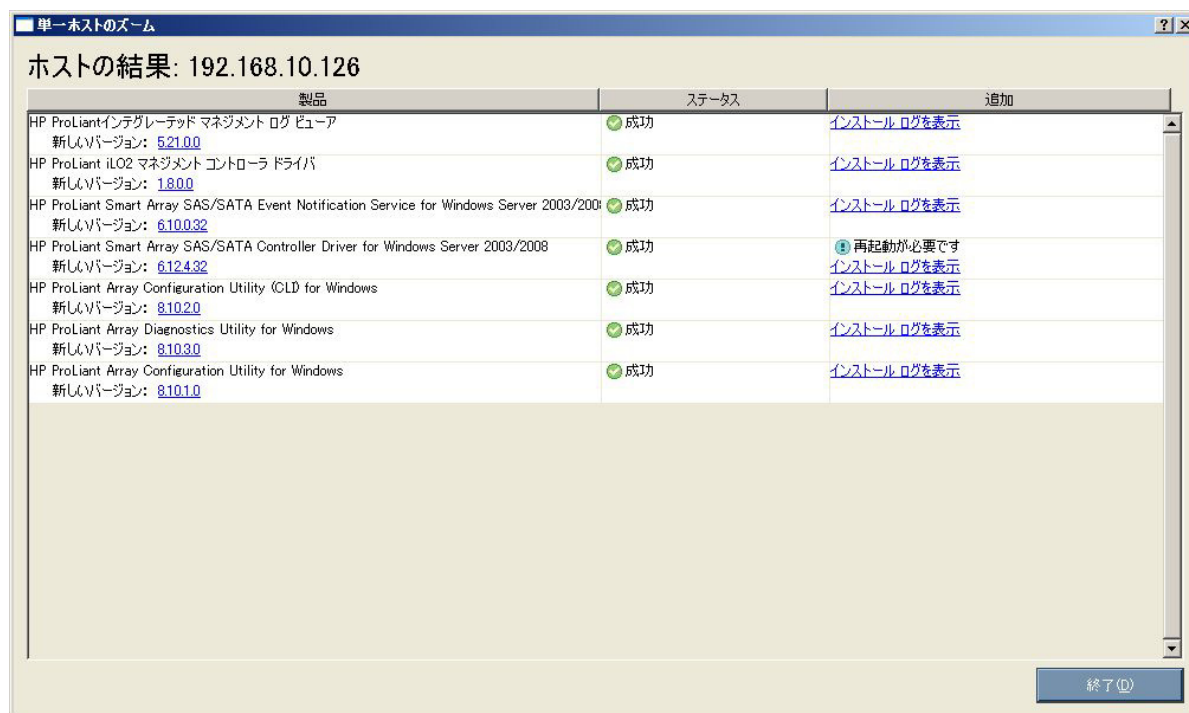
- [ホスト] - ホストのIPアドレスまたはDNS名を示します。
- [ステータス] - リモート ホスト上のコンポーネントの全体的なインストール ステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
成功	成功	ホストは正常に更新されました。
インストールするものはありません	インストールするものはありません	ホストは、すでに最新の状態です。
インストールはユーザーによりキャンセルされました	インストールはユーザーによりキャンセルされました	インストールがキャンセルされたので、先のプロセスに進むことができません。
インストール失敗	インストール失敗	1つまたは複数のコンポーネントのインストールに失敗しました。

[インストール結果]画面には、次のボタンもあります。

- [ホストの表示] - 選択されたホストのインストール結果を表示できます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

単一ホストのインストール結果を表示するには、ホストをダブルクリックするか、ホストを選択して、[ホストの表示]をクリックします。



「インストール結果の表示」 (27 ページ) に示されている手順に進みます。

Novell NetWareへのPSPのインストール

Novell NetWare用PSPの概要

この章では、Novell NetWare用PSPの使用方法について説明します。HPでは、Novell NetWare用PSPのインストールのために、NetWare用ProLiant Deployment Utilityを提供しています。

この章の最後では、いくつかのインストールのシナリオを示します。

PSPは、HPサーバサポートソフトウェアのオペレーティングシステム固有のバンドル製品です。各PSPには、Smartコンポーネント（最適化済みドライバ、マネジメントエージェント、ユーティリティ、およびROM）と呼ばれる複数のセルフインストールコンポーネントが入っています。このPSP設計により、オペレーティングシステムの統合、柔軟性、およびシステム設定が向上し、簡素化されます。

NetWareサーバの最小要件



重要：ソフトウェア アップデートをターゲット システムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にターゲット システムの最新のバックアップが取得されていることを確認してください。

NetWare 5.1、6.0、および6.5をサポートするPSPは、1つのバンドルで提供されています。このバンドルは、インストールされるNetWareのバージョンに対応したソフトウェアをインストールします。PSPに関する最小要件は、以下のとおりです。

- NetWare 5.1 - 基本インストール。ただし、Support Pack 8以上の適用をおすすめします。
- NetWare 6.0 - 基本インストール。ただし、Support Pack 5以上の適用をおすすめします。
- NetWare 6.5 - 基本インストール。ただし、Support Pack 3以上の適用をおすすめします。

PSPは、オペレーティングシステムのインストール後の、ドライバの更新、HPのユーティリティ（パワー マネジメント、ヘルスなど）、およびエージェント（基本、サーバ、NIC、ストレージなど）のインストールに使用するために設計されています。



重要：NetWareの通常パッケージによる初期インストール中は、PSPを使用できませんが、通常パッケージによるインストールに必要なドライバは、SmartStart CD 7.90以前の\compaq\drivers\os_versionディレクトリ（os_versionは、nw5、nw6、またはnw65）にフラット ファイル フォーマットで格納されています。通常パッケージによるインストールに必要なドライバ ディスケットを作成する機能は、SmartStart CDのWindows®およびLinuxの「自動実行」から利用できます。通常パッケージによるインストールのサポートが必要な場合は、ハードディスク ドライブにDOSパーティションを設定しフォーマットを行った後、NetWareドライバが検出される前に、ディレクトリの内容をSmartStart CDからサーバのC:\NWUPDATEディレクトリにコピーしてください。

注：SmartStart 8.0以降では、Novell NetWare用のPSPおよび個別コンポーネントはPSPのダウンロードページ（<http://www.hp.com/servers/psp>）以外からは入手できません。

インストールが完了したら、PSPを使用してサーバの設定を完了してください。

Novell NetWare用ProLiant Deployment Utility

HPは、拡張PSPインストール機能を提供するNovell NetWare用ProLiant Deployment Utilityを開発しました。このユーティリティでは、コンソール インタフェースを使用して、PSPソフトウェアをローカル サーバにインストールし、メンテナンスすることができます。

Novell NetWare用Deployment Utilityは、Novell NetWare用PSPとともに、HPのソフトウェアとドライバのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers>から入手できます。

このユーティリティには、次の2つの動作モードがあります。

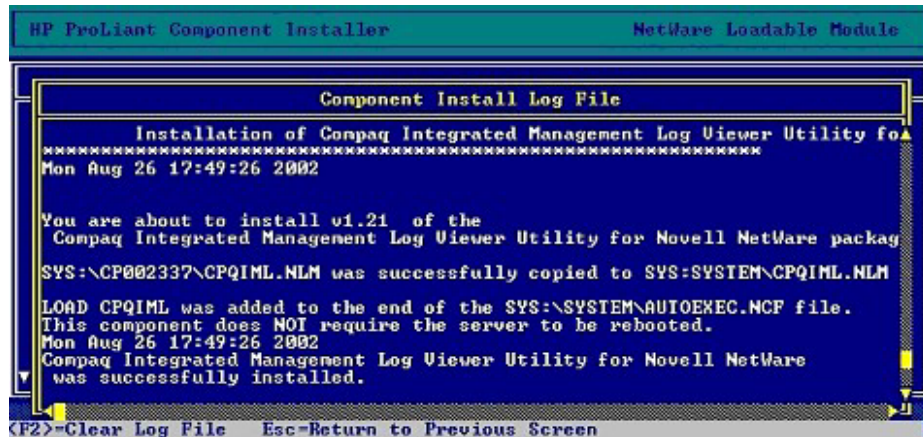
- **ユーザ インタフェース モード** - NUTベース グラフィカル インタフェースによって、PSPまたはPSPのコンポーネントのサブセットをインストールする手順が示されます。
- **コマンド ライン モード** - グラフィカル インタフェースではなくコマンド ラインによってPSPまたは各コンポーネントをインストールできます。

Novell NetWare用Deployment Utilityのユーザ インタフェース モードを起動すると、メイン制御ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、PSPに含まれる各コンポーネントの新旧のバージョン番号や説明など、PSPの内容の詳細が示されます。



PSPがターゲット サーバにインストールされると、Novell NetWare用Deployment Utilityによってインストールの結果に関する包括的な情報が表示され、正常にインストールされたコンポーネント、ターゲット システムに必要ななかったコンポーネント、およびインストールに関して発生したすべての問題が示されます。

各コンポーネントは、インストール動作（およびエラー）を、SYS:\ETC\サブディレクトリにある共通インストール ログ ファイル（CPQLOG.LOG）に書き込みます。後続のインストール動作に関する情報は同じログ ファイルに追加されるため、そのターゲット サーバへのすべてのコンポーネントのインストール動作が順番に記録された履歴が作成されます。次の図に、インストール ログ ファイルの例を示します。



NetWareサーバでのDeployment Utilityの使用シナリオ

Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityは、PSPと各コンポーネントをNetWareサーバにインストールするためのソフトウェア メンテナンス ツールです。

次の図に示すように、PSPとコンポーネントの全体的なインストール方式は、NetWareサーバへのすべてのインストール シナリオで一致しています。ソフトウェアは、管理ワークステーションまたは他のインストール済みサーバから、NetWareターゲット サーバにコピーする必要があります。



ヒント： PSP展開ユーティリティの使用を容易にするには、ユーティリティのファイルを管理システムのハードディスク ドライブにコピーします。ファイルは、それぞれ専用サブディレクトリに配置してください。



シナリオ	インストールのタイプ	使用するインストール方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ユーザは、コマンド ラインまたは.NCFファイルによって1つまたは複数のコンポーネントをインストールできます。 ユーザは、コマンド ラインまたは.NCFファイルによってバンドルをインストールできます。 ユーザは、スクリプト ファイルの使用に慣れているか、NetWare用PSPのインストールの自動化を望んでいます。 	CPQDPLOY.NLMによるコマンド ライン方式

シナリオ	インストールのタイプ	使用するインストール方法
2	<ul style="list-style-type: none"> インストールするコンポーネントをリストから選択できます。 簡単なキーストロークですべてのコンポーネントをインストールできます。 インストール結果をコンポーネントごとにグラフィック表示したいと望んでいます。 インストール前に各コンポーネントの詳細を確認する必要があります。 ユーザは、インストールするパッケージをグラフィカル インタフェースで選択することを望んでいるか、スクリプト ファイルの使用を望んでいません。 	CPQDPLOY.NLMによるグラフィカル（NUTベース）方式
3	<ul style="list-style-type: none"> ユーザは、コマンド ラインまたは.NCFファイルによって1つのコンポーネントをインストールできます。 ユーザは、インストールの前に-iスイッチを使用して各コンポーネントの詳細を表示させる必要があります。 ユーザは、選択したコンポーネントのみのインストールを望んでいるか、選択したコンポーネントのインストールの自動化を望んでいます。 	各コンポーネントによるコマンド ライン方式
4	<ul style="list-style-type: none"> ユーザは、キーを数回押すだけで、コンポーネントをインストールできます。 インストール結果をコンポーネントごとにグラフィック表示したいと望んでいます。 ユーザは、インストールの前にコンポーネントの詳細を表示させる必要があります。 ユーザは、選択したコンポーネントのみのインストールを望んでおり、スクリプト ファイルの使用を望んでいません。 	各コンポーネントによるグラフィカル（NUTベース）方式

Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのコマンド ライン パラメータ

この項では、使用シナリオで使用するコマンド ライン パラメータについて説明します。パラメータは大文字または小文字で入力でき、スラッシュ (/) またはダッシュ (-) を前に付けます。たとえば、-h、-help、/h、または/help と入力することができます。パラメータの順序は重要ではありません。

Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのコマンド ライン構文

```
<VOLUME:\PATH>CPQDPLOY [/H | /?][/NUI] [/S] [/R] [/F] [/NOMODS] [BP000xxx.XML | CP000xxx.NLM]
```

コマンド ライン引数	説明
/H	この引数は、コマンド ライン パラメータのリストを表示します。
/NUI	この引数は、ユーザ インタフェースを非表示にします。ただし、サイレント (/S) オプションが同時に使用されていない場合は、出力がシステム コンソールに表示されます。

コマンドライン引数	説明
/S	この引数は、サイレントインストールを有効にします。すべてのメッセージは、SYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルに記録されます。コンソール出力やGUIは表示されません。
/R	インストール中の任意のパッケージが再起動を必要とする場合およびインストール中に問題が発生しなかった場合にシステムを再起動します。
/F	現在インストールされているNetWareのバージョンによってコンポーネントがサポートされていれば、サーバにどのバージョンのソフトウェアがインストールされていても、パッケージをすべて強制的にインストールします。
/NOMODS	STARTUP.NCFファイルまたはAUTOEXEC.NCFファイルの変更を禁止します。デフォルトのオプションでは、各コンポーネントバンドルのインストール中に、必要に応じて、あらゆる変更が可能です。

各NetWareコンポーネントのインストールのコマンドライン構文

```
<VOLUME:\PATH>CPQDPLOY [/H | /?][/NUI] [/S | /F] [/I] [/G] [/R] [/xVOL:\PATH]
[/NOMODS] [/bVOL:\PATH]
```

コマンドライン引数	説明
/H	コマンドラインパラメータのリストを表示します。
/NUI	この引数は、ユーザインタフェースを非表示にします。ただし、サイレント (/S) オプションが同時に使用されていない場合は、出力がシステムコンソールに表示されます。
/S	この引数は、サイレントインストールを有効にします。すべてのメッセージは、SYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルに記録されます。コンソール出力やGUIは表示されません。
/F	現在インストールされているNetWareによってコンポーネントがサポートされていれば、サーバにどのバージョンのソフトウェアがインストールされていても、パッケージを強制的にインストールします。
/I	パッケージペイロード情報を表示します（インストールは行われません）。
/G	パッケージインストール元/インストール先情報を表示します（インストールは行われません）。
/R	インストール中のパッケージが再起動を必要とする場合およびインストール中に問題が発生しなかった場合にシステムを再起動します。
/xVOL: \PATH	パッケージの内容を示したファイルをVOL:\PATHによって指定されたディレクトリに作成します。
/NOMODS*	STARTUP.NCFファイルまたはAUTOEXEC.NCFファイルの変更を禁止します。デフォルトのオプションでは、各コンポーネントバンドルのインストール中に、必要に応じて、あらゆる変更が可能です。
/bVOL: \PATH*	パッケージのインストールによって置き換えられるすべてのファイルのバックアップをVOL:\PATHによって指定されたディレクトリに作成します。バックアップの履歴管理はサポートされていません。次のインストールにより、指定されたディレクトリの既存のファイルは上書きされます。

*HPのエージェントおよびSurveyユーティリティのコンポーネントではサポートされていません。

注： /xVOL:\PATHおよび/bVOL:\PATHでは、xまたはbとパスの間にスペースを入力しません。VOL:\PATHが存在しない場合は、パスの作成を試みます。無効なボリュームやパスは無視され、ファイルの作成は中止されます。

Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのコマンド ラインの例

以下の例では、PSPは、SYS:\DEPLOYディレクトリにコピーされています。

動作	コマンドライン
通常のプログラム実行によってDeployment Utilityを起動します。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY
CPQDPLOYを使用して固有のSupport Packをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY [BP000111.XML]
強制オプションを使用します。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY -f
「ユーザ インタフェース非表示」オプションを使用します（GUIは表示されません）。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY -nui
サイレントオプションを使用します（コマンドラインまたはGUI出力は表示されません）。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY -s
サイレントオプションと強制オプションを使用します。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY -s -f
GUIを使用して1つのコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CP002345
強制オプションと「ユーザ インタフェース非表示」オプションを使用して1つのコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CP002351 -f -nui
コンポーネントの内容を示すファイルを他のディレクトリに作成します。	SYS:\DEPLOY\CP002326 -xSYS:\TEMP
コンポーネントの内容を表示します（ファイルの作成やコンポーネントのインストールは行いません）。	SYS:\DEPLOY\CP002341 -i
コンポーネント パッケージによってインストールされるコンポーネントの情報（インストール元ディレクトリ、インストール先ディレクトリ、プライマリNLMなど）を表示します（コンポーネントのインストールは行いません）。	SYS:\DEPLOY\CP002346 -g
強制オプションを使用してDeployment Utilityから1つのコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY CP002349.NLM -f
Deployment Utilityを使用し1つのコンポーネントをインストールしますが、.NCFファイルを変更しません。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY CP002334.NLM -nomods
グラフィカル ユーザ インタフェースを表示せずに、一度に複数のコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY CP002341.NLM -nui CP002342.NLM
強制オプションを使用してコマンド ラインから1つのコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CP00XXXX.NLM -f
変更禁止オプションを使用してコマンド ラインから1つのコンポーネントをインストールします。	SYS:\DEPLOY\CP00XXXX.NLM -nomods

Support Packと各コンポーネントは、パラメータとして同時にCPQDPLOYに指定することはできません。このような場合は、別々にCPQDPLOYを実行してください。

無効なコマンドの例：

```
SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY CP002345.NLM BP000111.XML
```

有効なコマンドの例：

```
SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY BP000111.XML
```

```
SYS:\DEPLOY\CPQDPLOY CP002345.NLM
```


Novell NetWare用ProLiant Deployment Utilityのリターン コード

値	意味
255	入力されたパラメータが無効です - 無効なパラメータはコンソールまたはログ画面に表示されます。
0	正常にインストールされませんでした - エラーについて詳しくはSYS:\ETC\CPQLOG.LOGを参照してください。
1	正常にインストールされました - 新しいコンポーネントをアクティブにするための再起動は要求されませんでした。
2	正常にインストールされました - 1つまたは複数の新しいコンポーネントをアクティブにするために再起動が要求されました。
3	インストールは実行されませんでした - インストールしようとしたソフトウェアはすでに存在します。
4	インストールは実行されませんでした - コンポーネントによってサポートされているハードウェアが存在しません。
5	インストールはキャンセルされました - GUIによるインストール中にインストールがユーザによってキャンセルされました。
6	インストールは実行されませんでした - 前提条件となるソフトウェア要件が満たされていませんでした。通常、これは、コンポーネントのインストール前にCPQHLTHドライバがインストールされていなかったことを意味します。

シナリオ1 : CPQDPLOY.NLMによるコマンド ライン インストール

CPQDPLOY.NLMによるコマンドラインインストールは、-sまたは-nuiスイッチとともに、インストールするSupport Packファイル名またはコンポーネント ファイル名を引数として指定することによって実行されます。Support Packファイル名のフォーマットは、BP00XXXX.XMLです。スタート ディレクトリにXMLファイルがない場合、CPQDPLOY.NLMは、有効なSupport Pack XMLファイルのパスを要求します。スタート ディレクトリにSupport Packファイルが1つだけ存在する場合は、Support Packファイルの使用が試みられます。スタート ディレクトリに複数のSupport Packファイルが存在する場合は、サポートされているSupport Packのリストが表示されます。



重要 : 有効なSupport Pack XMLファイルが見つからないか、または2つ以上の有効なSupport Pack XMLファイルが見つかった場合は、-sまたは-nuiスイッチが使用されるとインストールは正常に行われません。

コンポーネント ファイル名のフォーマットは、CPOXXXXX.NLMです。CPQDPLOY.NLMは、一度に1つのSupport Packまたは複数のコンポーネントをインストールできます。Support Packは、デバイス ドライバ、ユーティリティ、およびエージェントを含む、HPでテスト済みのコンポーネント パッケージのセットです。どのコマンドライン オプションが指定されている場合でも、インストールの結果に関する情報がSYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルに記録されます。

シナリオ2 : CPQDPLOY.NLMによるグラフィカル インストール

CPQDPLOY.NLMによるグラフィカル (NUTベース) インストールは、CPQDPLOY.NLMに-sおよび-nuiパラメータを指定しない場合に実行されます。インストールするSupport Pack XML名またはコンポーネント名は省略可能です。インストール選択画面に、現在インストールされているソフトウェアのバージョン (存在する場合)、インストールするために選択したソフトウェアのバージョン、およびソフトウェアの説明が表示されます。グラフィカル画面で利用できるキー入力については、次の表を参照してください。

キー	説明
F1	ユーザ ヘルプ画面を表示します。
F2	強制オプションを切り替えます。
F3	再起動オプションを切り替えます。
F4	インストールするコンポーネントのすべてを選択/選択解除します。

キー	説明
F5	リストのコンポーネントまたはカテゴリを個別に選択/選択解除します。
F7	NCFファイル変更禁止オプションを切り替えます。
F8	他のオプションを表示します。
F10	選択されたパッケージをインストールします。
Enter	コンポーネント パッケージの詳細およびペイロード情報を表示します。
Esc	前の画面に戻るかDeployment Utilityを終了します。

インストールが完了すると、インストール ステータス画面が表示され、インストールの結果が示されます。この画面で**F3**キーを押すと、SYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルを表示できます。コンポーネントを強調表示して**Enter**キーを押すとインストールの詳細を表示できます。また、**Esc**キーを押すとコンポーネント インストーラが終了します。

シナリオ3：各コンポーネントのコマンド ライン インストール

各コンポーネントのコマンドラインインストールは、LOADコマンド（オプション）、フルパス名、インストールするコンポーネントパッケージの名前（CP002345など）、および-nuiまたは-sスイッチを入力することによって実行されます。各コンポーネント パッケージ ファイル名のフォーマットは、CPOXXXXX.NLMです。どのコマンドライン オプションが指定されている場合でも、インストールの結果に関する情報がSYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルに記録されます。

シナリオ4：各コンポーネントのグラフィカル インストール

各コンポーネントのグラフィカル（NUTベース）インストールは、各コンポーネントパッケージをインストールするために使用されるコマンドラインに-sまたは-nuiを指定しない場合に実行されます。インストール選択画面に、現在インストールされているコンポーネントパッケージのバージョン（存在する場合）、インストールするために選択したコンポーネント パッケージのバージョン、およびコンポーネント パッケージの説明が表示されます。グラフィカル画面で利用できるキー入力については、「シナリオ2: CPQDPLOY.NLMによるグラフィカルインストール」（[49ページ](#)）を参照してください。

インストールが完了すると、コンポーネント インストール ステータス画面が表示され、インストールの結果が示されます。**Esc**キーを押すとコンポーネント インストーラが終了します。

LinuxへのPSPのインストール

Linux用PSPの概要

この章では、Linux用PSP (LSP) の使用方法について説明します。HPでは、Linux用PSPのインストールのために、ProLiant用HP LDUを提供しています。

PSPは、HPサーバサポートソフトウェアのオペレーティングシステム固有のバンドル製品です。各PSPには、Smartコンポーネント（最適化済みドライバ、マネジメントエージェント、およびユーティリティ）と呼ばれる複数のインストール可能なコンポーネントが入っています。このPSP設計により、オペレーティングシステムの統合、柔軟性、およびシステム設定が向上し、簡素化されます。

各PSPは、現在、サポートされているLinuxのディストリビューションおよびバージョンごとに出荷されています。各PSPには、サポートされているLinuxのディストリビューションおよびバージョン用に適切なソフトウェアが含まれています。LSPは、AMD®ベースのサーバとIntel®ベースのサーバの両方について、32ビットインストールとx86-64ベースインストールをサポートしています。LDUインストーラは、検出されたハードウェアアーキテクチャをサポートするソフトウェアだけをインストールします。

PSP 7.40から、PSPには、Linux Smartコンポーネントが含まれています。Linux Smartコンポーネントは、rpm、xmlファイル、およびオプションのtxtファイルから構成されています。

Linuxサーバの最小要件



重要： ソフトウェア アップデートをターゲット システムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にターゲット システムの最新のバックアップが取得されていることを確認してください。

LinuxサーバへのPSPのインストールには、以下の最小要件があります。

- glibc 2.2.4-26以上
- gawk 3.1.0-3以上
- sed 3.02-10以上
- pciutils-2.1.8-25.i386.rpm以上

以下に示すようにRPMの要件も満たす必要があります。

- Red Hatサーバ
 - rpm 4.0.4以上
 - rpm-build 4.0.4以上
 - rpm-devel 4.0.4以上
- SUSE Linuxサーバ
 - rpm 3.0.6以上

さらに、ソースコード（NICドライバなど）からコンパイルされるコンポーネントの場合、以下のビルドツールがインストールされている必要があります。

- gcc-2.96-108.1以上

- `cpp-2.96-108.1`以上
- `binutils-2.11.90.0.8`以上
- `glibc-devel-2.2.4-26`以上
- `kernel-headers-<バージョン>`（バージョン番号は、使用しているカーネルによって変わります）

GUIオプションを使用してインストールする場合は、以下のRPMがインストールされている必要があります。

- `gtk+1.2.10-11`以上
- `gtk-engines-0.11-3`以上

Linux用PSPIに含まれているHP提供の付加価値ソフトウェアの多くについては、これらをサポートするために、以下のプラットフォーム固有の互換性ライブラリをインストールする必要があります。

- Red Hat Enterprise Linux 4 x86サーバの場合：
 - `glib-1.2.10-15.i386`以上
 - `compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386`以上
 - `lm_sensors-2.8.7-2.i386`以上
 - `net-snmp-5.1.2-11.i386`以上
- Red Hat Enterprise Linux 4 AMD64/EM64Tサーバの場合：
 - `glib-1.2.10-15.i386`以上
 - `compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386`以上
 - `lm_sensors-2.8.7-2.x86_64`以上
 - `net-snmp-5.1.2-11.x86_64`以上
- Red Hat Enterprise Linux 5 x86サーバの場合：
 - `glib-1.2.10-15.i386`以上
 - `compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386`以上
 - `lm_sensors-2.8.7-2.i386`以上
 - `net-snmp-5.3.1-14.el5.i386`以上
- Red Hat Enterprise Linux 5 AMD64/EM64Tサーバの場合：
 - `glib-1.2.10-15.i386`以上
 - `compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386`以上
 - `lm_sensors-2.8.7-2.x86_64`以上
 - `net-snmp-5.3.1-14.el5.x86_64`以上
- SLES 10 x86サーバの場合：
 - `compat-2006.10.25-11.2.i586`以上
 - `compat-libstdc++-5.0.7-22.2.i586`以上
- SLES 10 AMD64/EM64サーバの場合：
 - `compat-2006.1.25-11.2.x86_64`以上
 - `compat-32bit-2006.1.25-11.2.x86_64`以上
 - `compat-libstdc++-5.0.7-22.2.x86_64`以上

これらのRPMは、`hppldu-librpms-<バージョン>tar`アーカイブファイルに含まれており、インストール時にユーザが特に指定しなければ、デフォルトでインストールされます。

注: 必ず、ご使用のアーキテクチャに適したバージョンの互換性ライブラリを含むようにしてください。場合により、特定のディストリビューション用の32ビット互換性ライブラリと64ビット互換性ライブラリが個別に提供されていることがあります。

現在サポートされているLinuxのディストリビューションとバージョン（およびこれらに関連するerrata kernel）のリストについては、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/supportos>（英語）にあるオペレーティング システム サポート マトリックスを参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 3をインストールしている場合、Update 1（2.4.21-9.EL kernel）以上もインストールすることをおすすめします。詳しくは、Red Hat社のWebサイト<http://rhn.redhat.com/errata/RHSA-2004-017.html>を参照してください。

PSPは、オペレーティング システムのインストール後、ドライバの更新、HPのユーティリティ（ヘルス、RILOE、RILOE II、iLOドライバなど）とエージェント（基本、サーバ、NIC、ストレージなど）のインストールに使用するために設計されています。

ProLiant用LDU

HPは、システム ソフトウェアをアップグレードおよび管理するための簡単かつ効率的な方法を提供するためにLDUを開発しました。このユーティリティにより、ローカル サーバ上ではターミナル ウィンドウを使用し、リモートサーバ上ではsshユーティリティを使用して、PSPソフトウェアのインストールおよびメンテナンスを行うことができます。

LDU は、Linux 用 PSP とともに、HP の ソフトウェア と ドライバ の Web サイト <http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers> から入手できます。

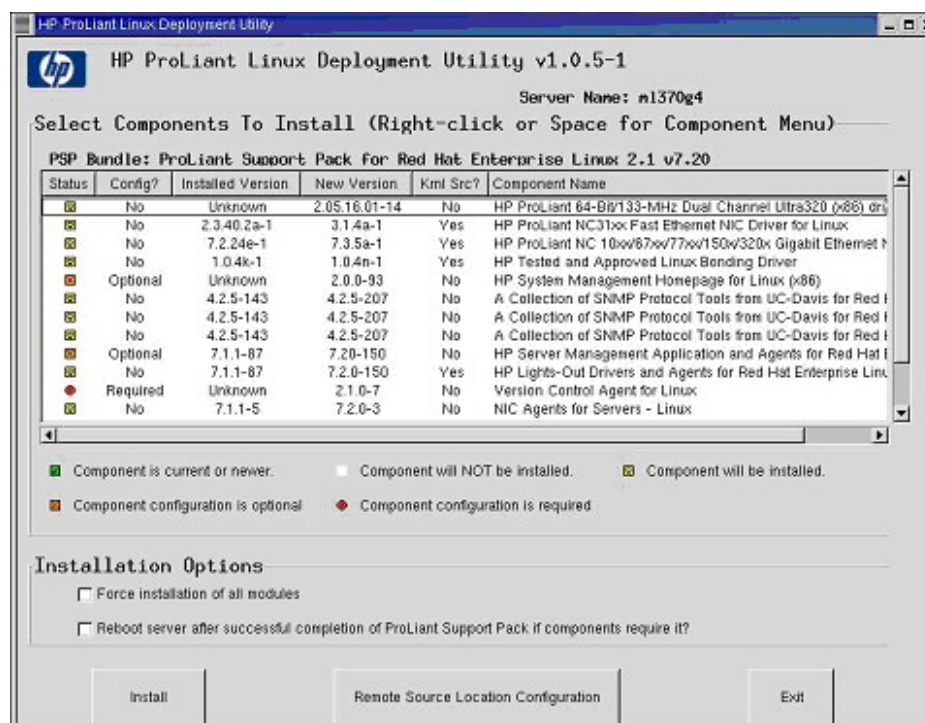


重要: LDUには、ルートのアクセス権が必要です。ルートのアクセス権がない場合は、インストールは行われません。

このユーティリティには、次の2つの動作モードがあります。

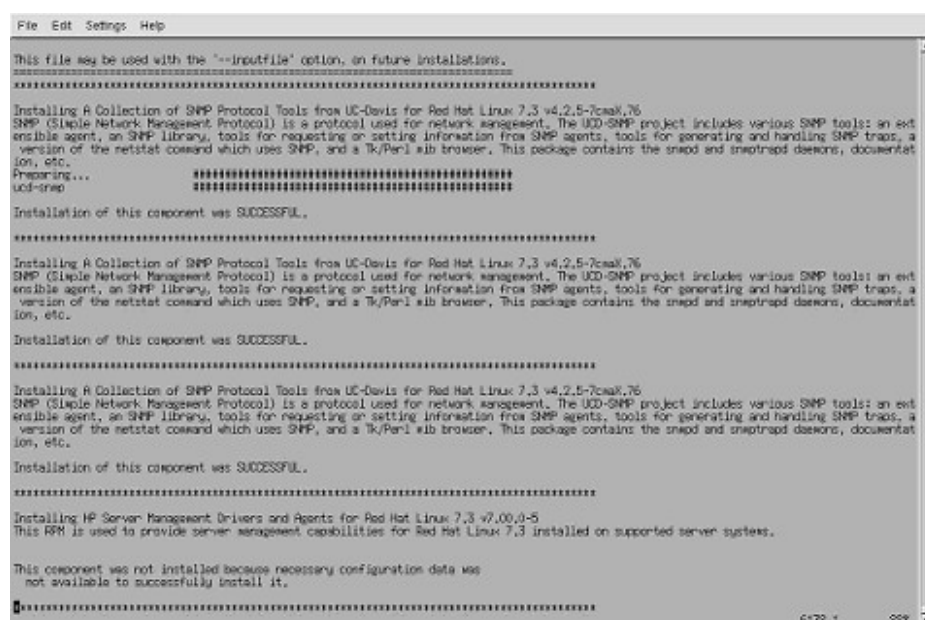
- **ターミナル ウィンドウ モード** - 非グラフィカル ターミナル ウィンドウによるPSPまたは個別のコンポーネントのインストールを行います。コマンド ライン パラメータを使用してターミナル ウィンドウ モードは、以下の3つの異なった方法で実行できます。
 - サイレント
 - ユーザ インタフェースなし
 - シングル ステップ - 各コンポーネントを別個に表示し、ユーザがそれをインストールするかどうかを尋ねるプロンプトを表示します。
- **グラフィカル モード** - PSPまたはPSP内のコンポーネントのサブセットのインストール手順を示すgtkベースのグラフィカル インタフェースを提供します。

LDUのグラフィカルモードを起動すると、メインウィンドウが表示されます。このウィンドウには、インストールしたバージョンのLinux用PSPの内容に関する詳細情報が表示されます。



PSPをターゲットサーバにインストールした後、LDUは、問題なくインストールされたコンポーネント、ターゲットシステムに不要であったコンポーネント、およびインストールの失敗の一覧を示す詳細なインストール結果を表示します。

LDUは、すべてのインストール動作（およびエラー）を収集して、この情報をサーバ上の/var/logサブディレクトリ（デフォルト）にある共通インストールログファイル（hppldu.log）に書き込みます。後続のインストール動作に関する情報は同じログファイルに追加されるため、そのターゲットサーバへのすべてのコンポーネントのインストール動作の履歴が作成されます。次の図に、インストールログファイルの例を示します。



Linuxサーバへの展開ユーティリティの使用シナリオ

LDUは、LinuxサーバへのPSPのインストールに使用されるソフトウェア メンテナンス ツールです。

次の図に示すように、PSPとコンポーネントの全体的なインストール方式は、Linuxサーバへのすべてのインストール シナリオで一致しています。ソフトウェアは、インストールする前に、Linuxのターゲット サーバにコピーしておく必要があります。ソフトウェアをターゲット サーバにコピーした後、ターゲット サーバのターミナル ウィンドウ、またはssh接続からターゲット サーバへインストールを実行できます。gtkインタフェースはネットワークを認識するため、ローカルのDISPLAY環境変数が適切に設定されていれば、このインタフェースにはリモートのX端末が表示されます。



シナリオ	インストールのタイプ	使用するインストール方法
1: ターミナル ウィンドウによるコマンドライン インストール	<ul style="list-style-type: none">ターミナル ウィンドウまたはシェル スクリプトを使用して、PSPをインストールできます。ターミナル ウィンドウまたはシェル スクリプトを使用して、PSPのサイレント インストールを実行できます。ターミナル ウィンドウから、どのコンポーネントをインストールするかを選択できます。スクリプト ファイルに詳しいか、またはLinux用PSPのインストールの自動化を希望する場合。コンポーネントのRPMファイルの詳細をターミナル ウィンドウに表示することを希望する場合。	<ul style="list-style-type: none"><code>./install???.sh -nui</code>を使用したターミナル ウィンドウによるインストール<code>./install???.sh -silent</code>を使用したターミナル ウィンドウによるインストール<code>./install???.sh -y -nui</code>を使用したターミナル ウィンドウによるインストール<code>./install???.sh -nui -inputfile filename</code>を使用したターミナル ウィンドウによるインストール<code>./install???.sh -view rpmname</code>を使用したターミナル ウィンドウによるインストール
2: gtkベースのGUIによるグラフィカル インストール	<ul style="list-style-type: none">インストールするコンポーネントをリストから選択できます。簡単なキーストロークですべてのコンポーネントをインストールできます。インストール結果をコンポーネントごとにグラフィック表示したいと望んでいます。インストール前に各コンポーネントの詳細を確認する必要があります。インストールするコンポーネントをグラフィック表示から選択することを希望する場合、またはスクリプト ファイルで作業することを希望しない場合。	<ul style="list-style-type: none"><code>./install???.sh</code>を使用したグラフィカル (gtkベース) インストール<code>./install???.sh -inputfile filename</code>を使用したグラフィカル (gtkベース) インストール

Linux用PSPのコマンド ライン構文

この項では、使用シナリオのコマンドラインパラメータについて説明します。パラメータは、大文字と小文字が区別され、先頭にダッシュ (-) またはダブルダッシュ (--) を付ける必要があります。説明のためいくつかのパラメータが表示されている場合は、そのいずれのパラメータも使用することができます。たとえば、-h、-?、および--helpは、同じ意味になります。パラメータは任意の順序で使用できます。

```
./install???.sh [-h | -? | --help] [--nui] [-s | --silent] [-r | --reboot] [-f | --force]
[--inputfile filename] [-t reboot_timeout_in_minutes] [-m "reboot_message"] [-v |
--verbose] [--view rpmname] [-y] [-q | --querystatuscode returncode]
```

コマンドライン引数	説明
-h, -?, -help	この引数は、コマンドラインパラメータのリストを表示します。
-nui	この引数は、ユーザインタフェースを非表示にします。ただし、インストール中、サイレント オプションを使用していない限り、出力はターミナル ウィンドウに表示されます。
-s, -silent	この引数は、サイレントインストールを有効にします。無効にしない限り、すべてのメッセージが/var/log/hppldu.logファイルに記録されます。最後のリターンコード以外、コンソール出力またはGUIは表示されません。
-r, -reboot	この引数は、インストール中のコンポーネントがこの引数を要求し、インストール中に障害が起きなかった場合にシステムを再起動します。
-f, -force	<p>この引数は、すべてのコンポーネントの強制的なインストールを行います。このオプションは、以下のインストール チェックをバイパスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最小カーネル バージョン チェック • 最大カーネル バージョン チェック • インストール済みライブラリ ファイルの要件 • インストール済みソフトウェアのバージョン チェック <p>必要なモジュール、ファイル、ソースコード、PCIデバイス サポート、およびビルド環境などの前提条件が満たされない場合、強制オプションはコンポーネントのインストールを強制しません。</p>
-inputfile filename	この引数は、PSPのスクリプト化されたインストールができるように、入力パラメータをLDUに渡すことを可能にします。filenameには、すべての有効なLinux用テキスト ファイル名を指定できます。filenameのフォーマットについて詳しくは、このマニュアルの「LinuxへのPSPの高度なインストール方法」 (75ページ) の「スクリプト化されたインストール」の項を参照してください。
-t reboot_timeout_in_minutes	この引数は、データを保存してサーバからログアウトするために、指定した時間（分）だけ再起動を遅らせます。-rebootパラメータが含まれていない場合、このパラメータは無視されます。
-m "reboot_message"	この引数は、サーバを再起動する前に、現在ログインしているすべてのユーザへのメッセージの送信を可能にします。メッセージを正しく送るには、メッセージを二重引用符で囲む必要があります。-rebootパラメータが含まれていない場合、このパラメータは無視されます。
-v, -verbose	この引数は、インストール中に通常の表示よりも多くの情報を表示できるようにします。
--view name.rpm.tar.gz, name.rpm	この引数は、該当するコンポーネントのRPMをターミナル ウィンドウに表示できるようにします。提供される名前は、componentname.rpm または componentname.rpm.tar.gzの形式である必要があります。
-y	この引数により、ターミナル ウィンドウによるPSPのインストール手順を実行できます。コンポーネントごとに、コンポーネントをインストールするかどうか、またはLDUを終了するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。yスイッチは、-nuiスイッチを有効にします。
-q returncode、 -querystatuscode returncode	この引数は、すべてのLDUリターンコードについて、関連するテキストを表示します。この引数を使用すると、インストールは実行されません。

LDUのリターンコード

値	意味
0	インストールは成功しました。再起動は必要ありません。
1	コンポーネントのXMLファイルが見つからないか、または壊れています。
2	バンドルXMLファイルにインストールするコンポーネントがありません。
3	バンドルXMLファイルが失われたか、またはインストールしたバージョンのLinuxに対応したバンドルXMLが見つかりませんでした。
4	コンポーネントのRPMファイルが見つからないか、または壊れています。
5	1つ以上のコンポーネントの条件が満たされていません。
6	コマンドラインで設定入力ファイルとして示されたファイルが見つかりませんでした。
7	選択したコンポーネントは、このシステムには必要ありません。
8	現在インストールされているLinuxのディストリビューションをサポートする、複数のバンドルXMLファイルが検出されました。
9	ユーザはLDUを終了する前にコンポーネントを何もインストールしませんでした。
10	1つ以上のコンポーネントのインストールが失敗しました。
11	ユーザは設定が必要なコンポーネントを設定しませんでした。
12	1つ以上のコンポーネントの事前設定が失敗しました。
14	1つ以上のコンポーネントの事後設定が失敗しました。
15	予備
16	コンポーネントのインストールは成功しました。1つ以上のコンポーネントのインストールを完了するには、再起動が必要です。
17	ソフトウェアのバージョンが以前にインストールしたバージョンと同じであるため、選択したコンポーネントのインストールは行われませんでした。
18	新しいバージョンのソフトウェアがすでにインストールされているため、選択したコンポーネントのインストールは行われませんでした。
19	コンポーネントによってサポートされているハードウェアがサーバ内に見つからないため、選択したコンポーネントのインストールは行われませんでした。
20	./install???shコマンドの1つ以上のコマンドラインパラメータに誤りがあり、インストールするには修正が必要です。
21	Ctrl+Cキーが押されたため、Linux用PSPのインストールが完了せずに中止されました。
22	LDUのインスタンスが他にもこのサーバ上で実行されているのが見つかりました。一度に実行できるLDUは1つだけです。
23	[Abort] ボタンがクリックされたため、コンポーネントのインストール中にインストールが中止されました。
24	コンポーネントがサーバアーキテクチャまたはプロセッサタイプをサポートしていません。このリターンコードは、サーバで使用されているプロセッサのベンダ（AMD、Intel®など）またはビット幅（32ビットまたは64ビット）をサポートしていないコンポーネントによって返されることがあります。

シナリオ1：ターミナルウィンドウによるコマンドラインインストール

`./install???.sh` コマンドを使ったターミナルウィンドウによるインストールは、`-s`、`-nui`、または`-y`スイッチを引数として実行できます。LDUを操作するには、ルートのアクセス権が必要です。インストールシェルは、コマンドライン操作にLDUを設定します。LDUは、使用可能なバンドルをサーバにインストールされたバージョンのLinuxと比較して、適切なPSPバンドルを判断します。その後、LDUは、PSPのインストールを続けます。

サイレントインストール

サイレントインストール中、LDUはユーザ入力のプロンプトを表示しません。通常、ユーザ入力を必要とするコンポーネントでは、`./install???.sh` コマンドの`-inputfile filename`を使用して入力ファイルに必要な情報が提供されていない場合、インストールが失敗します。PSPのインストールには最大30分を要する場合があります（特に複数のドライバを構築しなければならない場合）。サイレントインストールでは、すべてのコンポーネントをインストールします。

サイレントでインストールするには、`./install???.sh` コマンドで`-s`または`-silent`オプションを使用する必要があります。
`./install???.sh --silent`

通常はインストール中にターミナルウィンドウに書き込まれるすべての出力が、デフォルトのログファイル、`/var/log/hppldu.log`に保存されます。

非グラフィカル ユーザ インタフェースのインストール

非グラフィカル ユーザ インタフェースによるインストール中、インストールはターミナルウィンドウで行われます。LDUがこのモードの場合、ユーザの入力とプログラムの出力は、ターミナルウィンドウ表示されます。プログラムの出力は、デフォルトのログファイル、`/var/log/hppldu.log`にも保存されます。

非グラフィカルユーザインタフェースでインストールするには、`./install???.sh` コマンドで`-nui`オプションを使用する必要があります。

`./install???.sh --nui`

`-nui`インストールの開始時に、インストールされているLinuxバージョンに適切なPSPが判断されます。このPSPには、そのバージョンのLinuxをサポートするコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントの内容は、インストール要件を調べるために解析されます。

コンポーネントの設定が必要な場合、これらのコンポーネントのインストール中に設定情報を求めるプロンプトが表示されます。パスワードが必要な場合、オリジナルのパスワードを確認するように求められます。設定データが有効と確認された後、`-nui`インストールがPSP内のコンポーネントのインストールを続行します。

インストール中、インストールされている各コンポーネントの情報が表示されます。インストール中のコンポーネントの名前、バージョン、および説明がコンソールに表示されます。インストールによって生成されるすべてのデータ（RPMスクリプトの出力を含む）は、ターミナルウィンドウに表示され、コンポーネントがインストールされるまで続きます。

インストールが完了すると、LDUによって最終ステータスが返されます。再起動オプションが選択されている場合、インストールが成功すると、サーバは再起動します。再起動オプションが選択されていない場合には、ターミナルウィンドウのプロンプトに戻ります。

```
File Edit Settings Help
for the HP ProLiant NC77xx Gigabit Ethernet NIC Driver for Linux package
is being performed at this time.

A Post-Installation operation,
"fw /etc/modules.conf" for the HP ProLiant NC77xx Gigabit Ethernet NIC Driver for Linux package
is being performed at this time.

Installation of this component was successful.

Preparing to install HP Tested and Approved Linux Bonding Driver v1.0.4a-1
This RPM Package contains the HP Tested and Approved Linux
bonding driver for use with HP Server Adapters mentioned in
the PRODUCTS AFFECTED section of this document.

A Pre-Installation operation,
"rm -o --quiet bonding",
for the HP Tested and Approved Linux Bonding Driver package
is being performed at this time.

Installing:
"bonding-1.0.4a-1.src.rpm" package.

A Post-Installation operation,
"rpmbuild -bb --quiet --clean --source $(RPMDIR)/SPEC/bonding.spec",
for the HP Tested and Approved Linux Bonding Driver package
is being performed at this time.

A Post-Installation operation,
"rm -i --force --noexec --quiet $(RPMDIR)/RPMS/i386/bonding-1.0.4a-1.i386.rpm",
for the HP Tested and Approved Linux Bonding Driver package
is being performed at this time.
```



重要：-sスイッチが使用されていて、有効なSupport Pack XMLファイルが見つからないか、または2つ以上の有効なSupport Pack XMLファイルが見つかった場合には、インストールは失敗します。

シングル ステップ インストール

シングル ステップ インストール中、インストールはターミナル ウィンドウで行われます。LDUがこのモードの場合、ユーザの入力とプログラムの出力は、ターミナル ウィンドウで提供されます。プログラムの出力は、デフォルトのログ ファイル、/var/log/hppldu.logにも保存されます。

シングルステップモードを使用してインストールするには、./install???.shコマンドで-yオプションを使用する必要があります。-yパラメータによってターミナル ウィンドウでのインストールが行われます。

```
./install???.sh -y
```

シングルステップインストールの開始時に、インストールされているLinuxバージョンに適切なPSPが判断されます。このPSPには、そのLinuxバージョン用にインストールされるコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントは、インストール要件を調べるために解析されます。

コンポーネントの設定が必要な場合、これらのコンポーネントのインストール中に設定情報を求めるプロンプトが表示されます。パスワードが必要な場合、オリジナルのパスワードを確認するように求められます。

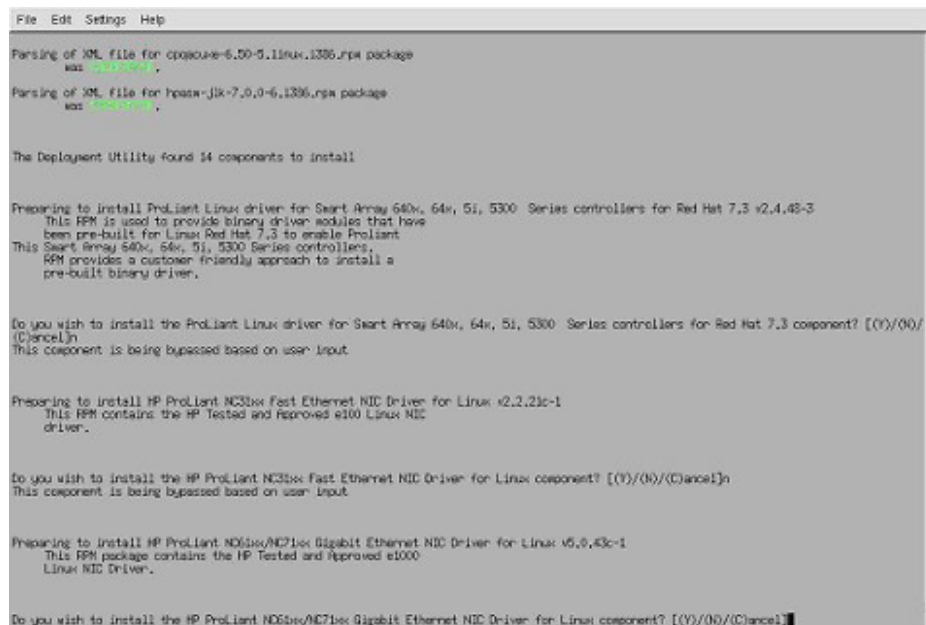
コンポーネントXMLファイルの解析後、シングルステップインストール プロセスで特定のコンポーネントをインストールするかどうかを選択するメッセージが次のように表示されます。

```
Do you wish to install the <component name> component? [(Y)/(N)/(C)ancel]
```

"y"または"Y"を選択すると、コンポーネントがインストールされます。"n"または"N"を選択すると、LDUはコンポーネントをインストールせず、インストールされるコンポーネント リストの次のコンポーネントに進みます。"c"または"C"を選択すると、LDUは終了して、残りのコンポーネントをインストールしません。

特定のコンポーネントのインストールを選択するかどうかに関わらず、コンポーネントの名前、バージョン、および説明がコンソール上に表示されます。コンポーネントのインストールを選択すると、RPMスクリプトからの出力など、インストールによって生成されるデータが、ターミナル ウィンドウに表示されます。これは、バンドル内の各コンポーネントのプロンプト表示が終わるまで、またはLDUをキャンセルして終了するまで続きます。

インストールが完了すると、LDUによって最終ステータスが返されます。再起動オプションが選択されている場合、インストールが成功すると、サーバは再起動します。再起動オプションが選択されていない場合には、ターミナルウィンドウのプロンプトに戻ります。



```
File Edit Settings Help
Parsing of RPM file for cpqsasme-6.00-5.11linux.i386.rpm package
was: [OK]
Parsing of RPM file for hpasm-jdk-7.0.0-6.i386.rpm package
was: [OK]

The Deployment Utility found 14 components to install

Preparing to install ProLiant Linux driver for Smart Array 640x, 64x, 5i, 5300 Series controllers for Red Hat 7.3 x2.4.48-3
This RPM is used to provide binary driver modules that have
been pre-built for Linux Red Hat 7.3 to enable ProLiant
This Smart Array 640x, 64x, 5i, 5300 Series controllers.
RPM provides a customer friendly approach to install a
pre-built binary driver.

Do you wish to install the ProLiant Linux driver for Smart Array 640x, 64x, 5i, 5300 Series controllers for Red Hat 7.3 component? [(Y)/(N)/(C)cancel]n
This component is being bypassed based on user input.

Preparing to install HP ProLiant NC31xx Fast Ethernet NIC Driver for Linux x2.2.21c-1
This RPM contains the HP Tested and Approved e100 Linux NIC
driver.

Do you wish to install the HP ProLiant NC31xx Fast Ethernet NIC Driver for Linux component? [(Y)/(N)/(C)cancel]n
This component is being bypassed based on user input.

Preparing to install HP ProLiant NC61xx/NC71xx Gigabit Ethernet NIC Driver for Linux v5.0.43c-1
This RPM package contains the HP Tested and Approved e1000
Linux NIC Driver.

Do you wish to install the HP ProLiant NC61xx/NC71xx Gigabit Ethernet NIC Driver for Linux component? [(Y)/(N)/(C)cancel]n
```

ターミナル ウィンドウからのコンポーネント データの表示

ターミナル ウィンドウから、コンポーネントをインストールせずにLDUによって処理された、インストール前の要件とインストール後の要件に関する情報を取得できます。これは、`--view` コマンドライン オプションを使用して実行できます。`--view` コマンドライン オプションで返される情報には、以下のものがあります。

- コンポーネント名
- RPMファイル名
- 現在インストールされているバージョン
- 新しいバージョン
- コンポーネントを有効にするために再起動が必要かどうか
- 設定要件とステータス
- コンポーネントの説明
- サポートされている最低および最高カーネルバージョン、実行されるコマンド、サポートされているPCIデバイスID、必要なディレクトリとファイル、コンポーネントの構築に必要な環境変数などのインストール前およびインストール後のコマンド

`--view` コマンドの使い方の例を以下に示します。

```
./install???.sh --view hpasm
```

```

File Edit Settings Help

COMPONENT DETAILS:

Component Name: HP Server Management Drivers and Agents for Red Hat Linux 7.3
RPM FileName: hpsm-7.0.0-10.rh73.i386.rpm

Current Version: Unknown
New Version: 7.0.0-10

Reboot Required: Yes
Configuration Required: Yes

Component Description:
This RPM is used to provide server management capabilities
for Red Hat Linux 7.3 installed on supported server
systems.

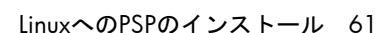
Pre-Installation:
Minimum Kernel Supported: 2.4.18-3
Maximum Kernel Supported: 2.4.99-99
Command To Execute: /usr/share/diagnostics/stop_diags.sh
Command To Execute: rpm -e mdhages
Command To Execute: rpm -e cmanic-jlk
Command To Execute: rpm -e cmanor-jlk
Command To Execute: rpm -e hpsm-jlk
Command To Execute: rpm -e cmanic
Command To Execute: rpm -e cmanor
Command To Execute: rpm -e cmanv
Command To Execute: rpm -e cmanfn
Command To Execute: rpm -e cmanlis
Command To Execute: rpm -e cmanld
Command To Execute: rpm -e cmancl
Command To Execute: rpm -e cmaneth
Command To Execute: rpm -e hpsm
Command To Execute: /etc/init.d/hpsm stop
Command To Execute: rpm -e hpsm
Command To Execute: /bin/cp -f /var/ftp/hpsm/conf.orig /etc/snmp/snmpd.conf
Environment Variable To Set: OMFTOINSLNT=YES

Post-Installation:
Program Required to be Running: csmad
Command To Execute: /etc/init.d/snmpd start
Command To Execute: /etc/init.d/hpsm start
Command To Execute: /etc/init.d/hpsm start csmadfn

```

グラフィカルインストールでは、`--nui`、`--silent`、または`-y`パラメータ以外の`./install???.sh`コマンドを使用します。gtkベースのGUIを使って、PSPコンポーネントをインストールすることができます。

LDUグラフィカルモードを起動すると、メインウィンドウが表示されます。



メインのインストール画面に表示される情報には、以下のようなものがあります。

- インストール対象のサーバの名前
- サーバにインストールされるPSPの名前
- [Select Components to Install]セクション

[Select Components to Install]セクションには、以下の5つの欄があります。

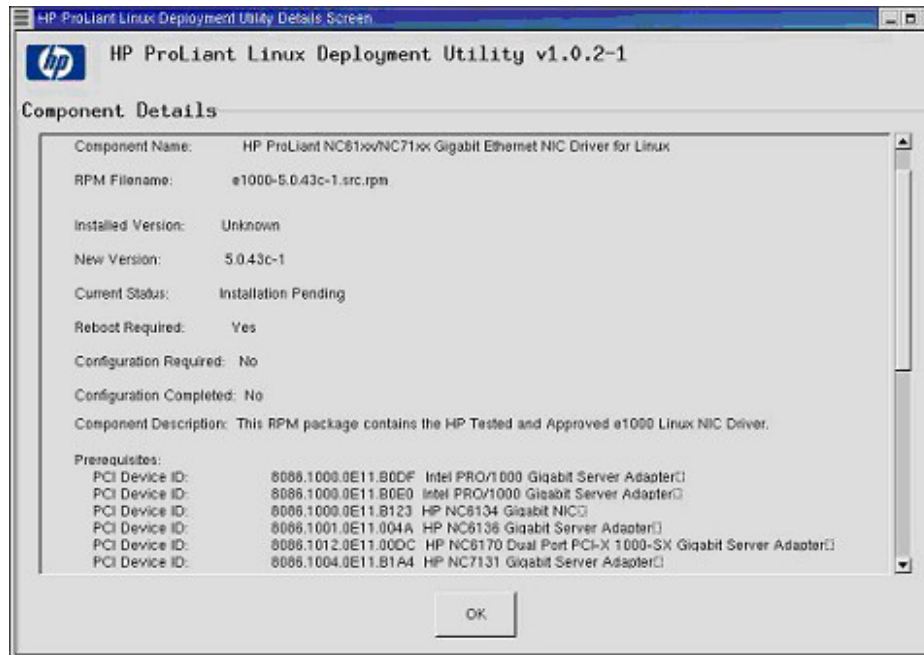
- [Status]欄には、各コンポーネントの現在のインストール ステータスの一覧が表示されます。
 - ☒ 現在すでにインストールされているコンポーネントのバージョンが、PSP内のコンポーネントのバージョンと同じかそれ以上です。[Install]ボタンをクリックしてもPSPコンポーネントはインストールされません。
 - ☒ コンポーネントがインストールされていないか、またはインストールされているバージョンが、PSP内のコンポーネントよりも古いバージョンです。[Install]ボタンをクリックすると、PSPコンポーネントがインストールされます。
 - ☒ コンポーネントの設定は任意です。コンポーネントのパラメータを変更しない場合、設定パラメータのデフォルト値が使用されます。[Install]ボタンをクリックすると、PSPコンポーネントがインストールされます。
 - ☒ コンポーネントは設定が必要です。コンポーネントがインストールされることがあっても、設定が正常に完了するまでは機能を完全に利用することができません。[Install]ボタンをクリックすると、PSPコンポーネントがインストールされます。
 - アイコンがない場合、コンポーネントは選択を解除されています。コンポーネントはインストールされていません。
- [Config?]欄には、コンポーネントごとに設定が必要かどうかが表示されます。
 - Required - このコンポーネントを正常にインストールするには設定が必要です。
 - Optional - このコンポーネントの設定は、オプションです。変更しなければ、設定のデフォルト値が使用されます。
 - Completed - このコンポーネントは設定済みで、インストールを続行することができます。
 - No - このコンポーネントには、設定は不要です。
- [Installed Version]欄には、各コンポーネントの現在インストールされているバージョンの一覧が表示されます。
- [New Version]欄には、各コンポーネントでインストールできる新しいバージョンが表示されます。
- [Krnل Src?]欄には、カーネル ソースまたはカーネル ヘッダ ファイルがないとインストールできないコンポーネントの一覧が表示されます。これらのコンポーネントのほとんどは、インストール時にソースRPMから構築されます。
- [Description]欄には、各コンポーネントの説明が表示されます。

メイン ウィンドウの[Select Components to Install]セクションを使用すると、コンポーネントの詳細を表示し、コンポーネントを設定し、インストールするコンポーネントを選択することができます。

コンポーネントの詳細を表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューからコンポーネントを選択します。
2. コンポーネントを右クリックして、コンポーネント情報メニューを表示します。

3. (次の図のような) 選択したコンポーネントの詳細を見るには、[**Component Details**]オプションを選択します。



オプションの設定が必要なコンポーネントを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. コンポーネントを選択します。
2. コンポーネントを右クリックして、コンポーネント情報メニューを表示します。
3. [Configure Component]オプションを選択します。選択したコンポーネントの設定画面が表示されます。詳しくは、「コンポーネントの設定」(67ページ)を参照してください。

以下の方法を使用して、[Selected Components to Install]セクションからインストールするコンポーネントを選択または選択解除できます。

- コンポーネントをダブルクリックする。
- 単一のコンポーネントを選択する。
- **Ctrl**キーまたは**Shift**キーを押したまま、複数のコンポーネントを選択する。

追加または削除するコンポーネントを選択した後、選択したコンポーネントを右クリックして、コンポーネント情報メニューを表示し、[**Install Component**]または[**Do Not Install Component**]を選択します。

メインウィンドウの[Installation Options]セクションを使用すると、コンポーネントのインストールの強制または再起動オプションを設定できます。オプションは、以下のとおりです。

- すべてのコンポーネントを強制的にインストールする（インストールされているバージョンに関係なく）。このオプションにより、LDUはいくつかの依存性チェックをバイパスして、PSP内のすべてのコンポーネントをインストールしようとします。

強制オプションは、以下のチェックをバイパスします。

- 最小カーネル バージョン
- 最大カーネル バージョン
- ライブラリ ファイルの依存性
- インストール済みソフトウェアのバージョン チェック

注： 強制オプションを使用する場合でも、ファイルとディレクトリの依存性、PCIデバイスの有無の確認、プログラムの正常な実行とインストールの完了に必要なスクリプトなどの一部の依存性は必要です。

また、このオプションにより、当該コンポーネントのRPMインストール段階に、RPMベースのコンポーネントで`-force`オプションを使用できます。強制オプションについて詳しくは、「Linux用PSPのコマンドライン構文」(55ページ)を参照してください。`./install???.sh`コマンドで`-force`オプションを使用した場合、GUIに強制オプションが設定されます。

- コンポーネントがサーバの再起動を必要とする場合、ProLiant Support Packのインストールが正常に成功した後に、サーバを再起動する。このオプションにより、インストールが正常に完了した後にサーバをシャットダウンして再起動できます。インストールに失敗したコンポーネントがあると、再起動はされません。GUIの再起動オプションは、`./install???.sh`コマンドに渡された`+y`や`+m`などのパラメータを使用し、`/sbin/shutdown`プログラムを使ってサーバを再起動します。シャットダウンは、`+c`コマンドによって、タイムアウトの設定が渡されていない限り、ターミナル ウィンドウで`/sbin/shutdown -c`コマンドを使用して中止できます。

LDUメイン ウィンドウの下部には、[Install]と[Exit]という2つのボタンがあります。

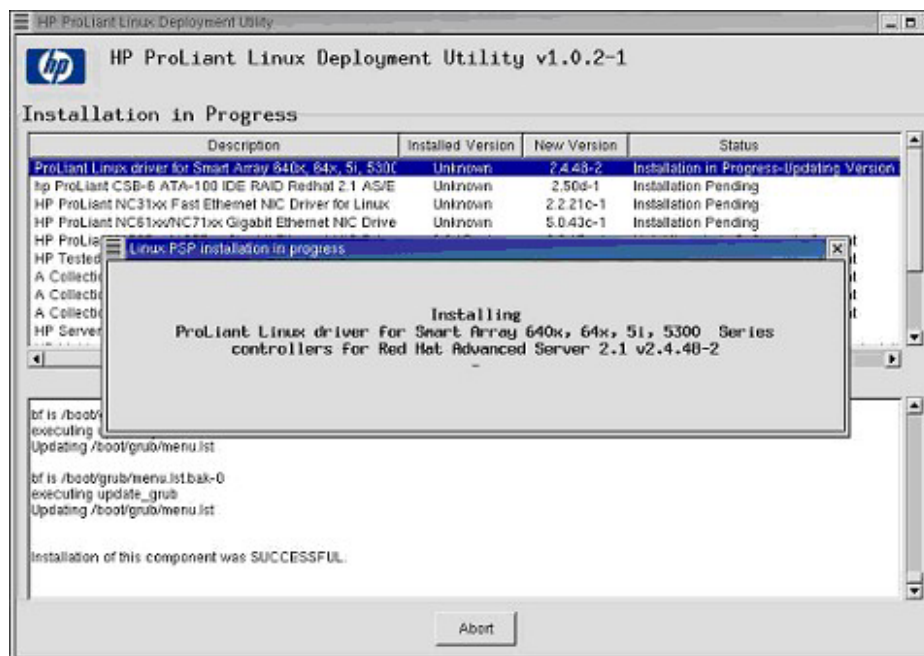
注：表示解像度が800×600の場合、[Install]および[Exit]ボタンがユーザパネルの下に隠れてしまうことがあります。[Install]および[Exit]ボタンを表示するには、ユーザ パネルを表示しないようにするか、または画面の一方の側に寄せてください。

- コンポーネントを選択して必要に応じて設定し、その他のオプションを選択した後、[Install]ボタンを使用して、実際のインストールを開始できます。
- [Exit]ボタンを使って、インストールを終了できます。

注：[Install]ボタンを選択するまでは、何もインストールされません。

[Install]を選択すると、[Installation in Progress]画面が表示されます。この画面には、必要な場合に、インストールを終了する[Abort]ボタンがあります。

注：[Abort]ボタンは、インストールを現時点の状態で停止します。コンポーネントのクリーンアップや削除は行われません。コンポーネントのインストールが進行中の場合、現在のコマンドが完了してから終了します。コマンドが約45秒以内に完了しない場合、現在のコマンドはキャンセルされLDUは終了します。



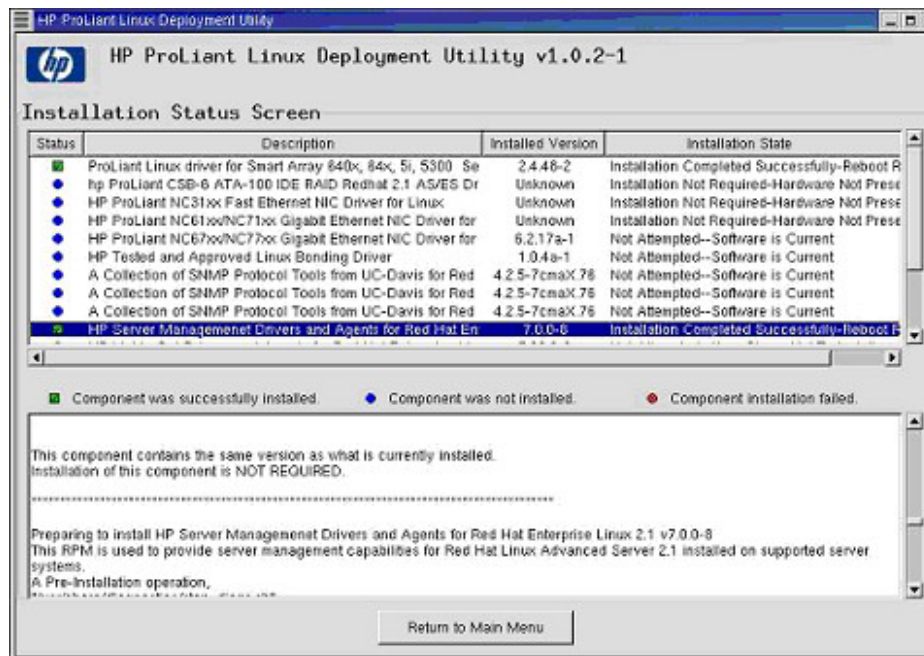
[Installation in Progress]画面には、4つの欄があります。

- [Description] - 各コンポーネントの説明が表示されます。
- [Installed Version] - 各コンポーネントの現在インストールされているバージョンの一覧が表示されます。
- [New Version] - PSPに含まれるコンポーネントの新しいバージョンの一覧が表示されます。
- [Status] - 各コンポーネントのインストールのステータスを表示します。現在インストール中のコンポーネントは、強調表示されます。




画面下のフレームには、インストールの現在の進捗状況のログが表示されます。

注: Linux用PSPの完全インストールには、最大で30分程かかることがあります。ドライバのコンパイル、古いRPMの削除などの操作は、プロセッサおよびI/Oに負荷が集中する操作ですので、完了するまでに時間がかかることがあります。

インストールが終了すると、インストールが終了したことを示すウィンドウが表示されます。[Installation Status Screen]を表示するには、**[OK]**をクリックします。



[Status]欄は、インストールしたコンポーネントの最終インストールステータスを示します。アイコンの意味は以下のとおりです。

-  コンポーネントのインストールは成功しました。
-  コンポーネントのインストールは失敗しました。
-  コンポーネントをインストールする必要がありませんでした。

コンポーネントのインストールが失敗した場合は、Installation Status Screenの下部にあるインストール ログを使用して、原因を調べてください。インストールに失敗した特定のコンポーネントについてのログファイルを表示するには、上部のウィンドウでそのコンポーネントを選択します。下部のウィンドウのログファイルに、ログの適切な部分が表示されます。

特定の前提条件を満たしていない場合、コンポーネントは「not required」と表示されます。たとえば、ドライバは、そのドライバがサポートするPCIデバイスが存在する場合にだけインストールされます。コンポーネントのバージョンが、前にインストールされたものと同じかそれよりも古い場合、または特定のコンポーネントをインストールしないことを選択した場合も、コンポーネントは「not required」と表示されます。

[Installation Status Screen]を表示した後、**[Return to Main Menu]**ボタンをクリックすると、LDUのメインメニューに戻ります。前のインストールの結果でメインメニュー画面を更新するには、数秒かかる場合があります。画面を更新した後、別のコンポーネントをインストールするか、LDUを終了するかを選択できます。

高度な方法について

WindowsへのPSPの高度なインストール方法

この項では、Windows®へのPSPの高度なインストール方法について説明します。

コンポーネントの設定

コンポーネントを設定するには、Smartコンポーネントが書き込みアクセス可能な位置にある必要があります。CDや読み取り専用ネットワーク共有はサポートされていません。SmartStart CDからSupport Packを入手した場合は、Support Packディレクトリのコンテンツ全体をローカルハードディスクドライブまたはネットワーク共有にコピーして、すべてのファイルから読み取り専用属性の選択が解除されていることを確認してください。

一部のコンポーネントでは、必須またはオプションの設定を行います。設定パラメータには、コンポーネントを正しく設定するために必要な情報やコンポーネントでソフトウェアをインストールするために必要なパスワードも含まれます。コンポーネントのオプション設定データが提供されない場合、コンポーネントが以前にインストールされていないと、その設定データのデフォルト値が使用されます。コンポーネントが以前にインストールされて設定されている場合、設定データが変更されないと、既存の設定情報が保持されます。

設定可能なコンポーネントは、[インストールするアイテムを選択してください]画面の[任意の動作]欄に示されます。コンポーネントを設定するには、[今すぐ設定]をクリックします。



[アイテム設定]画面が表示されたら、指示に従ってください。設定が完了すると、[インストールするアイテムを選択してください]画面に戻ります。

コマンドラインインストール

HP Smart Update Managerのコマンドライン インタフェースを使用すると、スクリプト カスタム インストールが可能です。

コマンドライン構文

HP Smart Update Managerの一般的なコマンドライン構文は、以下のとおりです。

```
hpsum [/h[elp]] [/?][/f[orce]] [/f[orce]:bundle] [/f[orce]:rom] [/f[orce]:software]
[/f[orce]:all] [/g (/downgrade)] [/e (/rewrite)] [/m[utual]] [/r[ebot]]
[/reboot_message "reboot message"] [/reboot_delay timeout_in_seconds]
[/reboot_always] [/s[ilent]] [/c[omponent] <component_to_install>] [/group
"group_name"]
[/b[undle] <bundle_to_install>] [/allow_update_to_bundle]
[/allow_non_bundle_components] [/use_latest] [/use_location "file_share"]
[/use_snmp] [/use_wmi] [/romonly] [/softwareonly] [/dryrun] [/continue_on_error
<error>] [/override_existing_connection] [/express_install] [/user <username> or
/username <username>] [/passwd <password>] [/current_credential] [/target
"netAddress"] [/logdir "path"] [<component1_to_install>
<component2_to_install> ...][<bundle1_to_install> <bundle2_to_install> ...]
```

Onboard AdministratorでHP Smart Update Managerを使用する場合は、ログインのためにユーザIDとパスワードが必要です。ユーザIDは、オペレータ レベルやユーザ レベルではなく、管理者レベルのIDでなければなりません。

注： 角カッコで囲まれた引数および情報はすべてオプションです。

Windows®オペレーティング システムでは、各引数の前にスラッシュ (/) を付けます。Linuxオペレーティング システムでは、各引数の前にハイフン (-) を付けます。

コマンド ラインでコマンド ライン引数を指定しないと、コンポーネントのGUIが表示されます。

コマンド ライン引数

HP Smart Update Managerは、次のコマンド ライン引数を認識します。[インストールするアイテムを選択してください]画面のGUIには、これらの引数があらかじめ入力されています。ユーザがホストまたはグループを指定している場合は、[インストールするアイテムを選択してください]画面は表示されません。

/romonly、/softwareonlyなど、一部の引数は併用できません。

コマンド ライン引数	説明
/h[elp]または/?	この引数では、コマンド ラインのヘルプ情報が表示されます。
/f[orce]	この引数により、現在インストールされているコンポーネントを上書きまたはダウングレードできます。この引数の役割は、/f:softwareと同じです。
/f[orce]:bundle	この引数により、選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを上書きまたはダウングレードできます。
/f[orce]:rom	この引数により、選択されているファームウェア コンポーネントのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます（ファームウェアにのみ適用）。
/f[orce]:software	この引数により、選択されているソフトウェア コンポーネントのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます。
/f[orce]:all	この引数により、選択されているソフトウェア コンポーネント、ファームウェア コンポーネント、およびバンドルのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます。
/gまたは/downgrade	この引数により、ハードディスク ドライブ、アレイ コントローラなど、マルチターゲット デバイスのファームウェアを以前のバージョンにダウングレードできます（ファームウェアにのみ適用）。
/eまたは/rewrite	この引数により、ハードディスク ドライブ、アレイ コントローラなど、マルチターゲット デバイスだけを対象にバージョンを変更せずにファームウェアを再書き込みできます（ファームウェアにのみ適用）。
/m[utual]	この引数は、フラッシュ対象のデバイスが共有ストレージ環境にある場合に、ファームウェア フラッシュ エンジンにファームウェアのフラッシュを通知します。フラッシュ対象のデバイスが共有ストレージ環境にある場合、-mオプションを渡さないと、コンポーネントのインストールは失敗します（ファームウェアにのみ適用）。
/r[eboot]	この引数では、次の条件を満たす場合、サーバ（リモート インストールではホストサーバ）が再起動します。 <ul style="list-style-type: none">• /rebootオプションが選択されているか、コマンド ライン引数として指定されている。• インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた。• インストールされたコンポーネントのうち少なくとも1つで、インストールを完了するために再起動が必要。

コマンドライン引数	説明
/reboot_message "reboot message"	この引数では、再起動するサーバに接続されているリモート コンソールに、指定した再起動メッセージを表示します。この引数は /reboot オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。
/reboot_delay timeout_in_seconds	この引数は、timeout_in_seconds 変数で指定された時間だけ、サーバの再起動を遅らせます。この引数は /reboot オプションと組み合わせて使用してください。そうでない場合は無視されます。指定できる値は15～3600です。デフォルトのタイムアウト値はMicrosoft® Windows®で15秒、Linuxで60秒です。Linuxでは、再起動遅延の時間は秒単位から分単位に変換され、1分未満（59秒以下）の値は切り上げられます。
/reboot_always	この引数では、次の条件を満たす場合、サーバを再起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • /reboot_always オプションが選択されているか、コマンドライン引数として指定されている。 • インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされた。
/s[ilent]	この引数を指定すると、GUIやコンソールの出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログ ファイルに書き込まれます。生成されるプロンプトではすべてデフォルト オプションが使用され、ユーザの入力なしでインストールが続行されます。コンポーネントでインストール前に設定情報などの入力が必要な場合は、そのコンポーネントのインストールは失敗しログ ファイルにエラー メッセージが書き込まれます。/s[ilent] 引数を使用する場合、失敗した依存状態はユーザに報告されません。失敗した依存状態をチェックするには、/s[ilent] 引数を削除して、コマンドラインを再発行します。そうすると、HP Smart Update Manager GUIが表示されます。
/c[omponent] <component to install>または <component1_to_install> <component2_to_install>	この引数は、インストールするコンポーネントを指定します。インストールするコンポーネントは、/c[omponent] 引数を付けて指定することも付けずに指定することもできます。/c[omponent] 引数を付ける場合、この引数で指定できるコンポーネントは1つだけです。ただし、複数の/c引数、つまりコンポーネントを1つのコマンドラインで指定できます。/c[omponent] 引数を使用しない場合、複数のコンポーネントを同時に指定できますが、各コンポーネントをブランクで区切る必要があり、コマンドライン上のすべての引数のあとで指定しなければなりません。コンポーネントの依存関係により別の順序でインストールする必要がある場合を除き、インストールは指定された順序で行われます。依存関係がある場合は、できるだけ多くのコンポーネントのインストールが成功するように、ユーティリティによりその依存関係に基づいてインストール順序が変更されます。複数のコンポーネントとバンドルを同じコマンドラインで指定できます。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタ スイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。
/group "group_name"	この引数は、HP Smart Update Manager GUIで定義済みのグループ名を指定します。
/b[undle] <bundlename>または <bundle1_to_install> <bundle2_to_install>	この引数は、インストールするバンドルを指定します。インストールするバンドルは、/b[undle] 引数を付けて指定することも付けずに指定することもできます。/b[undle] 引数を付ける場合、この引数で指定できるバンドルは1つだけです。ただし、複数の/b引数、つまりバンドルを1つのコマンドラインで指定できます。/b[undle] 引数を使用しない場合、複数のバンドルを同時に指定できますが、バンドルをブランクで区切る必要があり、コマンドライン上のすべての引数のあとで指定しなければなりません。複数のコンポーネントとバンドルを同じコマンドラインで指定できます。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタ スイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。

コマンド ライン引数	説明
/allow_update_to_bundle	この引数はフィルタ スイッチであり、この引数により、ユーザは、PSPまたはファームウェア バンドルで定義されたものより新しいバージョンのコンポーネントをインストールできます。この引数により、これらのコンポーネントを、バンドルに付属している可能性があるものより古いバージョンのコンポーネントに置き換えることができます。
/allow_non_bundle_components	この引数はフィルタ スイッチであり、この引数を使うとバンドルに含まれていないがバンドル内のコンポーネントとともにディレクトリに存在するコンポーネントをインストールできます。
/use_latest	この引数は、バンドルとともに使用するフィルタ スイッチです。この引数により、コマンド ラインに複数のバージョンのバンドルが指定されている場合に、最新のバージョンが使用されます。コマンド ラインでバンドルが指定されておらずディレクトリ内に複数のバンドルがある場合、/use_latest引数を追加すると、HP Smart Update Managerは最新バージョンのバンドルを使用してインストールを実行できます。
/use_location "file_share"	この引数は、HP Smart Update Managerで使用するPSPおよびコンポーネントを含むディレクトリまたはファイル共有を指定します。この引数を指定しない場合、デフォルトでhpsum.exeまたはHP Smart Update Managerを含むディレクトリが使用されます。ログイン アカウントが、この位置にアクセスできなければなりません。ファイル共有へのアクセスを試みる際に、/userおよび/passwd引数は影響しません。これらの引数は、ターゲット システムに接続する際のみ使用されます。
/use_snmp	この引数は、SNMPプロトコルを使用するコンポーネントをインストール対象として選択できることを指定します。これらのコンポーネントは、デフォルトで選択できます。/use_snmp引数が使用され、/use_wmi引数が使用されていない場合、WMIコンポーネントはオプションになります。
/use_wmi	この引数は、WMIプロトコルを使用するコンポーネントをインストール対象として選択できることを指定します。これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、この引数を指定しない場合はインストールされません。/use_wmi引数が使用され、/use_snmp引数が使用されていない場合、SNMPコンポーネントはオプションになります。
/romonly	この引数はフィルタ スイッチであり、このスイッチを使うとインストールに必要なファームウェア コンポーネントだけを表示できます。このフィルタ スイッチを使用する場合、HP Smart Update Managerをいったん終了して再起動しフィルタが適用されていない状態に戻す必要があります。/romonly引数を/softwareonly引数と組み合わせて使用しないでください。
/softwareonly	この引数はフィルタ スイッチであり、このスイッチを使うとインストールに必要なソフトウェア コンポーネントだけを表示できます。このフィルタ スイッチを使用する場合、HP Smart Update Managerをいったん終了して再起動しフィルタが適用されていない状態に戻す必要があります。/softwareonly引数を/romonly引数と組み合わせて使用しないでください。
/dryrun	この引数は、テスト実行用にインストールをシミュレーションします。何もインストールされません。
/continue_on_error <error>	この引数により、インストールが継続され、エラーが無視されます。有効な値は、<error>=ServerNotFoundおよび<error>=BadPasswordです。ServerNotFoundオプションは、ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモート ホストに同時にインストールする場合に、アクティブではない、または利用できないリモート ホストをバイパスするために使用されます。
/override_existing_connection	この引数は、リモート ターゲットで既存のHP Smart Update Managerセッションが進行しているときの動作を定義します。この引数は、進行中のセッションを無効化し、リモート ホストのインストール フレームワークを再初期化します。

コマンドライン引数	説明
/express_install	この引数は、高速インストールを開始します（ローカルホストのみが対象）。HP Smart Update Managerは、ユーザに操作を求めることなく、検出、インストール、または終了操作を行います。ユーザがHP Smart Update Managerをキャンセルまたは終了することはできません。
/user <username>または /username <username>	この引数により、自身のユーザIDでHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorにログインできます。
/passwd <password>	この引数により、/userパラメータで指定したユーザID用にこのパスワードを使用できます。このパスワードは、リモートホストおよびHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorへのログインに使用されます。
/current_credential	この引数を追加すると、ターゲットにアクセスするための認証情報としてローカルホストの認証情報を使用することができ、ターゲットごとに明示的にユーザ名とパスワードを入力する必要がなくなります。ただし、アクセス対象のターゲットで現在の認証情報が有効であることが前提です（Windows®オペレーティングシステムにのみ適用）。
/target "netAddress"	この引数は、HP BladeSystem c-Class Onboard AdministratorまたはリモートホストのIPアドレスまたはDNS名です。エンクロージャ内にOnboard Administratorが2つある場合、この引数で、アクティブなOnboard Administratorのアドレスや名前を指定する必要があります。IPアドレスを指定する場合は、IPv4またはIPv6形式を使用できます。
/logdir "path"	この引数により、HP Smart Update ManagerまたはHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorフラッシュユーティリティからの出力をデフォルトディレクトリと異なるディレクトリにリダイレクトできます。Windows®コンポーネントの場合、デフォルト位置は%SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\hp\log<netAddress>。リダイレクト先は<path>\hp\log\<netAddress>です。Linuxコンポーネントの場合は、デフォルト位置は/var/hp/log/<netAddress>で、リダイレクト先は<path>/hp/log/<netAddress>です。

コンポーネントの設定（Windowsコンポーネントのみ）

HP Smart Update Manager GUIを使用しないでコンポーネントを設定する場合は、`hpsum_config <設定対象のコンポーネント>` コマンドを発行します。このコマンドにより、HP Smart Update Manager GUIで表示されるものと同じ設定画面が表示されます。このコマンドは、読み書き可能なメディアから実行する必要があります。CDなどの読み取り専用メディアから実行すると、コンポーネントを設定できません。コンポーネントの設定は、1回だけ行います（繰り返す必要はありません）。設定はコンポーネント内に保存され、HP Smart Update Manager GUIまたはコマンドラインを介してインストールされる際にすべてのターゲットサーバに伝達されます。設定を変更するには、コンポーネントに対してもう一度`hpsum_config`を実行します。これにより、新しい設定がすべて書き込まれます。コンポーネントの設定が必要ない場合は、`hpsum_config`コマンドがコンソールに戻ります。

Server Coreオプションを使用してインストールしたWindows Server® 2008のすべてエディションにインストールするコンポーネントを設定するには、サポートされているWindows® オペレーティングシステムを搭載するシステム上で実行されているHP Smart Update Managerを使用して、リモートホストとしてシステムにアクセスしコンポーネントを設定する必要があります。インストールは設定の完了後に行います。

注： PSPの.CMDファイルは、コンポーネントが必要か不要かに関わらず、PSPのすべてのコンポーネントをインストールするスクリプトです。リターンコードのチェックと、コンポーネントが正しい順序でインストールされているかどうかの確認以外のインテリジェンスを備えていないため、.CMDファイルの使用はおすすめしません。この方法でコンポーネントをインストールすると、SNMPエージェントとWBEMプロバイダの両方がサーバにインストールされ、WBEMプロバイダが優先されます。

コマンド ラインの例

次のコマンド ライン パラメータの例は、以下の環境内で実行できます。

- Windows®用PSP :
 - Proliant Support Pack for Microsoft® Windows Server™ 2003 v7.90 (BP000323.xml)
 - Proliant Support Pack for Microsoft® Windows Server™ 2003 v7.80 (BP000315.xml)
- ファームウェア :
 - システムROM
 - Smartアレイ コントローラ
 - ハードディスク ドライブ
 - iLO
- ソフトウェア - 次のソフトウェアの新しいバージョン :
 - HP Insight Diagnostics Online Edition for Windows Server™ 2003 (cp008097.exe)
 - HP System Management Homepage for Windows® (cp008257.exe)
- HP Smart Update Manager
 - 定義済みグループ : Management Server—3台のサーバ (Management Server1、Management Server2、Management Server3) で構成

例1 :

このコマンド ライン入力は、最新のPSPおよびファームウェア コンポーネントをインストールします。

```
hpsum /use_latest /allow_non_bundle_components /silent
```

結果 : HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、7.90 PSPのすべてのソフトウェア コンポーネントとファームウェア コンポーネントがインストールされました。

例2 :

次のコマンド ライン入力のどちらでも、以前のバージョンのPSPのみをインストール (すべてのコンポーネントを強制インストール) できます。

- `hpsum /f:bundle /softwareonly BP000315.xml`
- `hpsum /b BP000315.xml /f:bundle /softwareonly`

結果 : HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、7.80 PSPのすべてのソフトウェア コンポーネントがインストールされました。ファームウェアはインストールされていません。

例3 :

このコマンド ライン入力は、ファームウェアをインストールします。

```
hpsum /romonly
```

結果 : HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、すべてのファームウェア コンポーネントがインストールされました。ソフトウェアはインストールされていません。

例4 :

次のコマンド ライン入力のどちらでも、2つのソフトウェア コンポーネントをインストールできます。

- `hpsum /f:software cp008097.exe cp008257.exe`
- `hpsum /c cp008097.exe /c cp008257.exe /f:software`

結果：2つのコンポーネントがインストールされました。ファームウェアと他のソフトウェアはインストールされていません。

例5：

次のコマンド ライン入力のどちらでも、最新のPSP、バンドル内の新しいほうのバージョンのコンポーネント、およびファームウェアを3台のリモート ホストにインストールできます（すべてのコンポーネントを強制インストール）。

- `hpsum /group "Management Servers" /current_credential /use_latest /allow_update_to_bundle /allow_non_bundle_components /force:all /override_existing_connection /continue_on_error ServerNotFound /silent /logdir "Management_Server_Files"`
- `hpsum /target "Management Server1" /target "Management Server2" /target "Management Server3" /user administrator /passwd letmein /use_latest /allow_update_to_bundle /allow_non_bundle_components /force:all /override_existing_connection /continue_on_error ServerNotFound /silent /logdir "Management_Server_Files"`

結果：すべてのファームウェア コンポーネント、7.90 PSPのソフトウェア コンポーネント、cp008097.exe、およびcp008257.exeが、Management Server1、Management Server2、およびManagement Server3にインストールされました。

HP Smart Update Managerのリターン コード

HP Smart Update ManagerはLinuxおよびWindows®コンポーネントのリターン コードを、新しく拡張されたリターン コード マッピングに統合しました。これらのリターン コードは、コンポーネント インストールのステータスを決定します。また、スクリプトのリターンコードを使用して、スクリプトの実行を制御したり、必要な分岐を決定したりできます。

Linuxでは、マイナスのリターン コードがレポートされます。これらのリターン コードは、256からマイナスの値を引くことで決定されます。

インストール ログ ファイルの位置を確認するには、「インストール結果の表示」（27ページ）を参照してください。

リターン コード	値	Linux	Windows	テキスト
SUCCESS_NO_REBOOT	0	0	0	インストールに成功しました。
SUCCESS_REBOOT	1	1	1	インストールに成功しましたが、再起動が必要です。
SUCCESS_NOT_REQUIRED	3	3	3	このコンポーネントは最新であるか、または不要です。
FAILURE_GENERAL	-1	255	255	一般障害が発生しました。詳しくはエラー ログを参照してください。
FAILURE_BAD_PARAM	-2	254	254	不正な入力パラメータが検出されました。
FAILURE_COMPONENT_FAILED	-3	253	253	コンポーネントのインストールに失敗しました。

Windows Smartコンポーネントのリターン コード

エラー レベル	意味
0	Smartコンポーネントのインストールに失敗しました。詳しくは、ログ ファイルを参照してください。
1	Smartコンポーネントのインストールに成功しました。
2	Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
3	必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のもののか、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。

Linux Smartコンポーネントのリターン コード

ターゲット サーバが1台の場合

エラー レベル	意味
0	Smartコンポーネントのインストールに成功しました。
1	Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
2	必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のもののか、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。
3	Smartコンポーネントのインストールに失敗しました。詳しくは、ログ ファイルを参照してください。

ターゲット サーバが複数の場合

エラー レベル	意味
0	提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。再起動は不要です。
1	提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。インストールしたコンポーネントを有効にするために、再起動が必要です。
2	インストール予定のバージョンと既存のバージョンが一致するため、インストールは試みられませんでした。
3	次のいずれかの理由により、インストールは試みられませんでした。 <ul style="list-style-type: none">インストール予定のバージョンが、インストールされているバージョンより古いサポートされているハードウェアが存在しないか、有効になっていないか、またはインストールを試みることができない状態にあるSmartコンポーネントが環境をサポートしないSmartコンポーネントでできないことがない
4	このリターン コードは、Onboard Administratorを始めとするネットワークベースの装置などのリモートターゲットにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ターゲットが見つからないことを示します。
5	インストールがユーザにより取り消されました。何もインストールできていません。
6	依存関係が満たされていないかまたはインストール ツールに問題があるため、インストーラを実行できません。
7	インストール ツールに問題はありませんが、実際のインストール操作が失敗しました。

LinuxへのPSPの高度なインストール方法

この項では、LinuxへのPSPの高度なインストール方法について説明します。

コンポーネントの設定

一部のコンポーネントでは、必須またはオプションの設定を行います。設定パラメータには、コンポーネントを正しく設定するために必要な情報やコンポーネントでソフトウェアをインストールするために必要なパスワードも含まれます。

コンポーネントを設定するには、以下の3つの方法があります。

- グラフィカル インストール モードの使用
- ターミナル ウィンドウ インストール モードの使用
- スクリプト化されたインストールの使用

Linux用PSPの各インストール時に使用する設定データは、デフォルトの/var/hp/hppldu.cfgファイルまたは任意の有効なLinuxファイル名に保存することができます。これにより、1台のサーバをインストールした後に、作成された設定ファイルを使用して、ネットワーク内で他のサーバをインストールするためのスクリプトを作成することができます。保存した設定データを使用するには、次のコマンドを入力して、hppldu.cfgファイルをインストール シェルへの入力ファイルとして使用します。

```
./install???.sh --inputfile hppldu.cf
```

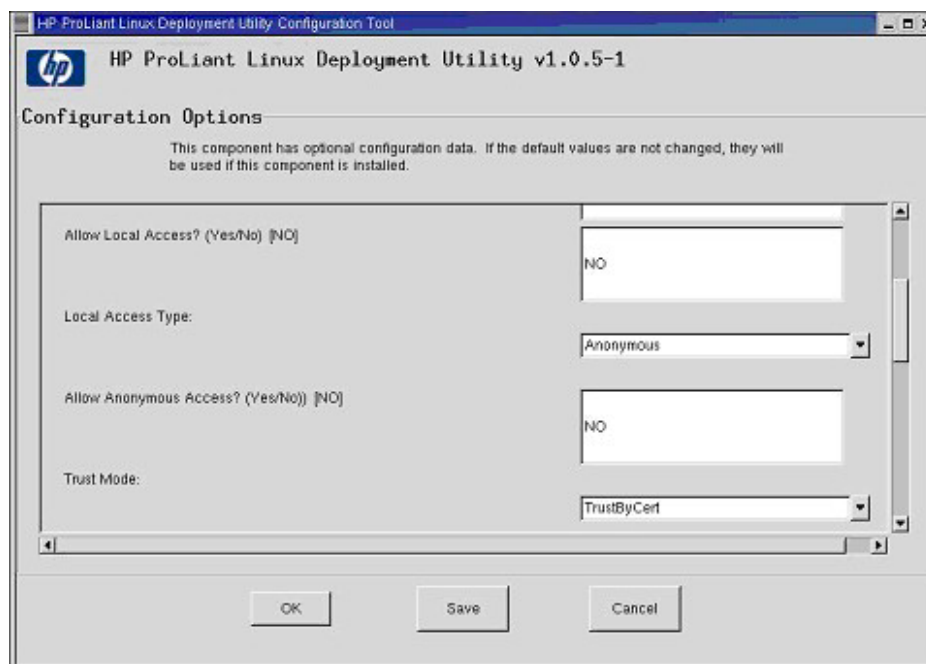
どのパラメータも認識されない場合、LDUは、エラー メッセージを返して、次の手順に進む前にユーザが設定エラーを解消できるようにインストールを中断します。

Linux用PSPのバージョン7.20以降では、設定ファイルが暗号化されて保存されます。LDUは、設定データ用の暗号化されたファイルと暗号化されていないファイルの両方を認識して使用します。

グラフィカル インストール モードでのコンポーネントの設定

グラフィカル インストール モードでコンポーネントを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 設定オプションが必要なコンポーネントを選択します。
2. コンポーネントを右クリックして、コンポーネント メニューを表示します。
3. **[Configure Component]**オプションを選択します。次のようなウィンドウが表示されます。



4. コンポーネントを設定します。デフォルト値がある場合は、プロンプトの終わりにかっこを付けて表示されます。
5. 任意のコンポーネント設定画面で**[Save]**をクリックして、すべてのパラメータをファイルに保存します。これにより、LDUを使用して、すべてのコンポーネントを設定し、その結果の設定データを暗号化されたデータファイルに保存することができます。このデータ ファイルを-inputfile <filename>パラメータとともに使用すると、将来のインストールのためのスクリプトを作成することができます。
6. **[OK]**をクリックして、インストールで使用するために設定データを保存します。[Cancel]をクリックすると、入力したデータが失われます。

コンポーネントのオプション設定データが提供されない場合、コンポーネントが以前にインストールされていないと、その設定データのデフォルト値が使用されます。コンポーネントが以前にインストールされて設定されている場合、設定データが変更されないと、既存の設定情報が保持されます。

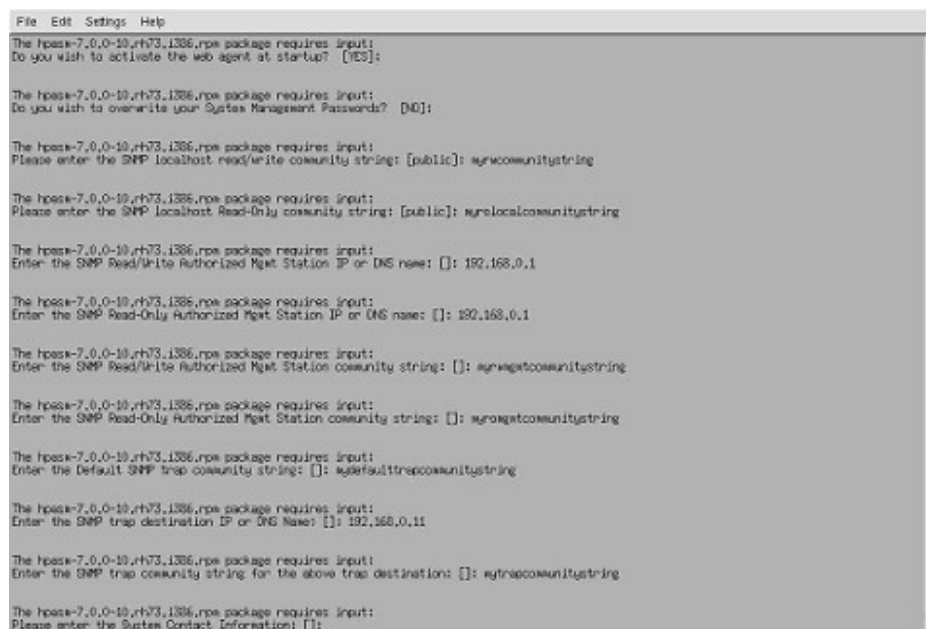
注： PSP 7.00および7.10では、HTTPサーバのパスワードを設定しない場合、デフォルトパスワードとして"compaq"は設定されません。HTTPサーバのパスワードが設定されていないと、HTTPサーバには接続できません。PSP 7.20では、HTTPサーバのパスワードは不要です。これまで必要とされた3つのサーバパスワードの代わりにネイティブOS認証を使用するHP System Management Homepage RPMが、HTTPサーバの機能を提供します。

ターミナル ウィンドウ インストール モードでのコンポーネントの設定

ターミナル ウィンドウ インストール（サイレント インストールを除く）からコンポーネントを設定するには、展開ユーティリティによって提供されるプロンプトに従ってください。設定値にデフォルトの値がある場合、プロンプトでかっこ内に表示されます。値を何も入力せずにEnterキーを押して操作を続けると、コンポーネントにデフォルト値がある場合にはデフォルト値が使用されるか、コンポーネントがすでに設定されている場合には既存の値が使用されます。次の図に、コマンド ライン インストールからの設定値が必要なコンポーネントの例を示します。

コンポーネントのオプション設定データが提供されない場合、コンポーネントが以前にインストールされていないと、その設定データのデフォルト値が使用されます。コンポーネントが以前にインストールされて設定されている場合、設定データが変更されないと、既存の設定情報が保持されます。

サイレントインストールの場合、「スクリプト化されたインストール」（78ページ）で説明するように、設定パラメータを入力ファイルで提供する必要があります。入力ファイルが提供されず、コンポーネントが以前にインストールされていない場合、サイレント インストールは、その設定データのデフォルト値を使用します。



```
File Edit Settings Help
The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Do you wish to activate the web agent at startup? [YES]:

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Do you wish to overwrite your System Management Passwords? [NO]:

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Please enter the SNMP localhost read/write community string: [public]: myrwccommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Please enter the SNMP localhost Read-Only community string: [public]: myrlocalcommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP Read/Write Authorized Mgmt Station IP or DNS name: []: 192.168.0.1

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP Read-Only Authorized Mgmt Station IP or DNS name: []: 192.168.0.1

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP Read/Write Authorized Mgmt Station community string: []: myrwgmtcommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP Read-Only Authorized Mgmt Station community string: []: myrgmtcommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the Default SNMP trap community string: []: mydefaulttrapcommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP trap destination IP or DNS Name: []: 192.168.0.11

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Enter the SNMP trap community string for the above trap destination: []: mytrapcommunitystring

The hpssc-7.0.0-10.rh73.i386.rpm package requires input:
Please enter the System Contact Information: []:
```

スクリプト化されたインストール

LDUで-inputfileパラメータを使用することにより、スクリプト化されたインストールを実行できます。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
./install???.sh --inputfile test.in
```

この例では、test.inファイルがスクリプト化されたインストールを実行するために使用される入力ファイルです。

入力ファイルのフォーマットは次のとおりです。


```
parm=value
```

次の表に、入力ファイルによってサポートされているパラメータを示します。

パラメータ	説明
LSOPTIONS	このパラメータにより、通常のコマンドライン オプション (-silent、-nui、-rebootなど) をLDUへの入力として渡すことができます。
LOGFILENAME	このパラメータを使用すると、LDUで生成されたログ ファイルの名前をデフォルトの/var/log/hppldu.log以外の別の名前に変更できます。このパスはすでに存在している必要があり、そうでない場合、ログ ファイルはデフォルトのファイル名のままになります。
HPHTTPSERVEROVERWRITE (旧バージョンのみ - Linux用PSP 7.20以降では使用されません)	このパラメータは、HTTPサーバのパスワードを設定します。次の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none">• Yes - 既存のHTTPサーバ パスワードを新しく提供されたパスワードに置き換えます。• No - 既存のパスワードのままになります。
HPHTTPSERVERADMINPASSWD (旧バージョンのみ - Linux用PSP 7.20以降では使用されません)	このパラメータにより、デフォルトのシステム マネジメント管理者用のパスワードを指定できます。このパラメータには、デフォルト値が設定されていません。パスワードが設定されていないと、WebブラウザからWebエージェントにアクセスすることはできません。
HPHTTPSERVEROPERATORPASSWD (旧バージョンのみ - Linux用PSP 7.20以降では使用されません)	このパラメータにより、デフォルトのシステム マネジメントオペレータ用のパスワードを指定できます。このパラメータには、デフォルト値が設定されていません。パスワードが設定されていないと、WebブラウザからWebエージェントにアクセスすることはできません。
HPHTTPSERVERUSERPASSWD (旧バージョンのみ - Linux用PSP 7.20以降では使用されません)	このパラメータにより、デフォルトのシステム マネジメントユーザ用のパスワードを指定できます。このパラメータには、デフォルト値が設定されていません。パスワードが設定されていないと、WebブラウザからWebエージェントにアクセスすることはできません。
CMALOCALHOSTRWCOMMSTR	このパラメータにより、ローカルのホスト アクセス用のSNMP読み取り/書き込みコミュニティ スtringを指定できます。
CMALOCALHOSTROCOMMSTR	このパラメータにより、ローカルのホスト アクセス用のSNMP読み取り専用コミュニティ スtringを指定できます。
CMAMGMTSTATIONRWIPORDNS	このパラメータにより、管理ステーションとして機能する読み取り/書き込みアクセス権のあるシステムのIPアドレスまたはDNSホスト名を指定できます。スペースで区切ることで、複数の位置を指定できます。
CMAMGMTSTATIONRWCOMMSTR	このパラメータにより、管理ステーションとして機能する読み取り/書き込みアクセス権のあるシステムのSNMP読み取り/書き込みコミュニティ スtringを指定できます。スペースで区切ることで、複数のStringを指定できます。
CMAMGMTSTATIONROIPORDNS	このパラメータにより、管理ステーションとして機能する読み取り専用アクセス権のあるシステムのIPアドレスまたはDNSホスト名を指定できます。スペースで区切ることで、複数の位置を指定できます。
CMAMGMTSTATIONROCOMMSTR	このパラメータにより、管理ステーションとして機能する読み取り専用アクセス権のあるシステムのSNMP読み取り/書き込みコミュニティ スtringを指定できます。スペースで区切ることで、複数のStringを指定できます。

パラメータ	説明
CMADEFTRAPCOMMSTR	このパラメータにより、トラップのデフォルトのSNMPコミュニティストリングを設定できます。
CMATRAPDESTINATIONCOMMSTR	このパラメータにより、SNMPトラップ送信先コミュニティストリングを指定できます。
CMATRAPDESTINATIONIPORDNS	このパラメータにより、SNMPトラップの送信先としてサーバ（Systems Insight Managerなど）のIPアドレスまたはDNSホスト名を指定できます。
CMASYSCONTACT	このパラメータにより、このシステムの管理用の担当者または電話番号を指定できます。
CMASYSLOCATION	このパラメータにより、このシステムの場所を指定できます。
CMASSTARTWEBAGENT	このパラメータは、ヘルス アプリケーションのロード時にHP Insight SystemsマネージャWebエージェントを起動するかどうかを指定します。次の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes - Webエージェントを起動します。 • No - Webエージェントを起動しません。
CMASSTARTSTORAGEAGENT	このパラメータは、ヘルス アプリケーションのロード時にHP Insight Systemsマネージャストレージエージェントを起動するかどうかを指定します。次の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes - ストレージエージェントを起動します。 • No - ストレージエージェントを起動しません。
CMANOTAINTEDKERNEL	このパラメータは、ヘルス アプリケーションのロード時にHP Lights-Outマネジメントドライバを起動するかどうかを指定します。次の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes - HP Lights-Outマネジメントドライバを起動します。 • No - HP Lights-Outマネジメントドライバを起動しません。
HPVCAVCRMSEVER	このパラメータは、VCAに、ソフトウェア配布レポジトリとして使用されるVCRMの名前を通知します。
HPVCAVCRMLOGINID	このパラメータは、VCAがVCRMと通信するために使用するログインIDです。
HPVCAVCRMLOGINPASSWD	このパラメータは、HPVCAVCRMLOGINIDパラメータで指定されるログインIDのパスワードです。
ADMIN-GROUP	このパラメータは、Webサーバのセキュリティをセットアップするために、HP System Management Homepage（hpsmh）によって使用されます。パラメータは、スペースまたはセミコロンで区切られた最大5つのLinuxグループのリストで、Webサーバへの管理者権限でのアクセスを可能にします。
USER-GROUP	このパラメータは、Webサーバのセキュリティをセットアップするために、HP System Management Homepageによって使用されます。パラメータは、スペースまたはセミコロンで区切られた最大5つのLinuxグループのリストで、Webサービスへのユーザレベルでのアクセスを可能にします。
OPERATOR-GROUP	このパラメータは、Webサーバのセキュリティをセットアップするために、HP System Management Homepageによって使用されます。パラメータは、スペースまたはセミコロンで区切られた最大5つのLinuxグループのリストで、Webサービスへのオペレータレベルでのアクセスを可能にします。

パラメータ	説明
ANONYMOUS-ACCESS	このパラメータは、匿名ユーザがHP System Management Homepageにアクセスできるかどうかを決定します。使用できる値は、"yes"と"no"です。デフォルト値は"no"です。
IP-BINDING	このパラメータは、すべての使用可能なNICと検出されたサブネットをhpsmhがWebサービスに使用できるかどうかを指定するために、HP System Management Homepageによって使用されます。使用できる値は、"yes"と"no"です。デフォルト値は"no"です。
IP-BINDING-LIST	このパラメータは、NICとサブネットをWebサービスに使用することを制限するために、HP System Management Homepageによって使用されます。このパラメータがインストール時に使用されるように、IP-BINDINGパラメータを必ず、"yes"に設定してください。このパラメータの形式は、セミコロンによって区切られたIPアドレス/ネットマスク ペアのリスト（10.1.1.1/255.255.255.0; 10.2.2.2/255.255.255.0など）です。
IP-RESTRICTED-LOGINS	このパラメータは、ログイン アクセスを制限するために、HP System Management Homepageによって使用されます。使用できる値は、"yes"と"no"です。デフォルト値は"no"です。Webサーバにアクセスできるユーザに関する制限を有効にするには、このパラメータを"yes"に設定して、IP-RESTRICTED-EXCLUDEまたはIP-RESTRICTED-INCLUDEパラメータの値を設定する必要があります。
IP-RESTRICTED-EXCLUDE	このパラメータは、特定のIPアドレス/ネットマスク ペアをWebサービスにログイン可能なペアから排除するために、HP System Management Homepageによって使用されます。このパラメータの形式は、セミコロンによって区切られたIPアドレスの範囲のリスト（10.1.1.1-10.1.1.10; 10.2.2.2-10.2.2.10など）です。このパラメータは、IP-RESTRICTED-LOGINSパラメータが"yes"に設定されていないと無視されます。
IP-RESTRICTED-INCLUDE	このパラメータは、指定されたIPアドレス/ネットマスク ペアからのログインだけを許可するために、HP System Management Homepageによって使用されます。このパラメータの形式は、セミコロンによって区切られたIPアドレスの範囲のリスト（10.1.1.1-10.1.1.10; 10.2.2.2-10.2.2.10 など）です。このパラメータは、IP-RESTRICTED-LOGINSパラメータが"yes"に設定されていないと無視されます。
LOCALACCESS-ENABLED	このパラメータは、Webサービスへのローカル匿名アクセスを許可するかどうかを指定するために、HP System Management Homepageによって使用されます。使用できる値は、"yes"と"no"です。デフォルト値は"yes"で、匿名アクセスが許可されます。

パラメータ	説明
LOCALACCESS-TYPE	<p>このパラメータは、ローカル ユーザに付与されるアクセス権のタイプを指定するために、HP System Management Homepageによって使用されます。使用できる値は、"Anonymous"と"Administrator"です。デフォルト値は"Anonymous"です。</p> <p> 注意：ローカル アクセスに管理者権限でのログインを選択すると、ローカル コンソールにアクセスできるすべてのユーザが、ユーザ名やパスワードを要求されずに、フル アクセス権限を持つようになります。</p>
TRUSTMODE	<p>このパラメータは、信頼関係モードをセットアップするために、HP System Management Homepageによって使用されます。次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> TrustByCert - この値を使用する場合は、サーバへのアクセスを有効にするために、CERTLISTパラメータを定義する必要があります。 TrustByName - この値を使用する場合は、XENAMELISTパラメータを定義する必要があります。 TrustByAll - セキュリティが弱まる可能性があるので、この値を使用することはおすすめしません。 <p>使用できる値は、大文字と小文字が区別されるため、上記のとおりに入力してください。大文字と小文字を間違えると、インストール時に信頼関係が適切に設定されず、Webサーバへのアクセスに問題が発生する可能性があります。</p>
CERTLIST	<p>このパラメータによって、HP System Management Homepageの信頼関係のために、証明書ファイル（または証明書を入手できるサーバ）のリストを提供できます。このパラメータは、TRUSTMODEパラメータがTrustByCertに設定されているときにのみ有効です。</p>
XENAMELIST	<p>このパラメータによって、HP System Management Homepageの信頼関係のために、セミコロンで区切られたサーバのリストを提供できます。このパラメータは、TRUSTMODEパラメータがTrustByNameに設定されているときにのみ有効です。</p>
HPQLA2X00FO	<p>このパラメータは、フェールオーバー モードの使用を指定するために、hp_qla2x00 QLogicファイバ チャネル ドライバによって使用されます。使用できる値は、"SinglePath"、"SecurePath"、および"QLogicFailover"です。デフォルト値は設定されていません。</p>
HPQLA2X00FORCE	<p>このパラメータは、他社製のストレージの検出を省略するかどうかを指定するために、hp_qla2x00 QLogicファイバ チャネル ドライバによって使用されます。使用できる値は、"Y"と"N"です。デフォルト値は"N"です。</p>

入力ファイルの例は以下のとおりです。

```
#ProLiant Linux Deployment Utility options
LOGFILENAME=/var/log/temp.log
LSOPTIONS=-v -f -r -t 5 -m "This system will reboot in 5 minutes"
#If configuring the SNMP component for the HPASM driver,
#the following parameters depict a sample entry.
HPHTTPSERVEROVERWRITE=no
CMALOCALHOSTRWCOMMSTR=private
```

```

CMALOCALHOSTROCOMMSTR=public
CMAMGMTSTATIONRWIPORDNS="192.133.17.4 dopey.domain.net"
CMAMGMTSTATIONRWCOMMSTR="first second"
CMASYSCONTACT="John Doe - Ext 1234"
CMASYSLLOCATION="Bldg 5-Room 104C"
CMANOTAINTEDKERNEL=YES
CMASRTSTORAGEAGENT=yes
CMASRTWEBAGENT=yes

#These parameters are used by the HP Version Control
#Agent so that a connection can be made to the HP
#Version Control Repository Manager (VCRM).
HPVCAVCRMSEVER=test.hp.com
HPVCAVCRMLOGINID=myuserid
HPVCAVCRMLOGINPASSWD=myuseridpassword

#These parameters are used by the HP Systems Management
#Homepage to setup security and configuration for the
#web server used by most HP agents and value-add
#software

#Allow the hpsmh Linux group access to administrator
#services
ADMIN-GROUP="hpsmh"

#Allow the hpsmh Linux group access to operator
#services
OPERATOR-GROUP="hpsmh"

#Allow the hpsmh and the TapeBackupGroup Linux groups
#access to user services
USER-GROUP="hpsmh";"TapeBackupGroup"

ANONYMOUS-ACCESS="NO"

#Allow all adapters to be used by the web server
IP-BINDING="YES"
IP-BINDING-LIST=""

#Allow restrictions on who can login to the web server
#by setting IP-RESTRICTED-LOGINS to NO
IP-RESTRICTED-LOGINS="NO"

#We don't want 10.1.1.1 to have access to this server
IP-RESTRICTED-EXCLUDE="10.1.1.1"
#We want 10.1.1.2 through 10.1.1.10 to have access to
#this server
IP-RESTRICTED-INCLUDE=10.1.1.2-10.1.1.10

#We don't want anonymous local access to the web server
LOCALACCESS-ENABLED=NO

#We want people to login locally to get access to the
#web services
LOCALACCESS-TYPE="Anonymous"

#TRUSTMODE set to TrustByName, so we provide a list of
#servers.If we had set TrustByCert, we would have
#filled in the CERTLIST parameter.If we selected

```

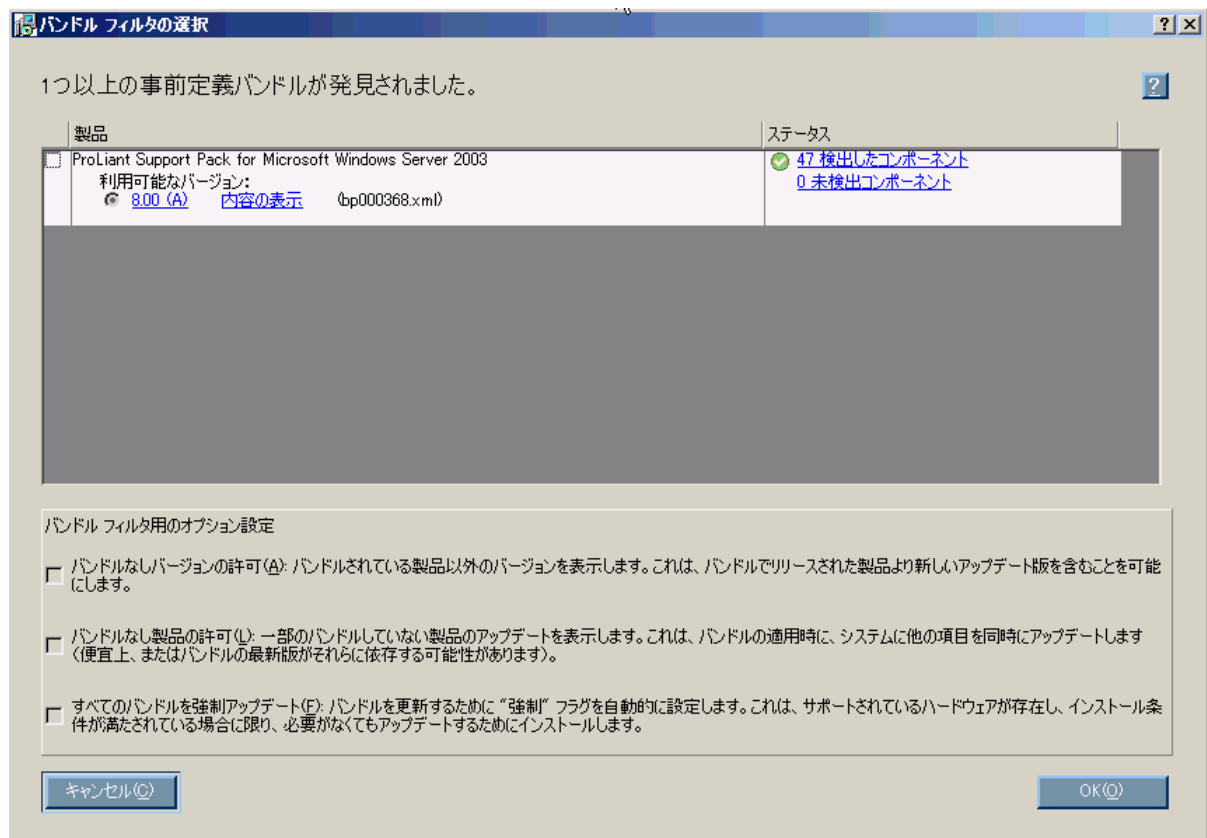
```
#TrustByAll, we do not have to place values in either
#the XENAMELIST or CERTLIST parameters.
TRUSTMODE="TrustByName"
CERTLIST=""
XENAMELIST="SERVER1";"SERVER2";"SERVER101"

#The following parameters are used to configure the
#hp_qla2x00 HP QLogic Fibre Channel QL2xxx Adapter.
HPQLA2X00FO=SinglePath
HPQLA2X00FORCE=N
```

ファームウェアとソフトウェアの同時インストール

HP Smart Update Managerユーティリティを備えたMicrosoft® Windows® (バージョン7.90以降) 用PSPでは、ファームウェア コンポーネントとPSPソフトウェア コンポーネントを同時にインストールできます。Windows® PSPおよびサーバ ブレード バンドルからのファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントの同時インストールをサポートするのはWindows®のオンライン インストールだけです。同時にインストールするには、最新のMicrosoft® Windows® PSP、バンドル、およびファームウェア コンポーネントを同じディレクトリに配置する必要があります。また、cp*.exeやcp*.scexeファイルをレポジトリに追加する必要があります。

ファームウェア コンポーネント、Windows®用PSPのPSPソフトウェア コンポーネント、ならびにサーバブレード バンドルを同時にインストールするには、HP Smart Update Managerを実行します。[バンドル フィルタの選択]画面で、バンドルを選択し、**[バンドルなし製品の許可]**オプションを選択します。



インストール プロセスを進めるには、**[OK]**をクリックしてください。[インストールするアイテムを選択してください]画面 (20ページの「**インストールするコンポーネントの選択**」を参照) が表示され、該当するファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントが示されます。

サーバ仮想化検出およびサポート

Windows® PSPIは、Windows®ホスト上で動作するサーバ仮想化をサポートします。ただし、Windows® PSPIは、使用するホスト ハイパーバイザに関わらず、VMwareホストまたはゲスト オペレーティング システム環境上では動作しません。Windows® PSPIは、ゲスト オペレーティング システム環境からは起動しません。

HP Smart Update Managerを使用したIPv6ネットワークの設定

HP Smart Update Managerバージョン3.2.0からは、IPv6ベースのネットワークでリモート ターゲットにインストール（Windows®およびLinuxターゲット サーバが対象）を行えます。IPv6ネットワークでHP Smart Update Managerを使用することは、IT管理者にとって難問です。

Windows® ベースのサーバがリモート ターゲット サーバと通信するために、HP Smart Update Managerは、既存の認証情報またはユーザが入力するユーザ名とパスワードを使用して、admin\$共有に接続します。この共有は、Windows Server®の提供する自動共有です。HP Smart Update Managerは、admin\$共有に接続すると、インストールの実行中に使用するサイズの小さいサービスをターゲット サーバにコピーします。このサービスが開始した後、HP Smart Update Managerはこのサービスを使用してローカルおよびリモート ターゲット サーバ間の通信を行います。このプロセスの実行中、HP Smart Update ManagerはWindows®のファイアウォールでポートを開きます。これにより、HP Smart Update Managerは、SSL経由でSOAPコールを使用してローカル システムとリモート システムとの間でデータをやりとりできるようになります。これらのポートは、HP Smart Update Managerで許可されるポートで定義します。インストールが完了またはキャンセルされたら、HP Smart Update Managerはリモート サービスを停止し、ターゲット サーバから削除して、Windows®ファイアウォール上のポートを閉じ、ターゲット サーバ admin\$共有への共有を開放します。

Linuxベースのサーバがリモート ターゲット サーバと通信するために、HP Smart Update Managerは、ユーザが入力するユーザ名とパスワードを使用して起動し、ターゲット サーバへのSSH接続を確立します。HP Smart Update Managerは接続後、インストールの実行中だけに使用するサイズの小さいサービスをターゲット サーバにコピーします。このサービスが開始した後、HP Smart Update Managerはこのサービスを使用してローカルおよびリモート ターゲット サーバ間の通信を行います。このプロセスの実行中、HP Smart Update Managerはiptablesファイアウォールでポートを開きます。これにより、HP Smart Update Managerは、SSL経由でSOAPコールを使用してローカル システムとリモート システムとの間でデータをやりとりできるようになります。これらのポートは、HP Smart Update Managerで許可されるポートで定義します。インストールが完了するかまたは取り消されると、HP Smart Update Managerはリモート サービスを停止し、ターゲット サーバからサービスを削除し、iptablesファイアウォールのポートを閉じてから、ターゲット サーバへのSSH接続を終了します。

Windows Server 2003用のIPv6の設定

IPv6 ネットワーク内でのWindows Server® 2003オペレーティング システムの設定については、オンラインのMicrosoft® Technetの記事「Step-by-Step Guide for Setting Up IPv6 in a Test Lab」（英語）（<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=fd7e1354-3a3b-43fd-955f-11edd39551d7&displaylang=en>）を参照してください。

HP Smart Update Managerを使用してソフトウェアおよびファームウェア アップデートをリモートのWindows Server® 2003サーバにインストールする前に、レジストリ エントリを追加してIPv6ネットワークを介したファイル共有接続を有効にする必要があります。レジストリ エントリを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. レジストリ エディタ（Regedt32.exe）を起動します。
2. レジストリ内の次のキーの位置を確認してクリックします。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\LanmanServer\Parameters
```

3. [編集]メニューで、**[新規]**をクリックします。

4. 次のレジストリ値を追加します。

Value name: DisableStrictNameChecking

Data type: REG_DWORD

Radix: Decimal

Value: 1

5. レジストリ エディタを終了します。

これらの手順について詳しくは、Microsoft®社のWebサイト<http://www.microsoft.com>のMicrosoft® Knowledge Base項目281308（英語）を参照してください。

IPv6アドレスは、コマンドライン引数内、またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、[IPv6 address]ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することによって、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加することができます。HP Smart Update Managerは、短縮名または完全なIPv6表記の両方を使用することができます。アドレスを入力するときに、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

■ 新しいホスト

?(h) X

☐ DNS名でホストを追加

ホストDNS名:

☒ IPを指定してホスト1台を追加

ホストIP:

☐ IP範囲を指定してホストを追加

開始IP:

終了IP:

IPフォーマット

☐ IPv4

☒ IPv6

説明:

キャンセル(C) OK(O)

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行するときにターゲット サーバに接続できなかったり検出失敗のメッセージを受信したりする場合は、トラブルシューティングの項(98ページの「IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング」を参照)を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、その他すべてのHP Smart Update Managerの機能は同じに動作します。IPv6ホストのログ ファイルは、その他すべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、\CPQSYSTEM\hp\log\

Windows Server 2008用のIPv6の設定

HP Smart Update Managerは、Windows Server® 2008ベースのサーバのクライアントとしてWindows Vista®を使用すると、リモート インストールを最も強力にサポートできます。この環境でHP Smart Update Managerを使用すると、ローカルおよびリモート ターゲット サーバのlink-local、site-local、およびグローバルIPアドレスを含む、IPv6のすべての機能を使用することができます。HP Smart Update Managerを実行するためのリモートのWindows Server® 2008オペレーティング システムへのクライアントとしてWindows Vista®を使用するか、またはHP Workstationサーバ ブレード上のターゲット オペレーティング システムとして使用すると強力なインフラストラクチャが構成され、ユーザはこのインフラストラクチャを利用して、ソフトウェアおよびファームウェアの更新をHP Smart Update Managerから完全なIPv6機能を使用してインストールできるようになります。

注： IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerによるインストールでは、Windows® XPクライアントはサポートされません。

IPv6アドレスは、コマンドライン引数内、またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、[IPv6 address]ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することによって、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加することができます。HP Smart Update Managerは、短縮名または完全なIPv6表記の両方を使用することができます。アドレスを入力するときに、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

新しいホスト

? X

?h

☐ DNS名でホストを追加

ホストDNS名:

☒ IPを指定してホスト1台を追加

ホストIP:

IPフォーマット

☐ IPv4

☒ IPv6

☐ IP範囲を指定してホストを追加

開始IP:

終了IP:

説明:

キャンセル(C)

OK(O)

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行するときにターゲット サーバに接続できなかったり検出失敗のメッセージを受信したりする場合は、トラブルシューティングの項(98ページの「IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング」を参照)を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、その他すべてのHP Smart Update Managerの機能は同じに動作します。IPv6ホストのログ ファイルは、その他すべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、\CPQSYSTEM\hp\log\

IPv6 for Windows Server 2003およびWindows Server 2008用のIPv6の制限

Windows Server® 2003は、HP Smart Update Managerによって必要とされるファイル共有機能を提供するために site-localアドレスを必要とします。すなわち、link-localおよびグローバルIPv6アドレスは、HP Smart Update Manager によるリモート ターゲットとしてサポートされていません。

Windows Server® 2008またはWindows®環境では、HP Smart Update Managerの使用に関わる既知の制限事項はありません。

注： IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerによるインストールでは、Windows® XPクライアントはサポートされません。

Linux用のIPv6の設定

HP Smart Update Managerは、Red Hat Enterprise LinuxおよびNovell SUSE Linux Enterprise Server製品の提供するLinuxのIPv6機能を活用します。この環境でHP Smart Update Managerを使用すると、ローカルおよびリモート ターゲットサーバのlink-local、site-local、およびグローバルIPアドレスを含む、IPv6のすべての機能を使用することができます。リモート ターゲットは、HP Smart Update Managerからターゲットにする前に、iptables-ipv6 RPMがインストールされている必要があります。iptables-ipv6 RPMをインストールしないと、HP Smart Update Managerは、Linuxワークステーションを開始するためのデータを送信するために必要な通信ポートを開くことができません。Linuxファイアウォールを無効にしてHP Smart Update Managerを動作させることはできますが、Linuxサーバが攻撃に対して脆弱になります。

Linux環境でのIPv6のセットアップ方法については、「Linux IPv6 How-To」 (<http://www.linux.org/docs/ldp/howto/Linux+IPv6-HOWTO/index.html>) を参照してください。

IPv6アドレスは、コマンドライン引数内、またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、[IPv6 address]ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することによって、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加することができます。HP Smart Update Managerは、短縮名または完全なIPv6表記の両方を使用することができます。アドレスを入力するときに、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

新しいホスト

? X

?h

☐ DNS名でホストを追加

ホストDNS名:

☒ IPを指定してホスト1台を追加

ホストIP:

☐ IP範囲を指定してホストを追加

開始IP:

終了IP:

IPフォーマット

☐ IPv4

☒ IPv6

説明:

キャンセル(C)

OK(O)

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行するときにターゲット サーバに接続できなかったり検出失敗のメッセージを受信したりする場合は、トラブルシューティングの項(98ページの「[IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング](#)」を参照)を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、その他すべてのHP Smart Update Managerの機能は同じに動作します。IPv6ホストのログ ファイルは、その他すべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、/var/hp/log/<ip_address>ディレクトリに格納されます。

Linux用のIPv6の制限

Linux IPv6環境でのHP Smart Update Managerの現在の制限は、すべてのリモート ターゲットLinuxベース サーバに iptables-ipv6 rpm ファイルがインストールされていないということだけです。このファイルは、Red Hat Enterprise LinuxおよびNovell SUSE Linux Enterprise Serverオペレーティング システム用の配布メディアに収録されています。HP Smart Update Managerは、このファイルを使用してIPv6ファイアウォール内のポートを開き、HP Smart Update Managerの動作するLinuxシステムと通信します。iptables-ipv6をインストールしないと、ファイアウォールを無効にしない限りは、HP Smart Update Managerが検出エラーを報告します。

トラブルシューティング

Microsoft Windows用PSPのインストールに関するトラブルシューティング

Microsoft® Windows®用PSPを使用している際に、以下のような問題が発生することがあります。問題は太字で表記し、その後には解決方法を示します。

- **Windows®のファイアウォールおよびセキュリティ ポリシーのルールを設定するには、どうすればいいですか。**

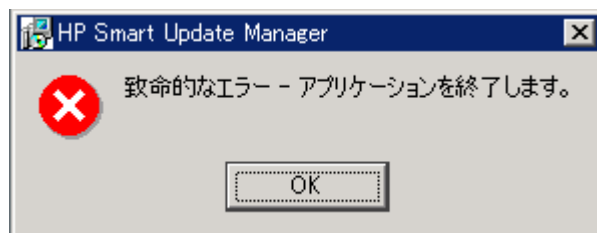


[Windows®セキュリティの重要な警告]ダイアログ ボックスが表示されたら、[**ブロックを解除する**]をクリックし、以下のようにファイアウォールの設定を選択してください。

- a. [スタート]メニューから、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール]、[受信の規則]、[リモート管理 (NP受信)]の順に選択します。
 - b. [有効]を選択してから、[接続を許可する]を選択します。
- **Windows Server® 2003からWindows Server® 2008にアップグレードする際に、Insightマネジメントエージェントのインストールに失敗します。**

Microsoft®社では、Windows Server® 2003からWindows Server® 2008にアップグレードする前にシステムからすべてのソフトウェアを削除することを推奨しています。アップグレード段階でソフトウェア アプリケーションがシステムに残っている場合、Microsoft®社は、アップグレード完了後のオペレーティング システムやソフトウェアの安定性を保証しません。

- ダブルバイト文字を含むディレクトリパスで実行される場合、**HP Smart Update Manager**で初期化の際に致命的なエラーが発生します。



HP Smart Update Managerは、パス名にダブルバイト文字を含むディレクトリでは実行できません。日本語版、中国語版など、オペレーティング システムの一部のバージョンを使用する場合、ダブルバイト文字を使用してパスが作成されている可能性があります。

- **HP Smart Update Manager**をファイアウォール越しで使う方法を教えてください。どのポートを開く必要がありますか。ポートを設定できますか。

HP Smart Update Managerが使用するポートは設定できません。HP Smart Update Managerのポートはリモート ターゲットと通信を開始するとき、オペレーティング システムによって異なるいくつかのウェルノウンポートを使用します。Windows®では、リモート ターゲットとの接続にポート138と445を使用します（リモート およびファイル/プリント共有機能と同じ）。Linuxでは、HP Smart Update Managerはポート22（SSH）を使用してリモート ターゲットとの通信を開始します。

HP Smart Update Managerは、リモート ターゲットとHP Smart Update Managerが実行されているワークステーションとの間の通信に定義済みのポートを使用します。ユーザがHP Smart Update Managerを実行すると、HP Smart Update ManagerはAdministrator/root権限を使用してポートを動的にデフォルトWindows®およびLinuxファイアウォールに登録し、アプリケーションが実行されている間はこのポートを使用します。アプリケーションが終了する際、ポートは閉じられ登録も解除されます。通信はすべて、SSLを使用してSOAPサーバ経由で行われ、中間者攻撃、パケット スプーフィング、パケットの再生などの攻撃を防止する追加機能が使用されます。ポートの無作為な割り当ては、ポート スキャン ソフトウェアによるアプリケーションへのサービス拒否攻撃の防止に役立ちます。SOAPサーバは、通信開始時に使われる上記のポート（ポート138、445、および22）を使用してリモート ターゲットに配置されます。配置されたSOAPサーバは、HP Smart Update Managerが実行されているワークステーションとの通信用に次の表で説明する別の独立したポートを割り当てます。HP Smart Update Managerのシャットダウン時に、SOAPサーバはシャットダウンされターゲット サーバから削除されます。ただし、SOAPサーバが存在したという事実はログ ファイルに記録されます。

HP Smart Update Managerを使用して安全なネットワーク上でリモート ターゲットにソフトウェアをインストールするために、次のポートが使用されます。

ポート	説明
ポート445および137/138/139 (ポート137は、NetBIOSネーム サービスを用いる場合のみ使用されます)	これらのポートは、ターゲット サーバ上のリモートのADMIN\$共有に接続するために必要です。これらのポートは、リモートのファイル共有に接続するためにWindows®サーバが使用する標準ポートです。ターゲット サーバ上のリモートのWindows®ファイル共有にリモートで接続できる場合は、適切なポートが開いています。
ポート60000~60007	ローカル システムとリモート システムの間でSSL経由でメッセージをやりとりするために、この範囲の任意のポートが使用されます。HP Smart Update Managerを実行するシステムでは、これらのポートを使用してデータがターゲット サーバに送信されます。 HP Smart Update Manager内のいくつかの内部プロセスでは、他のアプリケーションが使用していない場合、ポート番号60000から始まる各ポートが自動的に使われます。ポートが競合する場合、マネージャは次に空いているポートを使用します。ポート番号は、インストール対象として選択されるターゲット デバイスの数に左右されるため、上限が60007であるという保証はありません。

ポート61000～61007	これらのポートは、ターゲットサーバからHP Smart Update Managerを実行するシステムへの応答に使用されます。ターゲットサーバからの応答では、60000番台のポートと同じメカニズムがリモートアクセスコードにより使用されますが、最初に試されるポートは61000です。競合が発生する場合、使用されるポート番号が61007を超えないという保証はありません。IPv4のみのネットワークで使われるNICが1台の場合、空いている中で最も小さい番号のポートがHP Smart Update Managerが動作するローカルワークステーション上のプロセス間での情報のやりとりに使われます。また、空いている次に小さい番号のポートがリモートサーバからのメッセージの受信に使われます。
ポート62286	このポートは、一部の内部通信用のデフォルトポートです。競合がなければ、このポートがリモート側のリッスンポートになります。競合が発生する場合は、空いている次のポートが使用されます。
ポート80または63000～63005	ポート80を使用できる場合、ログはポート80を使う内部のセキュアWebサーバ経由でターゲットに渡され取得されます。ポート80を使えない場合は、63000～63005の間の任意のポートが使用されます。このサポートにより、ホストサーバにアクセスすることなくiLOのファームウェアを更新できます。また、VMwareなどの仮想化プラットフォームを実行するサーバが、サーバの再起動や仮想マシンの他のサーバへの移行を伴うことなくそのiLOを更新できます。

Linuxの場合

ポート	説明
ポート22	このポートは、SSH経由でのリモートのLinuxサーバへの接続を確立します。
ポート60000～60007	ローカルシステムとリモートシステムの間でSSL経由でメッセージをやりとりにするために、この範囲の任意のポートが使用されます。HP Smart Update Managerを実行するシステムでは、これらのポートを使用してデータがターゲットサーバに送信されます。 HP Smart Update Manager内のいくつかの内部プロセスでは、他のアプリケーションが使用していない場合、ポート番号60000から始まる各ポートが自動的に使われます。ポートが競合する場合、マネージャは次に空いているポートを使用します。ポート番号は、インストール対象として選択されるターゲットデバイスの数に左右されるため、上限が60007であるという保証はありません。
ポート61000～61007	これらのポートは、ターゲットサーバからHP Smart Update Managerを実行するシステムへの応答に使用されます。ターゲットサーバからの応答では、60000番台のポートと同じメカニズムがリモートアクセスコードにより使用されますが、最初に試されるポートは61000です。競合が発生する場合、使用されるポート番号が61007を超えないという保証はありません。IPv4のみのネットワークで使われるNICが1台の場合、空いている中で最も小さい番号のポートがHP Smart Update Managerが動作するローカルワークステーション上のプロセス間での情報のやりとりに使われます。また、空いている次に小さい番号のポートがリモートサーバからのメッセージの受信に使われます。
ポート62286	このポートは、一部の内部通信用のデフォルトポートです。競合がなければ、このポートがリモート側のリッスンポートとして使用されます。競合が発生する場合は、空いている次のポートが使用されます。
ポート80または63000～63005	ポート80を使用できる場合、ログはポート80を使う内部のセキュアWebサーバ経由でターゲットに渡され取得されます。ポート80を使えない場合は、63000～63005の間の任意のポートが使用されます。このサポートにより、ホストサーバにアクセスすることなくiLOのファームウェアを更新できます。また、VMwareなどの仮想化プラットフォームを実行するサーバが、サーバの再起動や仮想マシンの他のサーバへの移行を伴うことなくそのiLOを更新できます。

- **HP Smart Update Managerは切断されます。**

iLOまたはNICファームウェアのいずれかが更新されると、HP Smart Update Manager接続が失われ、コンポーネントをインストールすることができません。アクセス エラーがある場合は、HP Smart Update Managerは、インストールをキャンセルします。

- **インストールの失敗からはどのように復旧しますか。**

HP Smart Update Managerは、%TEMP%\hp_sumディレクトリにデバッグ トレース ログ セットを生成します。これらのファイルには、内部プロセスとデバッグの情報が含まれています。発生した問題を解決するために、これらのトレース ディレクトリで情報を収集してください。

- **日本語文字セット使用時にはどのように再起動しますか。**

ユーザが、再起動操作中のシステム シャットダウンの前に表示するメッセージを指定することがあります。日本語文字セットを使いWindows® オペレーティング システムの日本語版を実行している場合、メッセージが原因で再起動が自動的に行われません。再起動を成功させるには、**[Exit]**ボタンを選択する必要があります。

NetWare用PSPのインストールに関するトラブルシューティング

NetWare用PSPを使用している際に、以下のような問題が発生することがあります。問題は太字で表記し、その後には解決方法を示します。

- **サーバを再起動させるために/rフラグを使用しました。インストールしたパッケージのうちの1つは再起動が必要でしたが、サーバは再起動しませんでした。なぜでしょうか。**

インストールすることを選択したパッケージのいずれかが正常にインストールされなかった場合、再起動は行われません。これにより、管理者は、変更を有効にする前に、サーバを調査して、ソフトウェアのインストールの失敗の原因を見つけて解決することができます。

- **パッケージの内容を調べると、パッケージに含まれているドライバは、現在サーバにインストールされているものよりも新しいバージョンです。しかし、サポート ファイルの1つは、パッケージに含まれているものよりも古いバージョンです。インストール中にはどのようなことが起こるのでしょうか。**

各パッケージに含まれている重要なファイルのバージョンは、ファイルがサーバにインストールされる前にチェックされます。重要なファイルがサーバ上のファイルよりも新しい場合、パッケージのバージョンのファイルがインストールされます。新しくない場合は、現在サーバにインストールされているバージョンのファイルが残され、パッケージのファイルはインストールされません。

/forceフラグを使用している場合は、バージョンのチェックは行われません。サーバ上のファイルのいずれかがパッケージのファイルより新しくても、パッケージのすべてのファイルがインストールされます。

- **ドライバをインストールし、サーバを再起動する前にもう一度インストール ユーティリティを実行すると、インストール ユーティリティに表示されるバージョンが、MODULESコンソール コマンドによってロードされたバージョンと一致しません。**

インストールが実行されると、インストール ユーティリティは、ハードディスク ドライブにインストールされたバージョンをチェックします。ロードされたバージョンが異なる場合でも、インストールに際して比較されるバージョンは、物理メディア上のバージョンです。

- **コマンド ライン インストールを実行する際に/r/パラメータを指定しても、サーバが再起動しません。**

これは、通常、インストールしようとしたソフトウェアのバージョンがすでにサーバにインストールされているバージョンと同じかそれよりも古い場合、またはインストール中に問題が発生した（前提条件に適合していない）場合に起こります。SYS:\ETC\CPQLOG.LOGファイルを調べて問題の原因を特定してください。

- **インストール中に以下のエラー メッセージが表示されます。**

Unable to read xxx from an XML file.

これは、パッケージが壊れている場合に表示されることが多く、また、ダウンロード時に起こることがあります。パッケージXMLファイルのチェックが正常でない場合、パッケージのインストールは中止され、エラーメッセージが表示されます。この問題を解決するには、HPのソフトウェアとドライバのWebサイト <http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers> からもう一度パッケージをダウンロードしてください。

- **PSPをインストールしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。**

The software in this package is not intended for this version of NetWare.

インストールするように選択したパッケージが、現在サーバにインストールされているNetWareのバージョン用ではない可能性があります。

- **CPQDPLOY.NLMを起動すると、サポートされているSupport Pack XMLファイルのパスを入力するように求められます。**

このプロンプトは、有効なSupport Pack XMLファイルがないディレクトリにCPQDPLOY.NLMがあると起こります。有効なSupport Pack XMLファイルとは、BP000XXX.XMLのフォーマットのファイルで、ターゲットシステム上にインストールされているバージョンのNetWareをサポートするものでなければなりません。Support Packファイルを含むディレクトリにCPQDPLOY.NLMがある場合でも、現在インストールされているバージョンのNetWareによってSupport Packファイルがサポートされていないと、有効なSupport Pack XMLファイルのパスを入力するように求められます。**F1** キーを押すと、有効なパスの例が表示されます。

XMLファイルのパスの入力が求められる場合は、新しいパスが、コンポーネントを配置するためのデフォルトパスとして使用されます。



重要： PSPを構成するすべてのコンポーネントは、Support Packファイルと同じディレクトリに配置される必要があります。

Linux用PSPのインストールに関するトラブルシューティング

Linux用PSPをインストールする際に、以下のような問題が発生することがあります。問題は太字で表記し、その後に関解決方法を示します。

該当する問題がこの項にない場合には、HPのWebサイト <http://www.hp.com>（英語）で以下に示すキーワードを用いて検索を実行するとLinux用PSPの関連情報を参照することができます。

+ProLiant +advisory +note +linux|psp -"software and drivers" -download

- **サーバを再起動するために-rフラグを使用し、インストールしたコンポーネントの1つに再起動が必要でしたが、サーバが再起動しませんでした。なぜでしょうか。**

インストールを選択したコンポーネントが1つでもインストールに失敗すると、再起動は行われません。これにより、管理者は、変更を有効にする前に、サーバを調査して、ソフトウェアのインストールの失敗の原因を見つけて解決することができます。

- **PSPをインストールしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。**

No supported Bundle XML files were found.

インストールしたオペレーティングシステム用のBP00xxxx.xmlファイルがないか、またはインストールしたLinuxのバージョンが現在のLinux用PSPでサポートされていません。

BP00xxxx.xmlファイルがない場合は、完全なLinux用PSPをHPのソフトウェアとドライバのWebサイト <http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers> から再度ダウンロードしてください。



重要： PSPを構成するすべてのコンポーネントは、Support Packファイルと同じディレクトリに配置される必要があります。

- **ストレージコンポーネントをインストールしてサーバを再起動すると、カーネルがブートするLILOまたはGRUBテーブルに1つ以上の新しいエントリがあります。これは正常な動作ですか。**

はい、これは正常な動作です。それぞれのストレージドライバが、ドライバをベースカーネルに再接続して、ブート時に表示されるLILOまたはGRUBテーブルに新しいエントリを追加します。最新のドライバを持つカーネルを確実に取得するには、テーブル内の最後のエントリを選択してください。

- **LDUの開始時に、800×600の画面解像度では、画面の下に[Install]および[Exit]ボタンが表示されません。**

表示解像度が800×600の場合、[Install]および[Exit]ボタンがユーザパネルの下に隠れてしまうことがあります。[Install]および[Exit]ボタンを表示するには、ユーザパネルを表示しないようにするか、または画面の一方の側に寄せてください。HPでは、LDUを1024×768以上の解像度で実行することをおすすめします。

- **ソースコードからコンパイルするコンポーネントをインストールしようとしています、makeコマンドでインストールが失敗します。**

カーネルソースからのビルドを完了するために必要なビルドツールが、LDUがインストールしているサーバにありません。ソースのRPMからビルドするには、以下のRPMを、LDUがソフトウェアをインストールしているサーバにコピーしておく必要があります。

- gcc-2.96-108.1以上
- cpp-2.96-108.1以上
- binutil-2.11.90.0.8以上
- glibc-devel-2.2.4-26以上

- **bcm5700およびe100ドライバをインストールする場合に、modules.confファイルが更新されないのはなぜですか。**

LDUはこれらのドライバをインストールしますが、インストール中にNICドライバを正しく設定するために必要なすべての情報を判別できないため、これらのドライバの設定は行いません。これらのドライバを設定するには、サポートされているLinuxディストリビューションで提供されるオペレーティングシステム固有のツールを使用してください。

- **インストールしたerrataカーネルをサポートしていないと、一部のドライバがレポートするのはなぜですか。**

LDUが提供する一部のRPMコンポーネントには、それらがサポートする特定のerrataカーネル用のプリビルトバイナリが含まれています。erratumカーネル用の新しいプリビルトバイナリを利用できない場合、LDUはコンポーネントをインストールできないようにします。新しいerrataカーネルのサポート用にアップグレードされたRPMコンポーネントは、利用可能になり次第、Linux用PSPに含まれます。erratumカーネルのサポートを利用できない場合、RPMコンポーネントをインストールできるerratumカーネルを使用するか、使用したいerratumカーネルに対応する代替ハードウェアを使用してください。

- **複数のバージョンのLinux用PSPを1つのディレクトリに格納していると、「Error 8」メッセージが表示され、Linux用PSPが終了します。このエラーメッセージの意味を教えてください。**

Linux用PSPは、インストールされているLinuxディストリビューションをサポートする複数のバンドルXMLファイルを検出すると、「Error 8」を表示します。Linux用PSPは、バンドルXMLファイルが1つだけある場合にのみ、その内容をインストールします。複数のバンドルXMLファイルがあると、どちらのファイルを使用するか判断できないため、「Error 8」メッセージを表示して終了します。このエラーを解決するには、Linux用PSPの各バージョンを異なるディレクトリにコピーしてください。この問題は、Linux用PSPの将来のバージョンで解消される予定です。

注：このエラーメッセージは、PSP 7.10以降には適用されません。PSP 7.10以降では、GUIモードまたは「非グラフィカル ユーザ インタフェース」モードでインストールする場合、サポートされる複数のバンドルXMLファイルが検出されると、インストールするバージョンを尋ねるプロンプトが表示されます。ただし、Silentモードでは、PSP 7.10以降でもこれまでと同様に、サポートされる複数のバンドルXMLファイルが1つのディレクトリで検出されるとエラーになります。

- **Red Hat Enterprise Linux 3で次のエラーメッセージが表示されるのはなぜですか。**

A required library RPM, compat-libstdc++, necessary to complete installation of the Compaq Storage Agents for Linux component is not present.

一部のRPMコンポーネント (cpqacuxe、cmastorなど) は、C++互換ライブラリがないと正常に動作しません。Red Hat Enterprise Linux 3は、デフォルトではこのライブラリをインストールしません。HP SmartStart 7.10のリリースから、このライブラリがLinux PSP for Red Hat Enterprise Linux 3に含まれているので、HPの付加価値ソフトウェアをすべてのRed Hat Enterprise Linux 3サーバにインストールできます。

互換ライブラリを手動でインストールしたい場合は、Red Hat Enterprise Linux 3 CD #3を使用して compat-libstdc++7.3-2.96.122.i386.rpmをインストールしてください。

IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

HP Smart Update Managerがリモート サーバに接続できない場合は、検出ができないエラーが表示されることがあります。検出の失敗の原因は、他社製ストレージ、リモート ターゲットサーバへのアクセスの失敗、およびシステム リソースへのアクセスの不能が考えられます。IPv6ネットワークでは、ホスト検出の失敗は、IPv6ネットワークの誤った設定が原因の場合があります。

IPv6 Windows Server 2003環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

HP Smart Update Managerをサポートするように正しくIPv6ネットワークが設定されていることを検証するには、オペレーティング システムのバージョンに従って、次の項目を確認してください。

- アドレスがsite-localであることを確認してください。site-localアドレスは、通常、「FEC0:」から始まります。グローバルおよびlink-local IPv6アドレスは、リモート ターゲットがWindows Server® 2003の場合は、サポートされていません。
- リモート ターゲット サーバをpingできることを確認してください。Windows®オペレーティング システムでは、IPv6アドレスへのping送信にもpingコマンド (ping <ipv6アドレス>) を使用できます。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します (ping ::1)。
- IPv6アドレスの代わりにDNSホスト名を使用して、アドレスが正しいことを確認してください。
- IPv6プロトコルをインストールしていることを確認してください。Windows Server® 2003では、デフォルトではインストールされていません。プロトコルをインストールしたら必ず再起動し、アドレスを正しく取得させてください。
- HP Smart Update Manager内の認証情報を使用してadmin\$共有に接続できることを確認してください。それには、コンソール プロンプトで次のコマンドを発行します。

```
net use * \\<ipv6-address>.ipv6-literal.net\admin$ /user:<username>
net use * \\fec0::2.ipv6-literal.net\admin$ /user:administrator
```

ローカル システムへのログインに使用したものと異なるユーザ名を使用する場合は、パスワードを入力しなければならない場合があります。すべてのネットワーク共有は、Windows®によって正しく設定されるために、.ipv6-literal.net名前文字列を使用する必要があります。IPv6へのアクセスについて詳しくは、Microsoft® Knowledge Baseの記事 (<http://support.microsoft.com/kb/944007>) (英語) を参照してください。

注： HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースにIPv6アドレスを入力する場合やコマンドライン パラメータを使用してHP Smart Update ManagerにIPv6アドレスを渡す場合は、.ipv6-literal.netサフィックスを使用する必要はありません。

リモート ターゲット サーバのadmin\$共有にアクセスできることを確認したら、他のネットワークまたはハードウェアの問題がない限り、HP Smart Update Managerは動作します。

- 「Windows Server® 2003 IPv6環境でのHP Smart Update Managerの使用方法」（84ページの「[Windows Server 2003用のIPv6の設定](#)」を参照）に書かれているとおりにリモート ターゲット サーバでレジストリの変更を行っていることを確認してください。
- IPv4ネットワーク アドレスに戻り、HP Smart Update Managerが問題なく正しいリモート ターゲット サーバを検出することを確認してください。

いつでも、HP Smart Update Managerをターゲット サーバにコピーし、ローカル インストール方法を使用して実行することができます。

IPv6 Windows Server 2008環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

HP Smart Update Managerをサポートするように正しくIPv6ネットワークが設定されていることを検証するには、オペレーティング システムのバージョンに従って、次の項目を確認してください。

- リモート ターゲット サーバをpingできることを確認してください。Windows®オペレーティング システムでは、IPv6アドレスへのping送信にpingコマンド（ping <ipv6アドレス>）を使用できます。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します（ping ::1）。
- IPv6アドレスの代わりにDNSホスト名を使用して、アドレスが正しいことを確認してください。
- HP Smart Update Manager内の認証情報を使用してadmin\$共有に接続できることを確認してください。それには、コンソール プロンプトで次のコマンドを発行します。

```
net use * \\<ipv6-address>.ipv6-literal.net\admin$ /user:<username>
net use * \\fec0::2.ipv6-literal.net\admin$ /user:administrator
```

ローカル システムへのログインに使用したものと異なるユーザ名を使用する場合は、パスワードを入力しなければならない場合があります。すべてのネットワーク共有は、Windows®によって正しく設定されるために、.ipv6-literal.net名前文字列を使用する必要があります。IPv6へのアクセスについて詳しくは、Microsoft® Knowledge Baseの記事（<http://support.microsoft.com/kb/944007>）（英語）を参照してください。

リモート ターゲット サーバのadmin\$共有にアクセスできることを確認したら、他のネットワークまたはハードウェアの問題がない限り、HP Smart Update Managerは動作します。

IPv6 Red HatおよびNovell SUSEベースのLinux環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

- HP Smart Update Manager内の認証情報を使用してリモート ターゲット サーバへのssh接続を確立できることを確認してください。それには、コンソール プロンプトで次のコマンドを発行します。

```
ssh <ipv6 address>
ssh 2101:db8:0:1::9
```

IPv6接続を完了するには、コンソールでターゲットLinuxサーバのrootパスワードを入力する必要があります。

- リモート ターゲット サーバをpingできることを確認してください。Linuxでは、IPv6アドレスへのping送信にping6コマンドを使用する必要があります（ping6 <ipv6 アドレス>）。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します（ping6 ::1）。
- IPv6アドレスの代わりにDNSホスト名を使用して、アドレスが正しいことを確認してください。

- `ipconfig`を使用して、IPv6アドレスがNICに割り当てられていることを検証してください。設定のトラブルシューティングについて詳しくは、「Linux IPv6 How-To」 (<http://www.linux.org/docs/ldp/howto/Linux+IPv6-HOWTO/index.html>) (英語) を参照してください。
- IPv6ネットワークのセットアップとトラブルシューティングについて詳しくは、「Getting Around IPv6 by Carla Schroder」 (<http://www.enterprisenetworkingplanet.com/netsp/article.php/3634596>) (英語) を参照してください。
- IPv4ネットワーク アドレスに戻り、HP Smart Update Managerが問題なく正しいリモート ターゲット サーバを検出することを確認してください。
- いつでも、HP Smart Update Managerをターゲット サーバにコピーし、ローカル インストール方法を使用して実行することができます。

テクニカル サポート

参照資料

PSPについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/psp>（英語）を参照してください。

最新バージョンのPSPをダウンロードする方法については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/swdrivers>にあるソフトウェアとドライバのダウンロードのページを参照してください。

HP Subscriber's Choiceについて詳しくは、HPのSubscriber's ChoiceのWebサイト<http://www.hp.com/go/subscriberschoice>（英語）を参照してください。

オンラインROMフラッシュ コンポーネントについては、HPのFTPサイト<ftp://ftp.compaq.com/pub/products/servers/management/smartstart/OnlineROMFlashUsersGuide.pdf>（英語）にある『Online ROM Flash User Guide』を参照してください。

HP Systems Insight Managerについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim>から入手できる以下の資料を参照してください。

- 『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド』
- HP Systems Insight Managerのヘルプ ガイド

SmartStart Scripting Toolkitについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/manual>から入手できるToolkitの資料を参照してください。

SmartStartまたは他のCDをダウンロードする方法については、HPのSmartStartダウンロードのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/smartstart>を参照してください。

ProLiant Essentials Rapid Deployment Packについて詳しくは、HPのRapid Deployment PackのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/rdp>を参照してください。

一般的なマネジメント製品について詳しくは、HPのProLiant EssentialsのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/pmp>を参照してください。

ProLiantサーバがサポートするオペレーティング システムについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/supportos>（英語）にあるオペレーティング システムサポートマトリックスを参照してください。

SmartStartのサポートについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/smartstart/supportmatrices>（英語）にあるSmartStartサポート マトリックスを参照してください。

オペレーティング システム情報

Microsoft® Windows® オペレーティング システムについて詳しくは、Microsoft® 社のWebサイト<http://www.microsoft.com>を参照してください。

Novell NetWareオペレーティング システムについて詳しくは、Novell社のWebサイト<http://www.novell.com>を参照してください。

Linuxオペレーティング システムについて詳しくは、下記のWebサイトを参照してください。

- Red Hat Linux (<http://www.redhat.co.jp>)
- SUSE LINUX (<http://www.suse.com>)

付録—Microsoft Windows 7.80以前へのPSPのインストール

Microsoft Windows 7.80以前用PSPの概要

この章では、Microsoft® Windows® 2000（バージョン7.60以前）、Windows® 2003（バージョン7.80以前）、およびWindows® 2003 x64（バージョン7.80以前）用のPSPの使用について説明します。HPでは、コンポーネントの設定とWindows®へのPSPのインストールのために、以下のツールを提供しています。

- Microsoft® Windows®用RDU
- Microsoft® Windows®用リモート展開コンソール ユーティリティ

この章の最後では、いくつかのインストールのシナリオを示します。

PSPを使用する際は、以下の手順に従うことをおすすめします。

1. PSPを入手して、ソフトウェア レポジトリまたは他のメディアに保存します。



重要： PSPのインストールの前にPSP内の各種のSmartコンポーネントを設定できるように、PSPファイルは読み取り専用でないメディアに保存することをおすすめします。たとえば、Support PackおよびコンポーネントがCD-ROMに保存されていると、これらを設定することができません。

2. Smartコンポーネントに読み取り専用属性が設定されていないことを確認します。



重要： SmartコンポーネントをSmartStart CDまたはSoftware Maintenance CDからコピーした場合、コンポーネントには、デフォルトで、読み取り専用属性が設定されています。Microsoft® Windows® Explorer またはattribコマンドを使用して、SmartStart CDまたはSoftware Maintenance CDからコピーしたSmartコンポーネントの読み取り専用属性を解除してください。

3. Windows®用RDUの設定機能を使用して、コンポーネントを設定します。

注： コンポーネントの設定が必要なのは一度だけです。設定情報は各Smartコンポーネント内に保存されているため、コンポーネントをインストールすれば利用できます。インストールするたびにコンポーネントを設定する必要はありません。ただし、設定は選択したターゲットコンピュータの影響を受けません。コンポーネントのインストール後、コンポーネントの設定を変更する場合は、コンポーネントを再インストールする必要があります。

4. Windows®用RDUやWindows®用リモート展開コンソール ユーティリティなどのインストール ツールを使用して、PSPをインストールします。

注： Smartコンポーネントは、個別にインストールすることもできます。詳しくは、「単一コンポーネントのインストール」（116ページ）を参照してください。

Microsoft Windowsバージョン7.80以前の最小要件



重要：ソフトウェア アップデートをターゲット システムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にターゲット システムの最新のバックアップが取得されていることを確認してください。

注：現在サポートされているオペレーティング システムのリストについては、HPのPSPのWebサイト <http://www.hp.com/servers/psp>（英語）を参照してください。

Microsoft® Windows® ベースのターゲット システムに正常にコンポーネントをインストールするには、以下の最小要件が満たされていなければなりません。

- Windows® 2000、Windows Server™ 2003、またはWindows Server™ 2003 x64で動作するローカル管理システムが稼動している必要があります。
- Windows® 2000、Windows Server™ 2003、またはWindows Server™ 2003 x64で動作し、ソフトウェアのアップグレードを必要とする1台または複数のリモート ターゲット サーバが稼動している必要があります。アップグレードするサーバがローカル管理システムだけの場合は、リモート ターゲット サーバは必要ありません。
- ターゲット システムで、十分な空き容量のあるハードディスク ドライブを使用できる必要があります。標準的な作業の場合、ハードディスク ドライブの十分な空き容量は、インストールするPSPまたは各コンポーネントのファイル サイズの2倍以上の容量です。
- 管理システムからシステムを認識できるように、すべてのリモート ターゲット サーバが、同じネットワークに接続され、TCP/IPを使用している必要があります。
- 各ターゲット サーバに管理者権限を持つアカウントが必要です。各ターゲット サーバの管理者アカウントのユーザ名とパスワードは、ローカル管理システムと同じにしておくことをおすすめします。管理者権限のアカウントがこのように設定されていない場合は、各リモート サーバのユーザ名とパスワードを調べておいてください。あるいは、ターゲット サーバの管理者権限を持つローカル管理システムのドメイン アカウントを使用することもできます。

RDUを実行するには、ローカル管理システム以下が稼動していなければなりません。

- Microsoft® Internet Explorer 5.5以上
- Microsoft® XML Parser 3.0以上

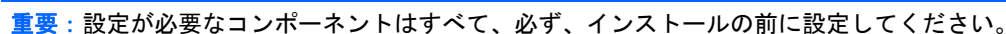
注：SmartStart CD、Software Maintenance CDまたはHPのWebサイトからSupport Packを入手した場合は、Microsoft® XML Parserの適切なバージョンがmsxm13.cabファイルに格納されています。XML Parserがシステムにインストールされていない場合は、RDUが自動的にインストールします。Microsoft® XML Parserのサポートされているバージョンは、Internet Explorer 6.0にも含まれています。

Microsoft Windows用RDU

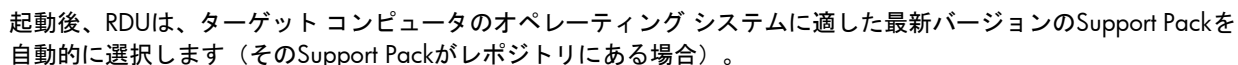
HPでは、拡張PSPインストール機能を提供するグラフィカル アプリケーションとして、Windows®用RDUを開発しました。このユーティリティでは、ポイント アンド クリック インタフェースを使用して、PSPやSmartコンポーネントをローカルサーバまたはネットワーク経由でアクセスできるリモートサーバにインストールし、メンテナンスを行うことができます。

ほとんどの場合、RDUを使用したSupport Packのインストールは、次の3つの簡単な手順で構成されます。

1. [ターゲット マシン]ツールバーで、ターゲット マシンを選択します。
2. [インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバーのドロップダウン メニューからSupport Packを選択します。
3. [ターゲット マシン]ツールバーで**[インストール]**をクリックして、表示される指示に従います。



RDUを起動すると、メイン制御ウィンドウが表示されます。



注: 新しいターゲット コンピュータを選択した場合、RDUは、新しいターゲット コンピュータに適した最新バージョンのSupport Packの自動選択は行いません。ターゲット コンピュータ リストの以前の内容が、そのまま維持されます。

メイン ウィンドウは、以下のような部分から構成されています。

- メニュー バー
- [レポジトリ] ツールバー
- [ターゲット マシン] ツールバー
- [インストールのために選択されたSupport Pack] ツールバー
- レポジトリ ビュー ツリー
- ターゲット コンピュータ リスト

メニュー バー

メニュー バーは、以下のメニュー項目から構成されています。






- **【ファイル】**メニュー項目では、RDUを終了できます。
- **【レポジトリ】**メニュー項目では、ソフトウェア レポジトリにアクセスして、PSPおよびコンポーネントの詳細を設定したり表示したりするためのオプションが提供されます。
- **【ターゲット】**メニュー項目では、ターゲット マシンを設定または再起動したり、コンポーネントをインストールしたりするためのオプションが提供されます。
- **【ヘルプ】**メニュー項目では、RDUのヘルプ ファイルにアクセスできます。

[レポジトリ]ツールバー

[レポジトリ]ツールバーには、[レポジトリ]フィールドがあります。このフィールドには、PSPや他のSmartコンポーネントが配置されているソフトウェア レポジトリのパスを入力できます。

注： [レポジトリ]フィールドのデフォルトは、RDUがあるディレクトリになっています。






ツールバーには、次のボタンもあります。

アイコン	説明
	ネットワーク上のレポジトリにアクセスできます。
	前回のスキャン以降にレポジトリに加えられた変更を再スキャンして、レポジトリ ビュー ツリーに反映します。
	選択したレポジトリ項目を設定します。
	選択されたレポジトリ項目のリビジョン履歴を表示します。
	選択されたレポジトリ項目のプロパティを表示します。

[ターゲット マシン]ツールバー

[ターゲット マシン]ツールバーには、[ターゲット マシン]フィールドがあります。このフィールドには、PSPや他のSmartコンポーネントがインストールされるターゲット サーバのパスを入力できます。[ターゲット マシン]フィールドには、デフォルトで、RDUを起動するサーバの名前が入力されています。リモートサーバへのインストールを行う場合は、[ターゲット マシン]フィールドをリモート サーバ名に変更してください。

ツールバーには、次のボタンもあります。

アイコン	説明
	ネットワーク上のターゲット マシンにアクセスできます。
	ターゲット マシンを再起動します。
	ターゲット インストール ログ ファイルを表示します。
	選択されたコンポーネントまたはPSPをターゲット マシンにインストールします。
	選択されたコンポーネントをターゲット コンピュータ リストから削除します。

[インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバー

[インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバーには、ターゲット マシンに適した現在のレポジトリにある、利用可能なすべてのPSPを含むドロップダウン リストがあります。

ドロップダウン リストからSupport Packを選択すると、ターゲット コンピュータ リストの現在の内容が消去され、そのSupport Packに含まれるすべてのコンポーネントがリストに表示されます。

レポジトリ ビュー ツリー

RDUのメイン ウィンドウの左側にあるレポジトリ ビュー ツリーは、選択したソフトウェア レポジトリに含まれるすべてのSupport PackとSmartコンポーネントをカテゴリ別に表示します。Support Packとコンポーネントは、バージョンの新しい順に並べて表示されます。ツリーには、以下の3つのレベルがあります。

- **オペレーティング システム レベル** - レポジトリに複数のオペレーティング システム用のSupport Packまたはコンポーネントが含まれている場合、レポジトリ ビュー ツリーには各オペレーティング システム用のフォルダが表示されます。設定が必要な（または設定が可能な）すべてのコンポーネントが含まれている[すべての設定可能コンポーネント]フォルダも、このレベルにあります。



ヒント : ターゲット マシンに適したオペレーティング システムのフォルダは、太字で示されます。[すべての設定可能コンポーネント]フォルダは、設定が必要なコンポーネントを含んでいると太字で示されます。

- **カテゴリ レベル** - このレベルには、カテゴリによってグループ分けされたSmartコンポーネントのフォルダ（[ネットワーク]、[管理エージェント]、[記憶装置]など）が含まれます。すべてのSupport Packが含まれている[サポートパック]フォルダも、このレベルで利用できます。
- **コンポーネント レベル** - このレベルには、各Smartコンポーネントがあります。各コンポーネントのアイコンの意味については、次の表を参照してください。

アイコン	説明
	コンポーネントは設定が必要ですが、まだ設定されていません。
	コンポーネントは設定が可能ですが、まだ設定されていません。
	コンポーネントは設定が可能で、すでに設定されています。
	コンポーネントは設定が不要です。

レポジトリ ビュー ツリーのどのレベルのフォルダまたはファイルも、以下のいずれかの方法でターゲット コンピュータ リストに追加できます。

- 選択した項目またはフォルダをレポジトリ ビュー ツリーからドラッグして、ターゲット コンピュータ リストにドロップします。項目は、リストの最後に追加されます。
- レポジトリ ビュー ツリーの項目またはフォルダを選択して、**Insert**キーを押します。項目は、リストの最後に追加されます。

ターゲット コンピュータ リスト

RDUのメイン ウィンドウの右側にあるターゲット コンピュータ リストには、ターゲット コンピュータにインストールするために選択されたコンポーネントがすべて含まれています。このウィンドウには、次の3つの欄があります。

- **[インストールされるソフトウェアの説明]** - この欄には、インストールするために選択されたコンポーネントの名前が示されます。
- **[インストール済みバージョン]** - この欄には、現在ターゲット マシンにインストールされているすべてのコンポーネントのバージョン番号が示されます。
- **[新しいバージョン]** - この欄には、インストールするために選択された、ソフトウェア レポジトリにあるコンポーネントのバージョン番号が示されます。

ターゲット コンピュータ リストに項目を追加するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- [インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバーからSupport Packを選択して、Support Packのすべてのコンポーネントをターゲット コンピュータ リストに追加します。
- 選択した項目またはフォルダをレポジトリ ビュー ツリーからドラッグして、ターゲット コンピュータ リストにドロップします。項目は、リストの最後に追加されます。
- レポジトリ ビュー ツリーの項目またはフォルダを選択して、**Insert**キーを押します。項目は、リストの最後に追加されます。

項目は、次のいずれかの方法で、ターゲット コンピュータ リストから削除できます。

- [ターゲット マシン]ツールバーの**[インストレーションで選択したアイテムの削除]**ボタン (X) をクリックして、ターゲット コンピュータ リストから選択された項目を削除します。
- 削除する項目を選択して、**Delete**キーを押します。

ターゲット コンピュータ リストでは、マウスを使用して複数の項目を選択できます。複数の項目を選択する場合、CtrlキーまたはShiftキーを押したままマウスをクリックするWindows®の標準の方法を使用できます。

リビジョン履歴とプロパティ

[リビジョン履歴]オプションと[プロパティ]オプションによって、コンポーネントまたはPSPに関する追加情報をレポジトリ ビュー ツリーに表示することができます。

コンポーネントのリビジョン履歴を表示するには、コンポーネントを右クリックして[リビジョン履歴の表示]を選択するか、[レポジトリ]ツールバーのリビジョン履歴アイコン (📄) をクリックします。リビジョン履歴によって、ソフトウェアの機能拡張および問題修正に関する詳細が示されます。



コンポーネントのプロパティを表示するには、コンポーネントを右クリックして[プロパティ]を選択するか、[レポジトリ]ツールバーのプロパティ アイコン (📄) をクリックします。[プロパティ]ウィンドウには、コンポーネントまたはPSPのプロパティ（ファイル名、バージョン番号、オペレーティング システム情報など）が表示されます。



コンポーネントの事前設定

PSPに含まれているSmartコンポーネントには、インストールの前に設定しなければならないものがあります。設定が必要なコンポーネントがある場合、[すべての設定可能コンポーネント]フォルダが太字でレポジトリ ビュー ツーリーに表示されます。



重要：設定情報は各Smartコンポーネント内に保存されているため、コンポーネントをインストールすれば利用できます。インストールするたびにコンポーネントを設定する必要はありません。ただし、設定は選択したターゲット コンピュータの影響を受けません。コンポーネントのインストール後、コンポーネントの設定を変更する場合は、コンポーネントを再インストールする必要があります。

レポジトリ ビュー ツリーにある各コンポーネントの横のアイコンは、設定が必要かどうかを示します。アイコンの意味については、「レポジトリ ビュー ツリー」（106ページ）を参照してください。設定可能なコンポーネントは次のとおりですが、これ以外にもあります。

- System Management Homepage (PSP 7.20以降)
- HP Insightマネジメント エージェント
- VCA

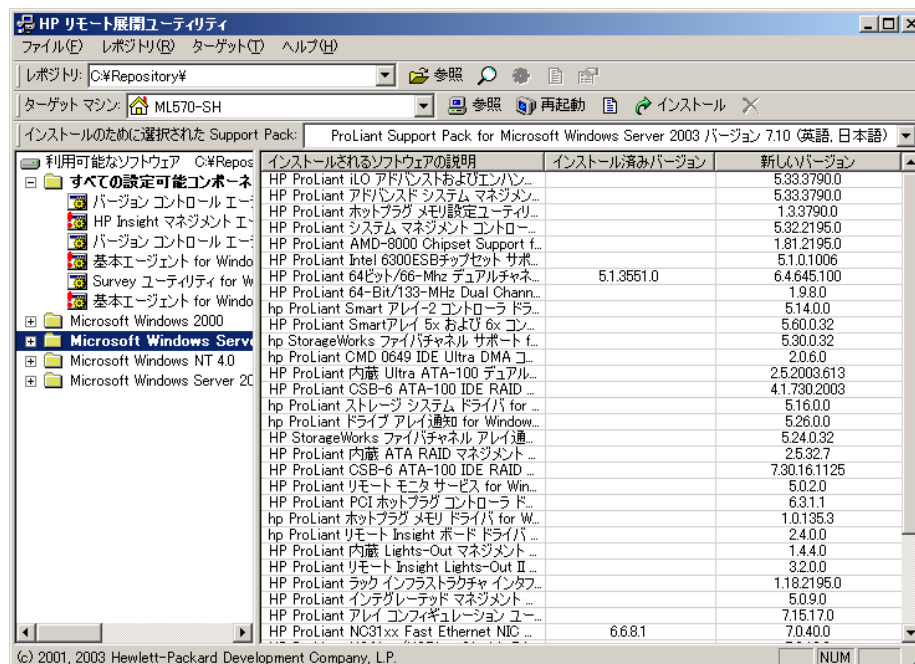
PSP 7.10以前では、Insightマネジメント エージェントを初めてインストールする場合、Insightマネジメント エージェントやその他のユーティリティのWebベース マネジメント部分を使用するには、Smartコンポーネントで、ユーザID、パスワード、および信頼レベルを設定する必要があります。Insightマネジメント エージェントがすでにターゲットシステムで設定されており、これから更新する場合は、インストールの前に、新しいエージェント コンポーネントを設定する必要はありません。

PSP 7.20以降では、コンポーネントの事前設定はオプションですが、HPのソフトウェアを以前にインストールしていないシステムにコンポーネントをインストールする際は特に、必ず設定可能なコンポーネントを確認し、インストールされているソフトウェアが必要に応じて動作するための事前設定が必要かどうかを判断してください。System Management Homepageは、オペレーティング システム ベースの認証を使用し、デフォルトで、ローカル管理アカウントによるログインを許可します。事前設定によって、または各システムに個別にアクセスすることによって、オペレーティング システムのユーザ グループをSystem Management Homepageのアクセス リストに追加できます。ただし、デフォルトのインストールでは、Systems Insight Managerの信頼モードを確立していないため、この機能が必要な場合は、コンポーネントを事前設定してください。

詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim>から入手できる『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド』を参照してください。

Smartコンポーネントを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. レポジトリ ビュー ツリーでコンポーネントを選択します。



2. メニュー バーから、**[レポジトリ]**、**[設定]**の順に選択するか、コンポーネントを右クリックして、**[設定]**を選択します。選択したコンポーネントの設定情報画面が表示されます。



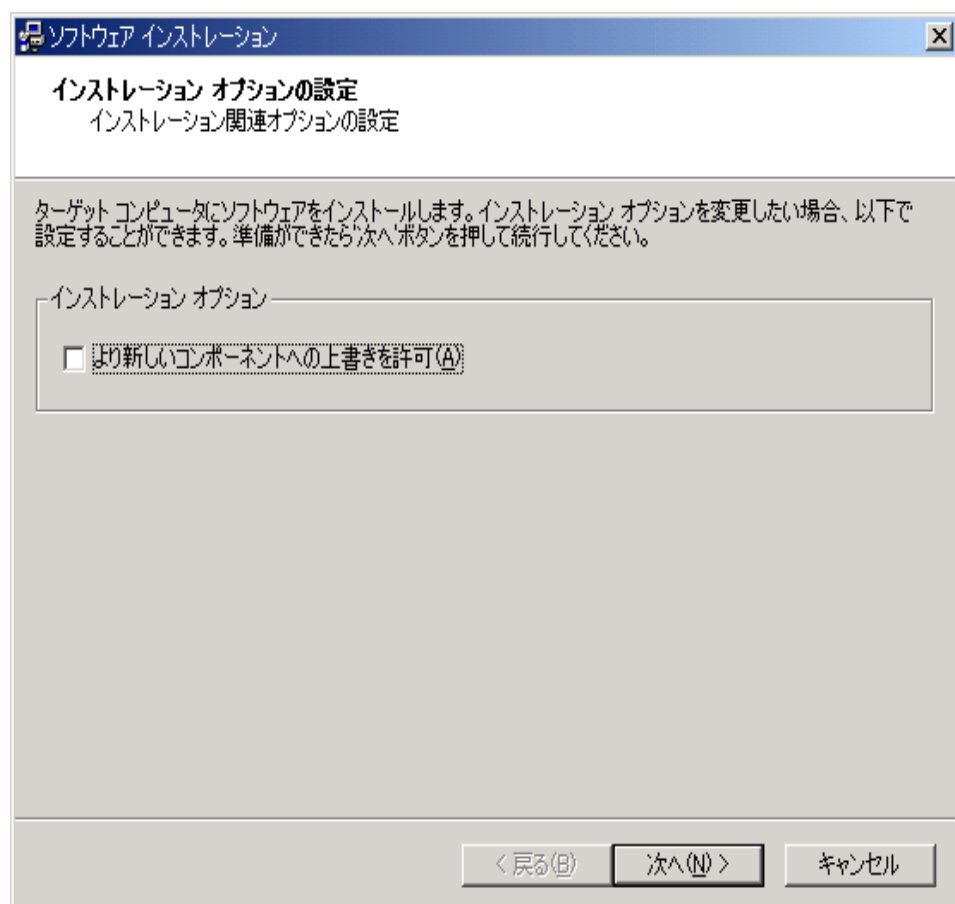
3. コンポーネント設定画面で必要な設定項目を設定して、**[保存]**をクリックします。設定を保存せずにコンポーネント リストに戻るには、**[キャンセル]**をクリックします。
4. 設定を保存すると、再びメイン ウィンドウが表示されます。設定動作が正常に完了しなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

Windowsベース システムでのコンポーネントまたはPSPのインストール

RDUでは、ローカルまたはリモートの非スクリプトインストールだけが可能です。SmartコンポーネントまたはPSPをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. コンポーネントをレポジトリ ビュー ツリーからターゲット コンピュータ リストにドラッグするか、[インストールのために選択されたSupport Pack] ドロップダウン リストからPSPを選択することによって、インストールするコンポーネントを選択します。

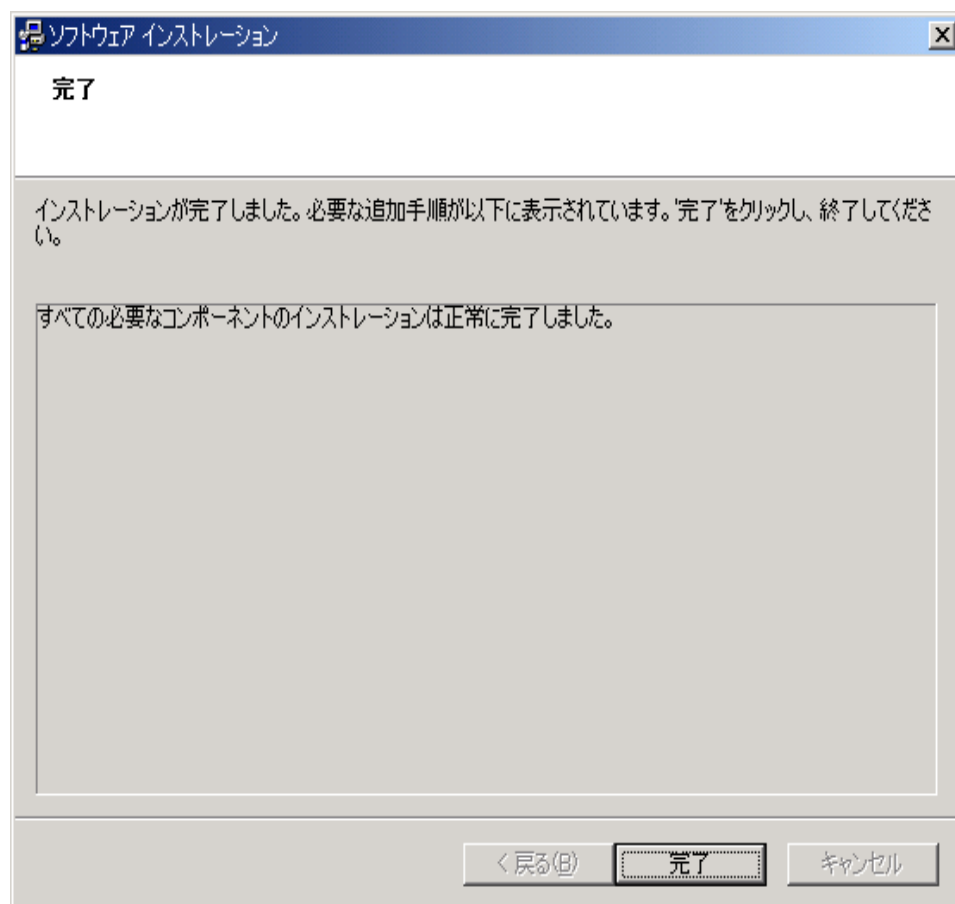
2. [ターゲット マシン]ツールバーの[インストール]をクリックします。次の画面が表示されます。



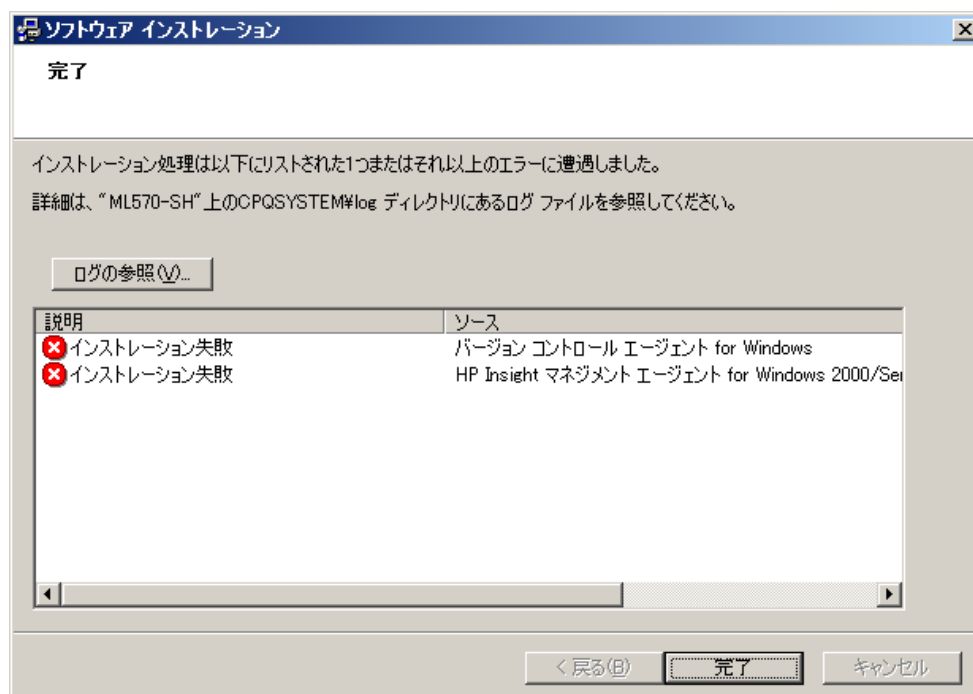
3. 必要に応じて、インストール オプションを変更して、**[次へ]**をクリックします。確認画面が表示されます。
4. **[次へ]**をクリックして、インストールを開始します。インストールの進捗状況を示すウィンドウが表示されます。


Windowsベース システムでのインストールの結果

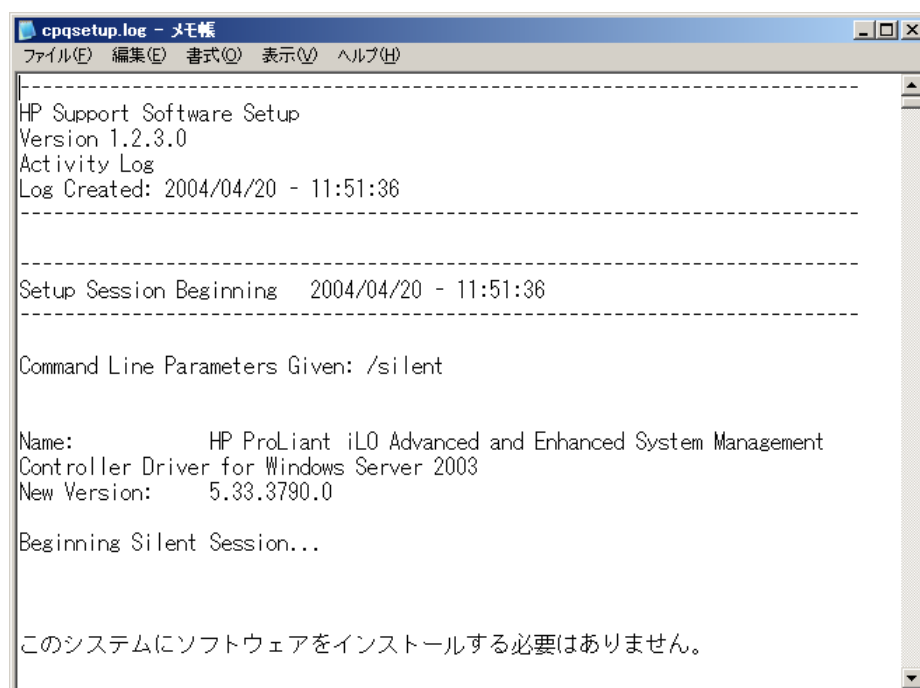
PSPがターゲット サーバにインストールされると、RDUはインストール確認画面を表示します。**【完了】**をクリックして終了します。



1つまたは複数のコンポーネントが正常にインストールされなかった場合は、次のような画面が表示されます。



各コンポーネントは、インストール動作（およびエラー）の記録を各ターゲット サーバの共通インストール ログ ファイル（CPQSETUP.LOG）に書き込みます。インストール ログ ファイルは、常に、ターゲット システムの起動パーティションの\CPQSYSTEM\LOGサブディレクトリにあります。インストール ログ ファイルを表示するには、メニュー バーの[ターゲット]を選択して[インストール ログの表示]を選択するか、[ターゲット マシン]ツールバーの[ターゲット インストール ログを表示]アイコン（)をクリックしてください。インストール動作に関する情報は同じログ ファイルに追加されるため、そのターゲット サーバへのすべてのコンポーネント インストール動作が順番に記録された履歴が作成されます。



Microsoft Windows用リモート展開コンソール ユーティリティ

Microsoft® Windows®用リモート展開コンソール ユーティリティは、RDUのコマンドラインバージョンです。コマンドラインベースのリモート展開コンソール ユーティリティの機能は、グラフィカル アプリケーションのRDUと同じですが、スクリプトによる自動インストールを実行できます。リモート展開コンソール ユーティリティでは、ローカル スクリプト インストールとシングルまたはマルチ リモート スクリプト インストールの両方が可能です。

リモート展開コンソール ユーティリティは、ProLiant Software Maintenance CDの他のSupport PackコンテンツとともにSmartStart CDの\COMPAQ\CSP\NTサブディレクトリにあります。ユーティリティを起動する実行可能ファイルは、SETUPC.EXEです。

コンポーネントには、インストールの前に設定しなければならないものがあります。コンポーネントの事前設定にはMicrosoft® Windows®用RDUを使用してください。詳しくは、「コンポーネントの事前設定」(108ページ)を参照してください。

リモート展開コンソール ユーティリティによるインストールについて詳しくは、「Windowsベース システムでの展開ユーティリティの使用シナリオ」(119ページ)で説明されている使用シナリオ2および3を参照してください。

すべてのインストール動作は、各コンポーネントによって、ターゲットシステムのCPQSETUP.LOGファイルに記録されます。

リモート展開コンソール ユーティリティのコマンドライン構文

リモート展開コンソール ユーティリティの一般的なコマンドラインの構文は、次のとおりです。

```
setupc [/?][/help] [/use-latest] [/t[target]:computer] [/f[orce]]  
[/r[eboot][:timeout]] [/reboot-always[:timeout]] [/use-location:fileshare]  
[/user:username] [/passwd:password] [/override-existing-connection] [component]  
[support pack]...
```

コマンドラインでコマンドライン引数を指定しないと、ヘルプ情報が表示されます。

注：角カッコで囲まれた引数および情報はすべてオプションです。

リモート展開コンソール ユーティリティのコマンドライン引数

コマンドライン引数	説明
/help	コマンドラインのヘルプ情報を表示します。
/?	/help引数と同じ意味です。
/use-latest	SETUPCによって、ターゲット オペレーティング システムに、利用可能な最新バージョンのSupport Packが自動的にインストールされます。コマンドラインで指定された追加のコンポーネントまたはSupport Packはすべて無視されます。 「利用可能な最新バージョン」とは、/use-locationパラメータによって指定されたファイル共有かSETUPC.EXEを含むディレクトリにあり、ターゲット オペレーティング システムで利用可能な最新バージョンのことです。
/t[target]:computer	インストール動作のターゲットとして使用するコンピュータの名前を指定します。

コマンドライン引数	説明
/f[orce]	コンポーネント インストール動作を次のいずれかに変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントがすでにインストールされていて、最新バージョンである場合、コンポーネントをインストールしなおします。インストールされたコンポーネントのバージョン番号は変わりません。 • より新しいバージョンのコンポーネントがすでにインストールされている場合、コンポーネントをインストールしなおします。コンポーネントは古いバージョン番号にダウングレードされます。
/r[eboot][:timeout]	インストールを完了するために再起動する必要がある場合に、ターゲットシステムを再起動させます。タイムアウトは秒単位で指定できます。デフォルトのタイムアウトは15秒です。 タイムアウト値は、15～3600（1時間）の範囲でなければなりません。 再起動は、インストール中にエラーが発生しなかった場合にのみ実行されます。
/reboot-always[:timeout]	インストールを完了するために再起動する必要がある場合でも、インストール後にターゲットシステムを再起動させます。タイムアウトは秒単位で指定できます。デフォルトのタイムアウトは15秒です。 タイムアウト値は、15～3600（1時間）の範囲でなければなりません。
/use-location:fileshare	指定されたディレクトリまたはファイル共有のSupport Packおよびコンポーネントが、SETUPCによって検索されます。このパラメータを指定しない場合は、デフォルトで、SETUPC.EXEを含むディレクトリが使用されます。 現在ログインしているアカウントが、すでにこの位置にアクセスしている必要があります。 ファイル共有へのアクセスを試みる際に、/user:および/passwd:引数は影響しません。これらの引数は、ターゲットコンピュータに接続する際にのみ使用されます。
/user:username	ターゲットコンピュータへの接続に使用するユーザ名を設定します。
/passwd:password	ターゲットコンピュータへの接続に使用するパスワードを設定します。
/override-existing-connection	SETUPC.EXEがターゲットコンピュータに接続し、既存の接続を無効にします（存在する場合）。 このフラグを、デフォルトとして使用することはおすすめしません。このフラグは、一度に1台のクライアントだけがターゲットコンピュータに接続することを保証する重要な安全チェックを無効にします。 このパラメータは、リモート展開コンソール ユーティリティが、ターゲットコンピュータへの接続が存在しないのに接続が存在する、とレポートする場合のリカバリにだけ使用してください。このような状況は、リモート展開ユーティリティの1つが正常にシャットダウンされなかった場合に発生することがあります。
component	インストールするコンポーネントを指定します。
support pack	インストールするSupport Packを指定します。

リモート展開コンソール ユーティリティのコマンドラインの例

この例では小文字を使用していますが、リモート展開コンソール ユーティリティでは大文字と小文字は区別されず、大文字または小文字のいずれかを使用できます。ただし、オペレーティングシステムの環境変数は、大文字と小文字が区別されます。たとえば、%Iと%iは、同じではありません。

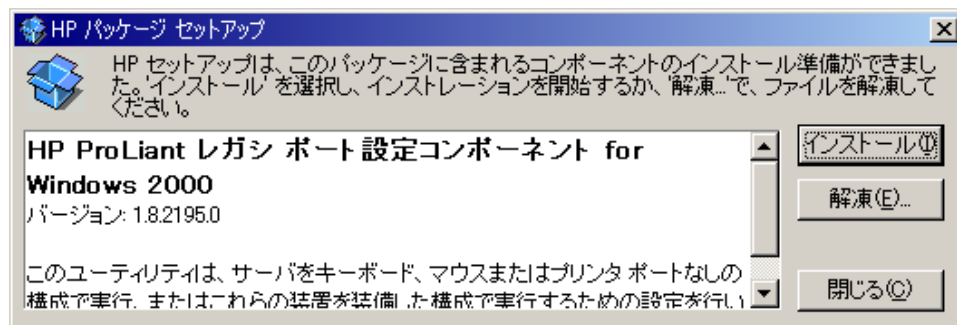
コマンドライン入力	結果
setupc /target:COMPUTER1 /use-latest	カレントディレクトリにあり、COMPUTER1というコンピュータに適した、利用可能な最新バージョンのSupport Packをインストールします。
setupc /target:COMPUTER1 BP000001.XML	カレントディレクトリにあるBP000001.XMLと定義されたSupport PackをCOMPUTER1というコンピュータにインストールします。
setupc /target:COMPUTER2 BP000001.XML CP000150.EXE	カレントディレクトリにあるBP000001.XMLと定義されたSupport Packと、CP000150.EXEという追加コンポーネントをCOMPUTER2というコンピュータにインストールします。
setupc /target:HPSYS1 /use-latest /use-location: \\SWREPOS\SupportSoftware	\\SWREPOS\SupportSoftwareにある利用可能な最新バージョンのSupport PackをHPSYS1というコンピュータにインストールします。
@echo off for %%I in (HPSYS1 HPSYS2 HPSYS3) do setupc /t:%%I BP000002.XML	BP000002.XMLと定義されたSupport PackをHPSYS1、HPSYS2、およびHPSYS3というコンピュータにインストールするWindows® .CMDスクリプトです。

FOR ... IN ... DOオペレーティング システム コマンドの構文について詳しくは、オペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

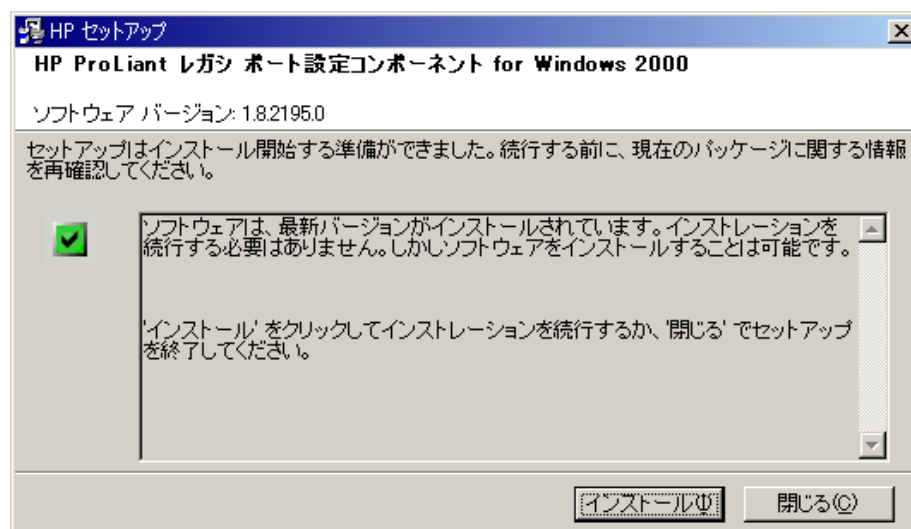
単一コンポーネントのインストール

Support Pack全体ではなく、単一コンポーネントを手動でインストールする場合があります。ローカル システムに単一コンポーネントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. インストールするコンポーネントをダブルクリックします (cpxxxxxx.EXE)。次のような画面が表示されます。



2. **【インストール】**ボタンをクリックします。次のような画面が表示されます。



3. **【インストール】**ボタンをクリックして、画面の指示に従いインストールを完了します。

単一コンポーネントのコマンド ライン構文

単一コンポーネントのインストールで使用する一般的なコマンド ライン構文は、次のとおりです。

```
cpxxxxxx [/h[elp]] [/?]/s[silent]] [/f[orce]] [/r[eboot]]
```

ここで、CPxxxxxxは、Smartコンポーネントのファイル名で、xxxxxxはコンポーネント番号を示します。

注：角カッコで囲まれた引数および情報はすべてオプションです。

コマンド ラインでコマンド ライン引数を指定しないと、コンポーネントのGUIが表示されます。

単一コンポーネントのコマンド ライン引数

コマンド ライン引数	説明
/h[elp]	コマンド ラインのヘルプ情報を表示します。
/?	/help引数と同じ意味です。
/s[silent]	GUIの表示、非表示を指定します。Smartコンポーネントのスクリプトを作成するため、GUIを表示しない場合は、この引数を使用してください。コマンド ラインでこの引数を指定しない場合は、GUIが表示されます。

コマンド ライン引数	説明
/f[orce]	<p>/silentコマンドと合わせて使用すると、コンポーネントは次のいずれかの方法でインストールされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンポーネントがすでにインストールされていて、最新バージョンである場合、コンポーネントをインストールしなおします。インストールされたコンポーネントのバージョン番号は変わりません。 より新しいバージョンのコンポーネントがすでにインストールされている場合、コンポーネントをインストールしなおします。最初にインストールされたコンポーネントは古いバージョン番号にダウングレードされます。ただし、一部のコンポーネントでは、ダウングレードがサポートされていないため、現在のバージョンをアンインストールしてから古いバージョンをインストールしなければならない場合があります。 <p>コマンド ラインでこの引数を指定しない場合は、強制的なインストールは行われません。</p>
/r[eboot]	<p>/silentコマンドと合わせて使用すると、インストールを完了するために再起動する必要がある場合に、ターゲット システムを再起動させます。コマンド ラインでこの引数を指定しない場合、インストールを有効にするには、サーバを手動で再起動する必要があります。</p> <p>再起動は、インストール中にエラーが発生しなかった場合にのみ実行されます。</p>

単一コンポーネントのコマンド ラインの例

この例では小文字が使用されていますが、大文字も小文字も使用できます。

コマンド ライン入力	結果
cp002575	CP002575.EXEコンポーネントのインストールが開始されます。
cp002575 /s	CP002575.EXEコンポーネントが、コンポーネントのデフォルト値を使用して、ターゲット サーバにインストールされます。GUIは、表示されません。
cp002575 /s /f /r	CP002575.EXEコンポーネントがインストールされます。既存のバージョンがあった場合はこのコンポーネントによって強制的に上書きされます。また、必要に応じて、サーバが自動的に再起動します。GUIは、表示されません。

単一コンポーネントのリターン コード

各Smartコンポーネントは、その実行が完了したら、オペレーティング システムまたは呼び出し元アプリケーションにリターン コードを返します。

リターン コードは、コンポーネントのインストール状態を確認するために使用されます。また、リターン コードをスクリプトの中で使用して、スクリプトの実行を制御したり、必要な分岐方向を決定したりすることができます。

エラー レベル	意味
0	Smartコンポーネントのインストールが失敗しました。詳細については、ログ ファイルを参照してください。
1	Smartコンポーネントは正常にインストールされました。
2	Smartコンポーネントは正常にインストールされましたが、システムを再起動する必要があります。
3	必要なハードウェアがなかったかまたはソフトウェアが最新のものでなかったため、インストールは行われませんでした。

Windowsベース システムでの展開ユーティリティの使用シナリオ

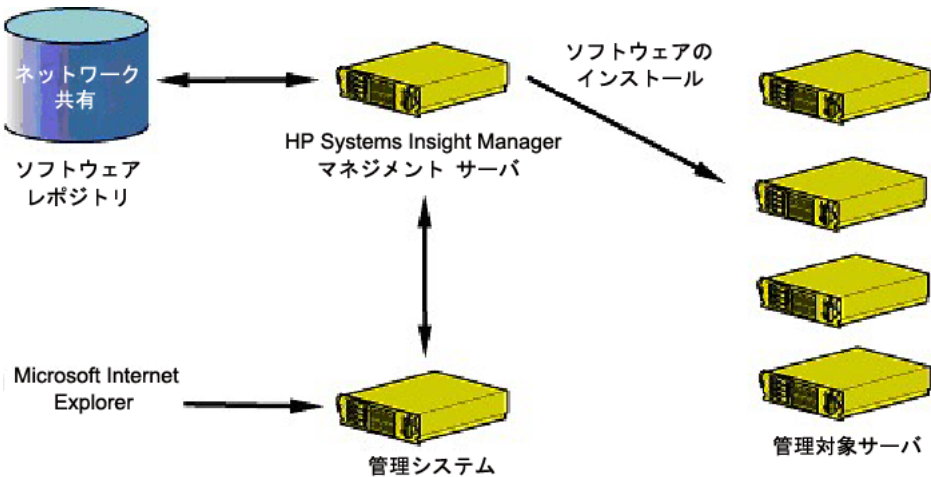
この項では、一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリに格納されたPSPおよびコンポーネントのインストール シナリオについて説明します。

このガイドで説明するPSPのインストール例はすべて、一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリが存在することを前提としています。このインストールに関する原則は、管理システム、ターゲット システム、SmartStart CD、またはSoftware Maintenance CDにローカル保存されているPSPソフトウェアにも適用されます。



ヒント : PSP展開ユーティリティの使用を容易にするには、ユーティリティのファイルを管理システムのハードディスク ドライブにコピーします。ファイルは、それぞれ専用サブディレクトリに配置してください。

次の図に、Windowsベース システムでのPSPとコンポーネントの全体的なインストール方式を示します。



シナリオ	インストールのタイプ	使用する展開ユーティリティ
1	<ul style="list-style-type: none">ユーザは、オペレーティング システムのコマンドライン ツールの使用に慣れていないか、コマンドラインからインストールする必要があります。ユーザは、1台のローカルまたはリモート ターゲット システムにインストールする必要があります。ユーザは、スクリプト機能を使用する必要がありません。	RDU (SETUP.EXE)
2	<ul style="list-style-type: none">ユーザは、オペレーティング システムのコマンドライン ツールの使用に慣れています。ユーザは、1台のローカルまたはリモート ターゲット システムにインストールする必要があります。ユーザは、スクリプト機能を使用する必要があります。	リモート展開コンソール ユーティリティ (SETUPC.EXE)
3	<ul style="list-style-type: none">ユーザは、オペレーティング システムのコマンドライン ツールの使用に慣れています。ユーザは、数台のリモート ターゲット システムにインストールする必要があります。ユーザは、スクリプト機能を使用する必要があります。	リモート展開コンソール ユーティリティ (SETUPC.EXE)

シナリオ	インストールのタイプ	使用する展開ユーティリティ
4	<ul style="list-style-type: none"> ユーザは、オペレーティング システム ツールおよびコマンドライン スクリプトの使用に習熟しています。 ユーザは、HP Systems Insight Managerに関する十分な知識を持っています。 ユーザは、HP Systems Insight Managerによって管理されている多数のリモート ターゲットにインストールする必要があります。 	リモート展開コンソール ユーティリティとHP Systems Insight Manager



重要： HP Systems Insight ManagerをPSP展開ユーティリティとともに使用する場合、アプリケーション起動タスクによるリモート ターゲット システムへのインストールは、100台以下にすることをおすすめします。

HP Systems Insight ManagerをVCRMおよびVCAとともに使用方法については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp/hpsim>から入手できるHP Systems Insight Managerのヘルプガイドを参照してください。

シナリオ1：RDUによる1台のターゲット システムへのグラフィカルインストール



重要： 設定が必要なコンポーネントはすべて、必ず、インストールの前に設定してください。

RDUとリモート展開コンソール ユーティリティのどちらを使用しても、PSPと各コンポーネントをローカルまたはリモート ターゲット システムにインストールし、メンテナンスすることができます。ただし、1台のターゲット システムにインストールする場合は、グラフィカル アプリケーションのRDUを使用の方が簡単です。

次の図に、RDUによる1台のターゲット システムへのインストールの基本的なプロセスを示します。



Windows用PSPインストール シナリオ1が適用される場合

この項で説明するPSPインストール シナリオが適用されるのは、以下のような場合です。

- オペレーティング システムのコマンド ライン ツールの使用に慣れていないか、コマンド ラインからインストールする必要がない。
- PSPまたは各コンポーネントを1台のローカルまたはリモート ターゲット システムにインストールする。
- スクリプトを使用する必要がない。

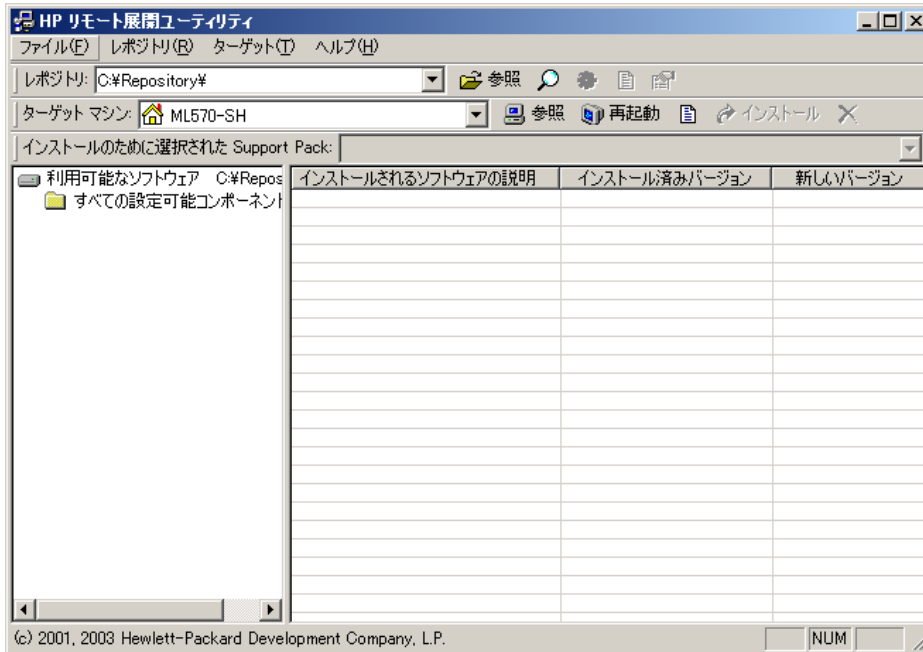
Windows用PSPインストール シナリオ1によるPSPのインストール

一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリに格納されているPSPをグラフィカル アプリケーションのRDUによってインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 「Microsoft Windowsバージョン7.80以前の最小要件」（103ページ）に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
- 管理システムから一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリにアクセスできることを確認します。

3. 管理システムでRDUを起動します。ユーティリティはホスト システムのどこに存在してもかまいませんが、専用のサブディレクトリに保存することをおすすめします。

PSPまたはコンポーネントがRDUと同じディレクトリにない場合、または適切なSupport Packがない場合にユーティリティを開くと、次の図のような、情報の示されていない画面が表示されます。



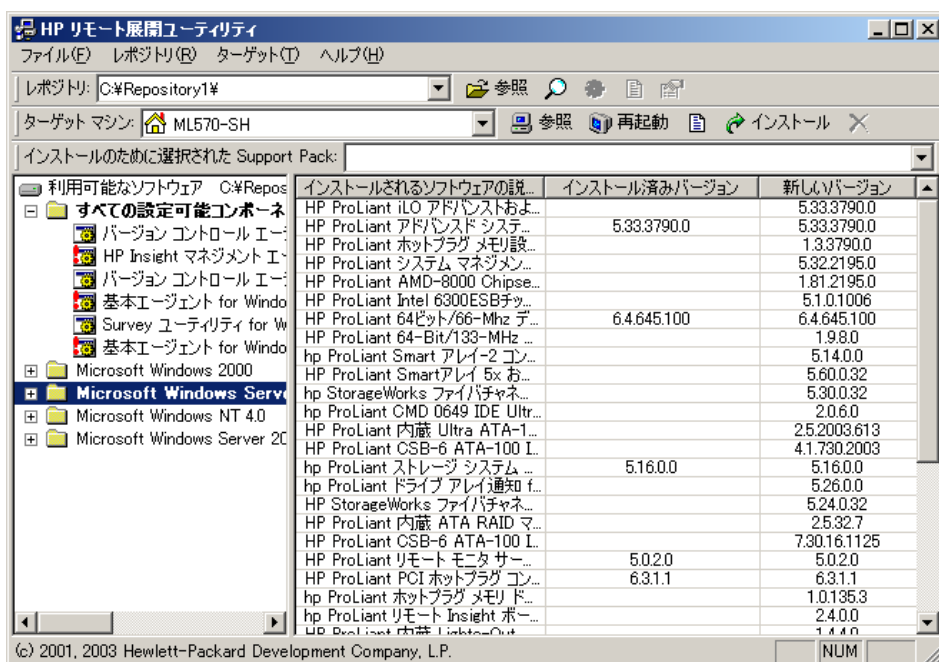
4. [レポジトリ]ツールバーの[参照]をクリックして、一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリの位置に移動します。
5. コンポーネントを右クリックしてレポジトリ ビュー ツリーの[設定]を選択し、コンポーネントを設定します。各コンポーネントの横のアイコンは、設定が必要かどうかを示します。アイコンの意味については、「レポジトリ ビュー ツリー」(106ページ)を参照してください。
6. インストールするコンポーネントを選択します。
- 適切なSupport Packのすべてのコンポーネントをインストールするには、[インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバーからSupport Packを選択します。次の図に示すように、Support Packのすべてのコンポーネントがターゲット コンピュータ リストに表示されます。



重要： PSPを構成するすべてのコンポーネントは、Support Packファイルと同じディレクトリに配置される必要があります。

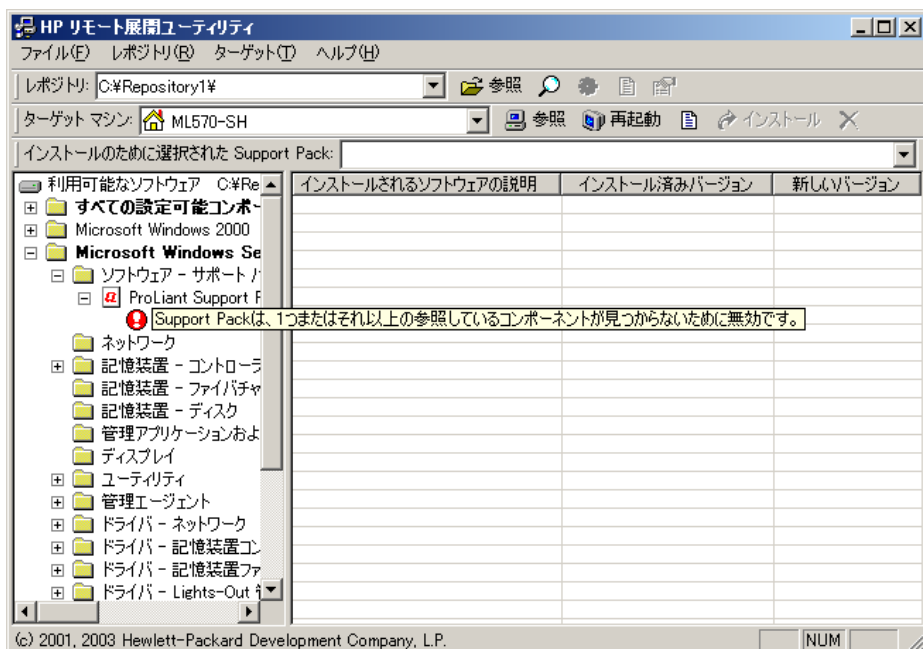
- 各コンポーネントまたはカテゴリを選択するには、選択したファイルまたはフォルダをレポジトリ ビュー ツリーからドラッグして、ターゲット コンピュータ リストにドロップします。レポジトリ ビュー ツリーのファイルまたはフォルダを選択し、Insertキーを押して、ファイルまたはフォルダをターゲット コンピュータ リストに移動させることもできます。

- インストールしたくないコンポーネントを削除するには、ターゲット コンピュータ リストでそのコンポーネントを選択して、**Delete**キーを押すか、または[ターゲット マシン]ツールバーの[インストレーションで選択したアイテムの削除]ボタン (X) をクリックします。



次の図のように、レポジトリ ビュー ツリーのSupport Packの下にエラー メッセージが表示される場合は、Support Packで参照されているコンポーネントがソフトウェア レポジトリにありません。

この問題を解決するには、足りないコンポーネントをHPのWebサイト、SmartStart CD、またはSoftware Maintenance CDから入手して、ソフトウェア レポジトリにコピーしてください。



7. ターゲット マシンを選択します。RDUは、デフォルトでは、ユーティリティを起動するシステムをターゲット システムとして選択します。

ターゲット システムがローカル管理システムの場合は、[ターゲット マシン]フィールドを変更する必要はありません。ただし、ターゲット システムが、ネットワーク経由でアクセス可能なリモートシステムの場合は、ネットワーク ターゲット システムの名前を[ターゲット マシン]フィールドに入力するか参照リストから選択

し、**Enter**キーを押してターゲットに接続してください。**[ターゲット]**をクリックして**[コンピュータの参照]**ウィンドウを使用することによって、ネットワーク接続経由でアクセス可能なシステムに移動することもできます。**[OK]**をクリックしてターゲットを選択し、RDUのメイン ウィンドウに戻ってください。

注：ターゲットシステム名の入力を簡単にするために、RDUは、ソフトウェアを開発したサーバの履歴を保持しています。この履歴には、**[ターゲット マシン]**リストからアクセスしてください。

ターゲット マシンのユーザ名とパスワードが、RDUを実行しているマシンのものと異なる場合は、ターゲット マシンのユーザ名とパスワードの入力を求められます。

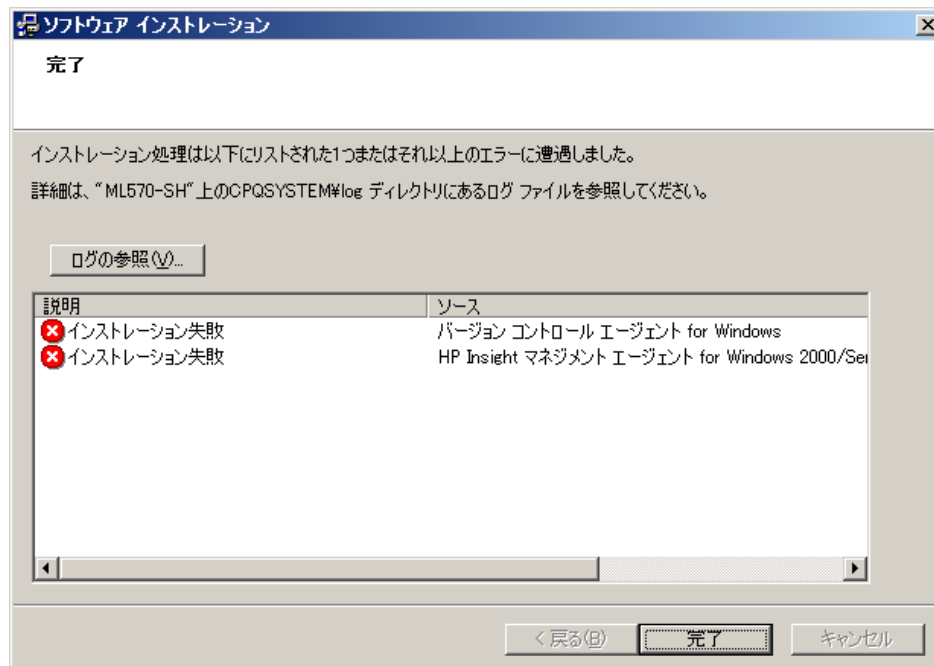
8. RDUでターゲット システムが特定されたら、**[インストール]**をクリックしてターゲット コンピュータ リストに表示されるすべてのコンポーネントをインストールします。進捗状況ウィンドウにインストールの進捗状況が表示されます。
9. **[キャンセル]**をクリックして、インストールをいつでも中止することができます。RDUが最後に起動したタスクを完了するために、インストールの中止が多少遅れることがあります。



重要：**[キャンセル]**をクリックすると、クリックした時点でPSPのインストールが停止します。このため、ターゲット サーバは、PSPが部分的にインストールされた状態になることがあります。

10. インストールの結果を確認します。インストール プロセスが完了し、PSPがターゲット サーバにインストールされると、インストール確認画面が表示されます。

1つまたは複数のコンポーネントが正常にインストールされなかった場合は、次のような画面が表示されます。



各コンポーネントは、インストール動作（およびエラー）を各ターゲット サーバの共通インストール ログ ファイル（CPQSETUP.LOG）に書き込みます。インストール ログ ファイルを表示するには、メニュー バーの**[ターゲット]**を選択して**[インストール ログの表示]**を選択するか、**[ターゲット]**ツールバーの**[ターゲット インストール ログを表示]**をクリックしてください。

11. 必要であれば、**[再起動]**をクリックして確認メッセージに応じ、ターゲット サーバを再起動してインストールを完了します。以上でインストールは完了です。

注：ターゲットシステムがローカル管理システムの場合、[再起動]をクリックするとシステムが再起動するので、他のターゲットシステムにコンポーネントまたはPSPをインストールするには、RDUをもう一度起動する必要があります。

12. 他のターゲット サーバにコンポーネントまたはPSPをインストールするには、[インストール結果]ウィンドウを閉じてください。

シナリオ2：リモート展開コンソールユーティリティによる1台のターゲットシステムへのコマンドラインインストール



重要：設定が必要なコンポーネントはすべて、必ず、インストールの前に設定してください。

注：リモート展開コンソールユーティリティでは、SmartStart Scripting Toolkitを使用することによってスクリプトを使用できます。スクリプトによるサーバのインストールについては、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp/manual>から入手できるSmartStart Scripting Toolkitの資料を参照してください。

次の図に、リモート展開コンソールユーティリティによる1台のターゲットシステムへのインストールの基本的なプロセスを示します。



Windows用PSPインストール シナリオ2が適用される場合

この項で説明するPSPインストール シナリオが適用されるのは、以下のような場合です。

- オペレーティング システムのコマンドライン ツールの使用に慣れている。
- PSPまたは各コンポーネントを1台のローカルまたはリモート ターゲット システムにインストールする必要がある。
- スクリプトを使用する必要がある。

Windows用PSPインストール シナリオ2によるPSPのインストール

一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリに格納されているPSPをコマンドライン プロンプトによって1台のターゲットシステムにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「Microsoft Windowsバージョン7.80以前の最小要件」 (103ページ) に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
2. 管理システムからソフトウェア レポジトリにアクセスできることを確認します。
3. PSPファイルがあるネットワークベース ソフトウェア レポジトリにドライブ文字を割り当てます。
4. RDU (SETUP.EXE) によってコンポーネントの事前設定を行います。詳しくは、「コンポーネントの事前設定」 (108ページ) を参照してください。
5. 管理システムでコマンドライン プロンプトを起動して、リモート展開コンソールユーティリティがあるサブディレクトリに移動します。

6. リモート展開コンソールユーティリティを起動します。詳しくは、「Microsoft Windows用リモート展開コンソール ユーティリティ」 (114ページ) を参照してください。

注： コマンド ラインからSETUPC.EXEファイルを実行することにより、リモート展開コンソール ユーティリティのコマンド ライン ヘルプにアクセスできます。画面には、ユーティリティで使用するすべてのパラメータが表示されます。

7. Enterキーを押して、指定したPSPファイルをターゲット システムにインストールします。

ユーティリティがPSPまたは各コンポーネントをターゲット システムにインストールすると、各コンポーネントは、インストール情報をターゲット システムのファイル (CPQSETUP.LOG) に書き込みます。

ネットワーク経由でターゲット システムにアクセスできることと、PSPを構成するすべてのファイルが同じディレクトリにあることを確認してください。ネットワーク経由でターゲット システムにアクセスできない場合、以下のエラー メッセージのいずれかが表示されることがあります。

- ターゲット コンピュータに接続できません。すべての利用可能な接続を試みましたが成功しませんでした。ターゲット コンピュータのオペレーティング システムが停止している可能性があります。
- ターゲット コンピュータへのアクセスが拒否されました。認証情報または権限が間違っていると思われます。
- ターゲット コンピュータが見つかりません。コンピュータ名および、ネットワーク接続を確認し、再度実行してください。

インストール中にエラーが発生すると、コマンド ライン ウィンドウにエラー メッセージが、コンポーネントおよび発生したエラーのリストとともに表示されることがあります。



重要： ローカル サーバへのコマンドラインインストールは、**Ctrl+C**キーを押すことによって、いつでも中止することができます。

インストール プロセスが終了すると、コマンド ライン プロンプトに制御が戻るので、インストールが必要な次のターゲット サーバでリモート展開コンソール ユーティリティを実行できます。



ヒント： Windows®のエクスプローラを使用してネットワーク経由でリモート ターゲットシステムにアクセスし、CPQSETUP.LOGファイルを開くことによって、リモート ターゲット システムの一元化インストール ログ ファイルを表示できます。また、管理システムのコマンド プロンプト ウィンドウでも、TYPEまたはMOREコマンドにリモートインストール ログ ファイルのネットワーク パスとファイル名を指定することによって、このファイルを表示することができます。

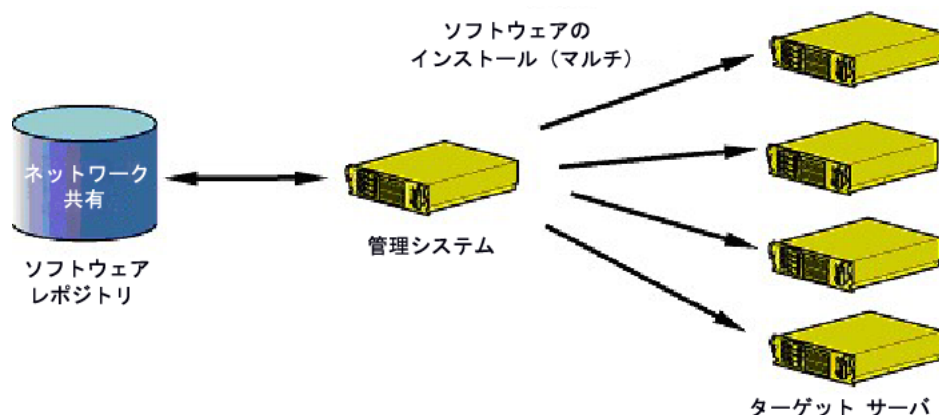
シナリオ3: リモート展開コンソールユーティリティによる複数のターゲット システムへのコマンド ライン インストール



重要： 設定が必要なコンポーネントはすべて、必ず、インストールの前に設定してください。

注： リモート展開コンソール ユーティリティでは、SmartStart Scripting Toolkitを使用することによってスクリプトを使用できます。スクリプトによるサーバのインストールについては、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp/manual>から入手できるSmartStart Scripting Toolkitの資料を参照してください。

次の図に、リモート展開コンソール ユーティリティによる複数のターゲットシステムへのインストールの基本的なプロセスを示します。



Windows用PSPインストール シナリオ3が適用される場合

この項で説明するPSPインストール シナリオが適用されるのは、以下のような場合です。

- オペレーティング システムのコマンドライン ツールの使用に慣れている。
- PSPまたは各コンポーネントを複数のリモート ターゲット システムにインストールする必要がある。
- スクリプトを使用する必要がある。

Windows用PSPインストール シナリオ3によるPSPのインストール

リモート展開コンソール ユーティリティを使用して複数のターゲット システムにソフトウェアをインストールする場合は、「シナリオ2: リモート展開コンソール ユーティリティによる1台のターゲット システムへのコマンドラインインストール」(124ページ)で説明されている基本的な手順に従ってください。



重要: 非常に多くのターゲット サーバにインストールする必要がある場合は、「シナリオ4: HP Systems Insight Managerによって管理されている複数のターゲット システムへのコマンドラインインストール」(127ページ)を参照してください。ターゲット サーバが数台の場合にのみ、コマンドラインからリモート展開コンソール ユーティリティを使用して複数のターゲット サーバにインストールすることをおすすめします。

一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリに格納されているPSPをコマンドライン プロンプトによって複数のターゲット サーバにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「シナリオ2: リモート展開コンソール ユーティリティによる1台のターゲット システムへのコマンドラインインストール」(124ページ)の手順1～5に従います。
2. 各ターゲット システムを指定するためのコマンドライン パラメータを使用して、リモート展開コンソール ユーティリティを起動します。詳しくは、「Microsoft Windows用リモート展開コンソール ユーティリティ」(114ページ)を参照してください。



重要: ターゲット システムは、ネットワーク経由でアクセスする必要があります。また、リモート展開コンソール ユーティリティを実行しているアカウントは、ターゲット システムに管理者権限でアクセスする必要があります。

注: コマンドラインからSETUPC.EXEファイルを実行することにより、リモート展開コンソール ユーティリティのコマンドライン ヘルプにアクセスできます。画面には、ユーティリティで利用できるすべてのパラメータが表示されます。

3. インストールを完了します。残りのインストール プロセスと表示される可能性のあるエラー メッセージについては、「シナリオ2：リモート展開コンソールユーティリティによる1台のターゲットシステムへのコマンドラインインストール」（124ページ）の手順7を参照してください。



ヒント：実行される各コンポーネントはインストール情報をターゲット システムのインストール ログ ファイル（CPQSETUP.LOG）に書き込みますが、画面の出力をテキスト ファイルにして、ローカルから管理システムに転送することができます。この機能によって、1箇所にまとめた複数のターゲット サーバのインストール情報に管理システムから簡単にローカル アクセスできます。画面出力の転送について詳しくは、オペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

シナリオ4：HP Systems Insight Managerによって管理されている複数のターゲット システムへのコマンドラインインストール



重要：設定が必要なコンポーネントはすべて、必ず、インストールの前に設定してください。

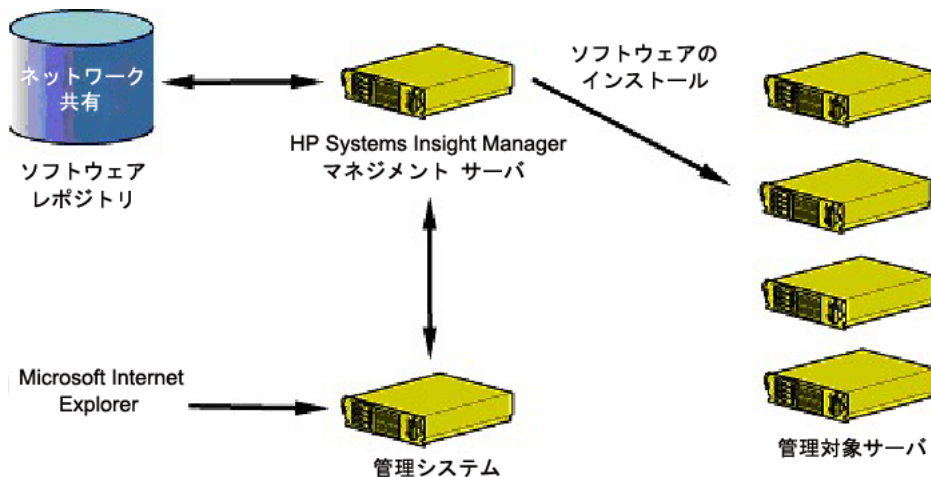
HP Systems Insight Managerによって管理されている複数のターゲット システムへのPSPの初期インストールには、リモート展開コンソール ユーティリティを使用します。前の使用シナリオで説明したように、すべてのインストールは、ActiveUpdateによって事前にメンテナンスされた一元化ネットワークベース ソフトウェア レポジトリから行うことをおすすめします。



重要：HP Systems Insight ManagerをPSP展開ユーティリティとともに使用する場合、アプリケーション 起動タスクによるリモート ターゲット システムへのインストールは、100台以下にすることをおすすめします。

PSPの初期インストールが完了したら、HP Systems Insight Managerのソフトウェア インストール サポートを使用することをおすすめします。

次の図に、HP Systems Insight Managerとリモート展開コンソール ユーティリティによる複数のターゲット システムへのインストールの基本的なプロセスを示します。



Windows用PSPインストール シナリオ4が適用される場合

この項で説明するPSPインストール シナリオが適用されるのは、以下のような場合です。

- オペレーティング システム ツールおよびコマンドライン スクリプトに関する十分な知識を持っている。
- HP Systems Insight Managerに関する十分な知識を持っている。

- PSPまたは各コンポーネントをHP Systems Insight Managerによって管理されている多数のリモート ターゲット システムにインストールする。

Windows用PSPインストール シナリオ4によるPSPのインストール

HP Systems Insight ManagerをVCRMおよびVCAとともに使用方法については、次の資料を参照してください。

- HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim>から入手できるHP Systems Insight Managerのヘルプ ガイド
- HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/manual>から入手できる『バージョン コントロール ユーザ ガイド』

HP Systems Insight Managerの使用方法について詳しくは、『HP Systems Insight Managerインストール/ユーザ ガイド』を参照してください（このガイドは、HPのSystems Insight ManagerのWebサイト<http://www.hp.com/jp/hpsim>からHP Systems Insight Managerをダウンロードした場合にも付属しています）。

または、HP Systems Insight Managerで[ヘルプ]をクリックしてください。

頭字語と略語

AMD

Advanced Micro Devices

DNS

domain name system

GRUB

Grand Unified Bootloader

GTK+

GIMP Toolkit

GUI

graphical user interface。グラフィカル ユーザ インタフェース

HPSUM

HP Smart Update Manager

HTTP

hypertext transfer protocol

iLO

Integrated Lights-Out

IP

Internet Protocol

LDU

Linux Deployment Utility。Linux展開ユーティリティ

LILO

Linux Loader

LSP

Linux Support Pack

NIC

network interface controller。ネットワーク インタフェース コントローラ

NLM

NetWare Loadable Module

NUT

Novell User Technologies

OS

operating system。オペレーティング システム

PCI

peripheral component interface

PSP

ProLiant Support Pack

RDU

Remote Deployment Utility。リモート展開ユーティリティ

RILOE

Remote Insight Lights-Out Edition。リモートInsightボードLights-Out Edition

RILOE II

Remote Insight Lights-Out Edition II。リモートInsightボードLights-Out Edition II

RPM

Red Hat Package Manager

SLES

SUSE Linux Enterprise Server

SNMP

Simple Network Management Protocol

SOAP

Simple Object Access Protocol

SSH

Secure Shell

SSL

Secure Sockets Layer

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol

VCA

Version Control Agent。バージョン コントロール エージェント

VCRM

Version Control Repository Manager。バージョン コントロール レポジトリ マネージャ

WMI

Windows Management Instrumentation

XML

extensible markup language

索引

C

CPQDPLOY.NLM、グラフィカル インストール 49
CPQDPLOY.NLM、コマンドライン インストール 49
CPQDPLOY.NLMによるキー入力 49
CPQLOG.LOG 44
CPQSETUP.LOG 112

G

gtkベースのGUIによるグラフィカル インストール 61
GUIの使用 29
GUI、複数ホストへのインストールのための使用 29
GUIを使用した複数ホストへのインストール 29

H

HP Systems Insight Managerによるインストール 127
hppldu.log 53
HP Smart Update Managerの概要 12
HP Smart Update ManagerのGUI 17
hpsum_detail_log.txtログ 27
hpsum_log.txtログ 27
HPのWebサイト 8

I

IPv6、トラブルシューティング 98、99
IPv6ネットワークの構成 84

L

Linux IPv6環境 89
Linux PSP展開ユーティリティ 51、53
Linux Smartコンポーネント、リターン コード 75
Linuxインストール シナリオ 55
Linux、高度なインストール方法について 75
Linux、最小要件 51
Linux展開ユーティリティ (LDU) 51、53

M

Microsoft Windowsバージョン7.90以降の最小要件 11
Microsoft Windows バージョン 7.80 以前の最小要件 103

N

NetWare PSP Deployment Utility 43、44
NetWare、Deployment Utility 44

NetWareインストール シナリオ 45
NetWare、コマンドライン構文 46、47
NetWare、コマンドラインの例 48
NetWare、コマンドライン パラメータ 46
NetWare、最小要件 43
NetWare、リターン コード 49
Novell NetWare用HP ProLiant Deployment Utility 53

P

PSP、概要 6
PSP、更新 8
PSP、入手 8
PSPのWebサイト 8
PSPのインストールのシナリオ 119
PSPの更新 8
PSPの入手 8

R

RDU、[インストールのために選択されたSupport Pack]
ツールバー 106
RDU、ターゲット コンピュータ リスト 106
RDU、[ターゲット マシン]ツールバー 105
RDUによるインストール 120
RDU、メイン ウィンドウ 104
RDU、メニュー バー 105
RDU (リモート展開ユーティリティ) 103
RDU、[レポジトリ]ツールバー 105
RDU、レポジトリ ビュー ツリー 106

S

SETUP.EXE 103
SETUPC.EXE 114
SmartStart CD 8
SmartStartダウンロード ページ 8
Subscriber's Choice 8
System Management Homepage 108

T

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 131
TPM (Trusted Platform Module) 13、36
Trusted Platform Module (TPM) 13、36

V

VCA (バージョンコントロール エージェント) 9、108

VCRM (バージョン コントロール レポジトリ
マネージャ) 9

W

Windows Management Instrumentation (WMI) 11
Windows 7.80以前 102
Windows 7.80以前インストール シナリオ 119
Windows 7.90以降 11
Windows PSP展開ユーティリティ 103、114
Windows Server 2003 IPv6環境 84
Windows Server 2008 IPv6環境 87
Windows Smartコンポーネント、リターン コード 74
Windows、高度なインストール方法について 67
WMI (Windows Management Instrumentation) 11

あ

アイコン 61、105、106
アレイ コントローラ 20

い

インストール オプション 20、26
インストール結果 27、112
インストール シナリオ、Linux 55
インストール シナリオ、NetWare 45
インストール シナリオ、Windows 119
インストール シナリオ、概要 6、55、119
インストール ステータス 27、41
インストールするコンポーネントの選択 17、20、39
インストールするコンポーネントの選択、初回 17
インストールに関するトラブルシューティング、Linux用
PSP 96
インストールに関するトラブルシューティング、
NetWare用PSP 95
インストールに関するトラブルシューティング、
Windows用PSP 92
[インストールのために選択されたSupport Pack]ツールバ
ー、RDU 106
インストール、複数のホストに対するコンポーネントの選
択 39
インストール ログ 27、44、53、112
インストレーション ホスト 14、15
インストレーション ホストの選択 18
インストレーション ホストの選択、初回 15
[インベントリ作成中]画面 29

え

エラー メッセージ 53

お

オプション、インストール 20、26
オプション、再起動 22
オペレーティング システム 101

か

概要、Windows用PSP 11

き

キーボード サポート 12
機能 7

く

グラフィカル インストール、各コンポーネント 50
グラフィカル インストール モード、コンポーネントの
設定 76
グラフィカル モード 53
グループ 29、33
グループの管理 33
グループの追加 33
グループの編集 33

こ

高度な方法について 67
構文 68
コマンドライン インストール、Windows 68
コマンドライン インストール、各コンポーネント 50
コマンドライン インタフェース、使用 68
コマンドライン構文、Linux用PSP 55
コマンド ライン構文、NetWare用ProLiant Deployment
Utility 46、47
コマンドライン構文、WindowsのPSP 68
コマンドライン構文、コンポーネント 117
コマンドライン構文、リモート展開コンソール ユーティ
リティ 114
コマンド ラインの例、NetWare用ProLiant Deployment
Utility 48
コマンドラインの例、WindowsのPSP 73
コマンドラインの例、コンポーネント 118
コマンドラインの例、リモート展開コンソール
ユーティリティ 115
コマンド ライン パラメータ、NetWare用ProLiant
Deployment Utility 46
コマンドライン引数、WindowsのPSP 69
コマンドライン引数、コンポーネント 117
コマンドライン引数、リモート展開コンソール
ユーティリティ 114
コマンドライン モード 44
コンポーネント、インストール 17、20、29、39
コンポーネント、初回のインストール 17
コンポーネント ステータス 20、39
コンポーネント、設定 108
コンポーネント選択ウィンドウ 23
コンポーネントのインストール 110
コンポーネントの設定、Linux 75
コンポーネントの設定、Windows 67、72
コンポーネントのプロパティの表示 107
コンポーネントのリビジョン履歴の表示 107

コンポーネント、複数のホストにインストール
する選択 39

さ

サーバ仮想化検出およびサポート 84
サーバ ホスト ウィンドウ 39
再起動オプション 22
再起動設定 20
最小要件、Linux 51
最小要件、NetWare 43
サイレント インストール 58
サポート 101
参照 101

し

システム ステータス 20
システム ステータス フィールド 22、39
実行、初回 14
[失敗した依存関係]画面 23
シナリオ、Linux 55
シナリオ、NetWare 45
シナリオ、Windows 7.80以前 119
初回実行 14
資料 101
シングル ステップ インストール 59

す

スクリプト化されたインストール、Linux 78
ステータス、インストール 27、41
ステータス、コンポーネント 20、39
ステータス、システム 39

せ

制限、Linux IPv6環境 91
制限、Windows Server IPv6環境 89

そ

ソフトウェアとファームウェアのインストール、
同時 83
ソフトウェア レポジトリ 9
ソフトウェア レポジトリの作成 9

た

ターゲット コンピュータ リスト、RDU 106
[ターゲット マシン]ツールバー、RDU 105
ターミナル ウィンドウ インストール、コンポーネントの
設定 77
ターミナル ウィンドウからのコンポーネント データ、
表示 60
ターミナル ウィンドウからのコンポーネント データの
表示 60

ターミナル ウィンドウによるコマンドライン
インストール 58

ターミナル ウィンドウ モード 53
単一コンポーネント インストール 50、116
単一のコンポーネントのインストール 116
単一ホストに対する選択 39、41

つ

追加情報 101

て

テクニカル サポート 101
展開ユーティリティ 44、53、103、114

と

トラブルシューティング 92

に

認証情報 29、36
認証情報の入力 36

は

バージョン コントロール エージェント (VCA) 108
バージョン コントロール レポジトリ マネージャ
(VCRM) 9
はじめに 6
バンドル フィルタ オプション 16、19、38
[バンドル フィルタの選択]画面 16、19、38

ひ

非グラフィカル ユーザ インタフェースの
インストール 58

ふ

ファームウェアとソフトウェアのインストール、
同時 83
ファームウェアとソフトウェアの同時
インストール 83
フィルタリングするバンドルの選択、初回 16
複数ホスト 29、39
複数ホストへのインストール 29
プロパティ 107

ほ

ホスト 29、30、36
ホストの管理 30
ホストの削除 30
ホストの追加 30
ホストの編集 30
ホスト フィールド 20、39

ま

マネジメント エージェント 108

め

メイン ウィンドウ、RDU 104

メニュー バー、RDU 105

ゆ

ユーザ インタフェース モード 44

ユーティリティ、展開 44、53、103、114

り

リターン コード 49、57、74、118

リターン コード、Linux Smartコンポーネント 75

利点 7

リビジョン履歴 106

リモート展開コンソール ユーティリティ 114

リモート展開コンソール ユーティリティによる
インストール 124、125

リモート展開ユーティリティ (RDU) 103

リモート ホスト 29

れ

例 73、115、118

レポジトリ 8

[レポジトリ]ツールバー、RDU 105

レポジトリ ビュー ツリー、RDU 106

ろ

ローカル ホスト インストレーション 15

ログ ファイル 27、44、53、112